

藤原京右京十条三・四坊

—平成 30 年度発掘調査報告書—



2020

公益財団法人 元興寺文化財研究所

藤原京右京十条三・四坊

—平成 30 年度発掘調査報告書—

2020

公益財団法人 元興寺文化財研究所



調査区全景（南から）



1-A 区第 2 遺構面全景（上が北）

序

日本で初めて本格的な都城制を敷いた藤原京は、持統天皇8年（694）に飛鳥の地から遷されました。大和三山を取り込んだ南北約4.8km、東西約5.2kmの範囲の中央に藤原宮がおかれて、東西南北に碁盤目状の道路が張り巡らされました。道路は藤原京の構造を示し、人々の往来や都市の流通を支える重要な存在です。現在は、多くが地下遺構として埋没しているため、発掘調査の蓄積と研究によって史料には描かれない藤原京の実像が明らかにされてきました。

今回の調査地は本業師寺跡の約450m南にあり、調査によって約90mにわたる道路跡が確認されました。このような距離での道路跡の発見は、藤原京の大規模な造営工事の一端を伺うことができる貴重な成果となりました。また、弥生時代後期と考えられる水田の発見は、人の営みの連続性が垣間見え、調査地の一带には水田風景が広がっていたことが分かります。

発掘調査によっていくつかの課題も明確になりました。その課題は、今後周辺で行われる調査に引き継がれることと思います。調査成果の蓄積によって、藤原京の実態に迫っていくことに期待いたします。

最後になりましたが、発掘調査から整理報告書刊行に至るまで、全面的にご協力いただきました関係各位に深く御礼を申し上げます。

令和2年3月31日

公益財団法人 元興寺文化財研究所
理事長 辻村泰善

例言

1. 本書は藤原京右京十条三・四坊において、宅地造成に先立ち実施した発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 調査地は奈良県橿原市城殿町 477、478、479、480-1、480-2、481、482、483-1、484、485、487 番地および栄和町 69、70-1、71、72、73-1、74-1、75、76-1 番地に所在し、開発面積 17,429.17 m² のうち調査対象面積は 1,476 m² である。
3. 調査は株式会社井上地所より委託を受けた公益財団法人元興寺文化財研究所が行い、平成 30 年 3 月 19 日～同年 6 月 22 日を現地調査、同年 6 月 23 日～令和 2 年 3 月 31 日を整理期間とした。
4. 発掘調査は坂本俊、佐藤亜聖、村田裕介（公益財団法人元興寺文化財研究所）が担当し、武田浩子（公益財団法人元興寺文化財研究所）、川島行彦（奈良大学大学院生）、吉田芽依（天理大学卒業生）、税田脩介、中原七葉子（奈良大学学生）、出井和真（龍谷大学学生）が補佐した。
5. 調査地の座標および基準点測量は、公益財団法人元興寺文化財研究所が実施し、株式会社文化財サービスが分担した。
6. 発掘調査における重機等の土工部門については有限会社ワーカーと吉田重機が分担して担当した。
7. 遺構写真撮影は坂本が、遺物写真撮影は大久保治（公益財団法人元興寺文化財研究所）が担当した。
8. 出土遺物の実測および浄書は仲井光代、武田、芝 幹（公益財団法人元興寺文化財研究所）、上井佐妃（京都府立大学大学院生）、川島、吉田、税田、中原、三井淳（奈良大学学生）、出井が行った。
9. 本書に使用した土器の分類、編年、年代観については以下の文献を参照した。本文中で触れる分類名、年代表記はこれらに依拠している。

奈良国立文化財研究所 1978『飛鳥・藤原宮発掘調査報告』II 奈良国立文化財研究所学報第 31 冊

奈良文化財研究所 2017『飛鳥・藤原宮発掘調査報告』V 奈良文化財研究所学報第 94 冊

尾上実・森島康雄・近江俊秀 1995『瓦器』『概説中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 真陽社

奈良市教育委員会 2014『南都出土中近世土器資料集－奈良町高天町遺跡（HJ 第 559 次調査）出土資料－』

10. 発掘調査および整理報告書作成にかかる費用については、株式会社井上地所が全額負担した。
11. 当該調査において出土した遺物、実測図、写真は橿原市教育委員会において保管している。
12. 本書の執筆は第 4 章を株式会社パレオ・ラボ、そのほかを坂本が執筆した。本書の編集は坂本が行い、芝がこれを補佐した。
13. 発掘調査及び報告書作成に際しては、以下の方々、機関からのご助言、ご協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

橿原市教育委員会、奈良県教育委員会、株式会社パレオ・ラボ、重見泰、平岩欣太

（敬称略、順不同）

目次

第1章 調査に至る経緯と調査体制	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査の経過（調査日誌抄）	2
第2章 周辺における既往の調査と課題	3
第3章 調査の成果	5
第1節 調査区の設定と基本層序	5
第2節 包含層出土遺物	5
第3節 中世の遺構と遺物	15
第1項 検出遺構	15
第2項 出土遺物	15
第4節 古代の遺構と遺物	17
第1項 検出遺構	17
第2項 出土遺物	26
第5節 古代以前の遺構	37
第6節 素掘溝出土遺物（古代以前）	39
第4章 自然科学分析	42
第5章 調査のまとめ	43
第1節 遺構の変遷	43
第2節 西三坊大路について	43

図版目次

図 1 今回 の調査地と既往の調査地 (S=1/4,000)	3
図 2 周辺の遺跡 (S=1/25,000)	4
図 3 トレンチ配置図	5
図 4 包含層出土遺物実測図 (S=1/3)	5
図 5 1-A 区第1 遺構面全体図 (S=1/200)	6
図 6 1-A 区第2 遺構面全体図 (S=1/200)	7
図 7 1-B 区第1 遺構面全体図 (S=1/200)	8
図 8 1-B 区・2 区第1 遺構面全体図 (S=1/200)	9
図 9 壁面土層断面図 (1) (S=1/80)	11
図 10 壁面土層断面図 (2) (S=1/80)	12
図 11 壁面土層断面図 (3) (S=1/80)	13
図 12 壁面土層断面図 (4) (S=1/80)	14
図 13 素掘溝出土遺物実測図 (S=1/3)	15
図 14 SB260 平面・土層断面図 (S=1/40)	16

図 15	SB280 平面・土層断面図 (S=1/40).....	17
図 16	SB265 平面・土層断面図 (S=1/40).....	18
図 17	SB275 平面・土層断面図 (S=1/40).....	19
図 18	SP075 平面・土層断面図 (S=1/40).....	19
図 19	SF500、SD100・105・200 平面図 (S=1/200).....	20
図 20	SD100・105 土層断面図 (S=1/40).....	21
図 21	SE165 平面・土層断面図 (S=1/40).....	22
図 22	SK060 平面・土層断面図 (S=1/40).....	23
図 23	SK180 平面・土層断面図 (S=1/40).....	23
図 24	SK195 平面・土層断面図 (S=1/40).....	24
図 25	SK070 平面・土層断面図 (S=1/40).....	25
図 26	SK120 平面・土層断面図 (S=1/40).....	25
図 27	SX205 平面図 (S=1/80).....	25
図 28	SB260 出土遺物実測図 (S=1/3).....	27
図 29	SB265・275・280 出土遺物実測図 (S=1/3).....	28
図 30	SP045・075・085・282・523 出土遺物実測図 (S=1/3).....	28
図 31	SD100 出土遺物実測図 (S=1/3).....	29
図 32	SD105 出土遺物実測図 (1) (S=1/3).....	31
図 33	SD105 出土遺物実測図 (2) (S=1/3).....	32
図 34	SE165 出土遺物実測図 (S=1/3).....	33
図 35	SK060 出土遺物実測図 (S=1/3).....	34
図 36	SK070・120・180・190・195 出土遺物実測図 (S=1/3).....	36
図 37	SX205 出土遺物実測図 (S=1/3).....	37
図 38	SD200・215 土層断面図 (S=1/40).....	38
図 39	素掘溝出土遺物実測図 (1) (S=1/3).....	40
図 40	素掘溝出土遺物実測図 (2) (S=1/3).....	41
図 41	藤原京右京十条三・四坊出土の動物遺体.....	42
図 42	西三坊大路推定東西側溝の位置関係 (S=1/800).....	44
図 43	1-A 区第 1 遺構面遺構配置略図 (1) (S=1/200).....	49
図 44	1-A 区第 1 遺構面遺構配置略図 (2) (S=1/200).....	50
図 45	1-A 区第 2 遺構面遺構配置略図 (S=1/200).....	51
図 46	1-B 区第 1 遺構面遺構配置略図 (1) (S=1/200).....	52
図 47	1-B 区・2 区第 1 遺構面遺構配置略図 (2) (S=1/200).....	53

表目次

表 1 藤原京右京十条三・四坊出土の動物遺体	42
表 2 報告遺物一覧（1）	55
表 3 報告遺物一覧（2）	56
表 4 報告遺物一覧（3）	57
表 5 報告遺物一覧（4）	58
表 6 報告遺物一覧（5）	59
表 7 検出遺構および出土遺物一覧（1）	60
表 8 検出遺構および出土遺物一覧（2）	61
表 9 検出遺構および出土遺物一覧（3）	62
表 10 検出遺構および出土遺物一覧（4）	63
表 11 検出遺構および出土遺物一覧（5）	64
表 12 検出遺構および出土遺物一覧（6）	65
表 13 検出遺構および出土遺物一覧（7）	66
表 14 検出遺構および出土遺物一覧（8）	67

写真図版目次

卷頭図版 1	図版 6
調査区全景（南から）	SB260d 土層断面（東から）
卷頭図版 2	SB260e 土層断面（東から）
1-A 区第 2 遺構面全景（上が北）	図版 7
図版 1	SB260f 土層断面（東から）
1 区調査前風景（北西から）	SB265 全景（北から）
1-A 区全景（南から）	図版 8
図版 2	SF500 全景（南から）
1-B 区西全景（南から）	SD100 馬骨出土状況（南から）
1-B 区南全景（西から）	図版 9
図版 3	SD100 土層断面（南から）
1-B 区東全景（南から）	SD105 土層断面 a-a'（南から）
2 区全景（東から）	図版 10
図版 4	SD105 土層断面 b-b'（南から）
SB260 全景（東から）	SE165 全景（北から）
SB260a 土層断面（東から）	図版 11
図版 5	SE165 土層断面（北から）
SB260b 土層断面（東から）	SK060 土層断面（南から）
SB260c 土層断面（東から）	

図版 12

SK070 土層断面（南から）

SK120 土層断面（西から）

図版 13

SK180 土層断面（北東から）

SD200 土層断面 b-b'（南から）

図版 14

SD200 土層断面 c-c'（西から）

SD215 土層断面（西から）

図版 15

1-A 区第2面全景（南西から）

第2遺構面水田畦畔検出状況（北から）

図版 16

第2遺構面足跡検出状況（西から）

1-B 区調査後風景（東から）

図版 17

SD194、SB260 出土遺物

図版 18

SB260・265 出土遺物

図版 19

SB275・280、SP045、SD100 出土遺物

図版 20

SD100 出土遺物

図版 21

SD100・105 出土遺物

図版 22

SD105、SE165 出土遺物

図版 23

SE165、SK060 出土遺物

図版 24

SK060・180・190・195 出土遺物

図版 25

SK070・120 出土遺物

図版 26

SX205 出土遺物

図版 27

素掘溝出土遺物

図版 28

素掘溝出土遺物

第1章 調査に至る経緯と調査体制

第1節 調査に至る経緯

平成27年3月26日付で株式会社井上地所より宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の届出が提出された。これを受けて同年4月20日に奈良県教育委員会は当地が藤原京の範囲であることから、橿原市教育委員会へ発掘調査の実施を指示、同年4月22日から30日にかけて橿原市教育委員会が試掘調査を実施し、敷地内に設定したトレンチの地表下標高58.322mにおいて遺構を確認した。この結果を受けて橿原市教育委員会は発掘調査の実施に向けた協議を開始した。

しかし、工期を勘案した結果、橿原市教育委員会では発掘調査は困難と判断されたため、公益財團法人元興寺文化財研究所へ発掘調査を依頼することとなった。依頼を受けた公益財團法人元興寺文化財研究所は、平成30年2月13日、藤原京右京十条三・四坊の発掘調査業務に係る委託契約を株式会社井上地所と締結、同年2月16日に発掘調査届出を提出のうえ、同年3月19日より現地調査を開始した。

現地調査は、株式会社井上地所の全面的な支援・協力と奈良県教育委員会、橿原市教育委員会からの適切なご指導のもと平成30年6月22日に終了し、その後すみやかに整理・報告書作成業務に移行した。

第2節 調査体制

発掘調査並びに整理・報告書作成は以下の体制で実施した。

調査指導：橿原市教育委員会文化財課

調査主体：公益財團法人元興寺文化財研究所

理事長　　辻村泰善

所　長　　辻村泰善（兼務）

副所長　　荻川真一

事務局長　江島和哉

総合文化財センター長　塙本敏夫

文化財調査修復研究グループ

リーダー　金山正子

主　務　角南聰一郎

主任研究員　佐藤亜聖

研究員　村田裕介　坂本　俊（現地調査・整理報告担当）

嘱託研究員　税田脩介（平成31年4月から）

現地作業員：有限会社ワーク

測　　量：公益財團法人元興寺文化財研究所、株式会社文化財サービス

第3節 調査の経過（調査日誌抄）

平成30年

- 3月19日（月） 資機材の搬入。樋原市教育委員会の立会いのもと調査区を設定する。
- 3月20日（火） フェンス設置等周辺整備。降雨により半日作業。
- 3月21日（水） 重機掘削開始。
- 3月26日（月） 遺構検出開始。
- 3月27日（火） 北から南にかけて緩やかに傾斜していることを確認。試掘トレンチを再検出。地区杭およびベンチマークの設定を行う。
- 3月29日（木） 重機掘削完了。
- 4月6日（金） 1-A区の第1遺構面遺構検出完了。検出状況の写真撮影を行い素掘溝の掘削を開始する。
- 4月19日（木） 素掘溝からは古代までの遺物が多量に混入していたが、やや西に振れるSD194から瓦器椀の出土が見られ、年代の絞り込みができる。
- 5月18日（金） SD100・105の掘削を開始する。試掘調査の成果も含め、両遺構は西三坊大路の東西の側溝であると判断した。遺物の出土量はSD105が概して多い。
- 5月21日（月） SD100・105のセクション断面図作成。SK080の掘削。
- 5月22日（火） 1-B区西側～南側トレンチでは東壁で検出されていたSD100の延長を掘削する。遺物の出土量は少ない。
- 5月25日（金） 1-B区南側トレンチでSD105の延長を掘削する。ここで、1-A区から続く西三坊大路を再検出し、SD100は総延長約88m、SD105では総延長約36mが本調査で確認された。2区の水抜きを行い、作業準備に取り掛かる。
- 5月28日（月） 2区の素掘溝、SK120の掘削を行う。浅い土坑であったが、古代の遺物が多量に出土した。
- 6月1日（金） 1区第1遺構面の全景写真撮影と空撮を行った。
- 6月5日（火） 1-A区SB260の完掘写真を撮影した。2区精査・全景撮影。
- 6月9日（土） 1-A区第2遺構面の遺構検出を行い、水田跡に伴う畦畔を検出した。
- 6月11日（月） 1-A区水田跡の畦畔を引き続き検出し、同区南方では落ち込みを確認。
- 6月12日（火） 1-A区東半南側の粗砂を掘削し、大畦畔を検出する。水田の埋土からは遺物の出土は認められなかった。
- 6月13日（水） 1-A区水田跡の掘削を引き続き行う。大畦畔以北は北に向かって緩やかに傾斜し、足跡が無造作に分布することが分かった。遺物の出土は見られない。
- 6月18日（月） 遺構掘削完了。1-A区第2遺構面の全景写真撮影と空撮を実施。調査区壁面は、調査期間を踏まえてオルゾ画像による写真測量で対応した。1-B区は埋め戻しを開始する。
- 6月22日（金） 1-A区の埋め戻しと撤収作業を終え、現場を終了した。

第2章 周辺における既往の調査と課題

既往の調査 調査地は樅原市城殿町 477、478、479、480-1、480-2、481、482、483-1、484、485、487 番地および栄和町 69、70-1、71、72、73-1、74-1、75、76-1 番地に位置する。藤原京内の南西部に位置し、条里呼称においては高市郡路東二十八条一里十三坪・十四坪、小字名は横枕・敷井手である。調査地の北方には本薬師寺、北東には瀬田遺跡が位置しており、藤原京西三坊大路および十条条間路の検出が想定される（図1・2）。

これまで、藤原京右京十条四坊内では、奈良国立文化財研究所や奈良県立樅原考古学研究所による調査が行われており、本調査地とも隣接する。藤原京第60-3次調査（以下、奈文研60-3次）では藤原京期の掘立柱建物1棟、掘立柱塀4枚（うち東西方向3、南北方向1）、井戸2基、調査区南端では古墳時代の流路が検出されている。調査区南半部に設けられた下層トレンチでは、水田遺構が検出されている。大畦畔は調査区北西から南東にS字を呈し、その東西に8枚分の水田が確認された。水田の時期については、大畦畔から出土した遺物から弥生時代後期であると考えられている（奈文研1990・1991）。

その後、奈文研60-3次調査の北・西隣接地で行われた発掘調査（樅考研1990）では、藤原京期の桁行四間・梁行二間の掘立柱建物と縦板組井戸、それ以前の遺構では2棟の掘立柱建物と河道が検出されている。河道は奈文研60-3次調査における流路の延長であると考えられ、洪水による砂礫層で一挙に埋没している状況であった。出土遺物の大半は弥生時代後期のものであるが、須恵器片も少量含まれることから、埋没時期は6世紀後半以降に推定されている。また、下層では、奈文研60-3次調査の下層遺構に対応する計18枚の水田が検出されている。しかし、足跡や植株痕、遺物の出土もなかったことから、年代的な位置づけはなされていない（入倉1991）。

条坊道路の評価 条坊道路に関しては、十条条間路が第60-3次調査において検出が想定されたものの、東西塀が確認されたのみで明確な遺構は検出されなかった。その後、この東西塀の一つは藤原京第66-6次調査の成果から、坪の外周を画する塀であると評価された（奈文研1992）。

一方、西三坊大路は本薬師寺1975年度調査（奈文研1976）、1993-2次調査（奈文研1994）、1994-3次調査3区（奈文研1996）、1995-2次調査（奈文研1997）、藤原京第88次調査（奈文研1998）、および藤原京右京一条三坊・同一条四坊発掘調査（今尾1996）、藤原京右京十一・十二条三坊発掘調査（樅教委2011-1次調査）で確認されている（平岩・石坂2012）。しかし、東側溝に関しては、本薬師寺1994-3次調査と右京一条三・四坊の調査成果から北



図1 今回の調査地と既往の調査地 (S=1/4,000)

で西に約25' 振れることが明らかになっているが、西側溝の位置は場所によって異なっており、そのため西三坊大路の道路幅が未だ確定していないのが現状である。西三坊大路は、本薬師寺の寺域との兼ね合いも考える必要があり、通常7~8mとなる奇数大路の道路幅とは異なる規模の道路が施工されていた可能性もある（奈文研1998）。

なお、西側溝の位置については、そもそも遺構認定に問題があるとの指摘があるものの（奈文研1997）、これまでに明らかにされている東西両側溝の心心距離は6.5m（奈文研1997）、8.3m（今尾1996、奈文研1994・1996）、約14m（奈文研1998）、15.2m（奈文研1976）、17m（奈文研1987）である。**本調査における課題** 今回の発掘調査では、こうした既往の調査成果と評価を踏まえ、坪内の遺構の確認、下層における水田遺構の範囲と時期の確認、および規模が確定していない西三坊大路と十条条間路の側溝の確認などを課題として設定した。

《参考文献》

- 今尾文昭 1996 「藤原京右京一条三坊、同一条四坊発掘調査報告書-西三坊大路の調査-」『奈良良祖遺跡調査報』1995年度(第2分冊)、奈良県立橿原考古学研究所

人曾德裕 1991 「藤原京右京十条四坊」『奈良良祖遺跡調査報』1990年度(第2分冊)、奈良県立橿原考古学研究所

奈良国立文化財研究所 1976 「本薬師寺西南隅の調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』6

奈良国立文化財研究所 1987 「古二条二坊、三坊の調査(第45-10、11次)」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』17

奈良国立文化財研究所 1990 「古右京十条四の調査(第60-3次)」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』18

奈良国立文化財研究所 1991 「藤原京跡の樂器調査」『奈良国立文化財研究所年報1990』

奈良国立文化財研究所 1992 「右京十条四坊の調査(第66-6次)」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』22

奈良国立文化財研究所 1994 「本薬師寺の調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』24

奈良国立文化財研究所 1996 「本薬師寺の調査」『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』26

奈良国立文化財研究所 1997 「本薬師寺の調査-1995.1・2・3次、1996.1次、本薬師寺出土の瓦」『奈良国立文化財研究所年報1997-Ⅱ』

奈良国立文化財研究所 1998 「藤原京右京三条、四坊の調査-8次」『奈良良祖立文化財研究年報1998-Ⅱ』

平岩欣太 1996 「藤原京右京十条四坊(第3次)」『かしらはの歴史をさぐる41 平成7年度橿原文化財発掘調査報』、橿原市千塚資料館

平岩欣太、石坂政太 2012 「藤原京右京一条一坊、十二条三坊、右京三条坊、右京四条坊」、橿原市教育委員会

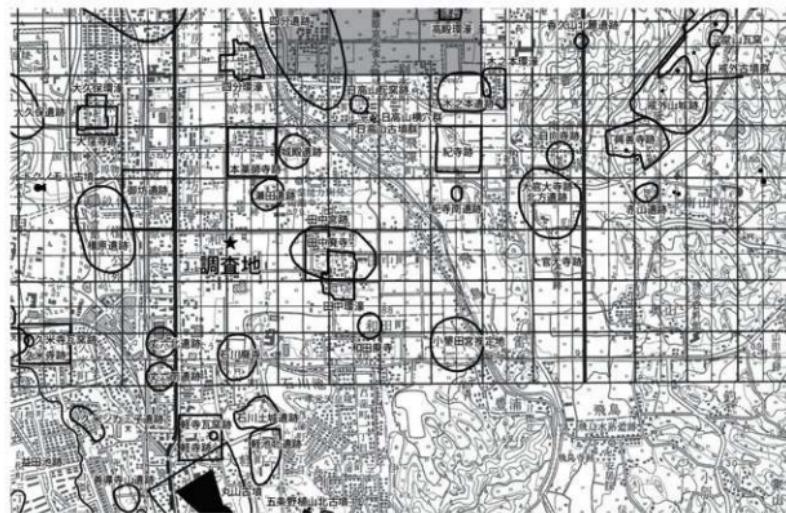


図2 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

第3章 調査の成果

第1節 調査区の設定と基本層序 (図3・5～12)

調査区は、試掘調査の結果をもとに宅地造成の影響が及ぶ開発対象地に二か所のトレンチを設定した(図3)。トレンチは北から1区、2区と呼称し、1区については調整池と道路部分に相当する広域のトレンチになるため、1-A区と1-B区に分けて記述する。

基本層序は、現地表面から厚さ約20cmの旧耕作土、厚さ約8cmの近世～近代耕作土、厚さ約20cmの遺物包含層である明橙色中粒砂で構成され、1区の一部では厚さ約10cmの藤原京期の整地土と考えられる褐色土が確認される。明橙色中粒砂を除去した標高約75.8mの明赤褐色中粒砂上面が第1遺構面である。明赤褐色中粒砂は、地点によって約50cm堆積している部分もあり、ラミナの形成と複数の堆積に分けられることから、洪水に伴って調査地一帯に広く堆積した洪水砂であると考えられる。

第1遺構面を形成する褐色土および明赤褐色中粒砂を除去すると、にぶい黄褐色を呈する粘土となり、この上面を第2遺構面と認定した。標高は約75mで、排水用の側溝で観察された堆積状況から南に向かって緩やかに傾斜する。遺物の出土は見られなかったものの、周辺の調査成果から弥生時代後期と判断される。なお、調査期間に制約があったため、調査は1-A区のみで実施した。

第2節 包含層出土遺物 (図4)

土師器III (1) 浅黄橙色の胎土を有し、内外面ともナデ調整を施す。体部から底部にかけて弱いユビオサエ痕が残る。17世紀のものである。

瓦質土器擂鉢 (2) 口縁部外面に横方向のハケ調整、その後体部にかけて縦方向のハケ調整を施す。擂目は確認できないが、内面はナデ調整する。17世紀のものである。

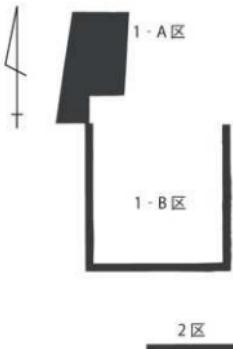


図3 トレンチ配置図

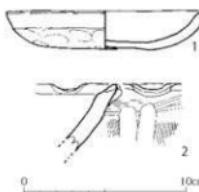


図4 包含層出土遺物実測図 (S=1/3)

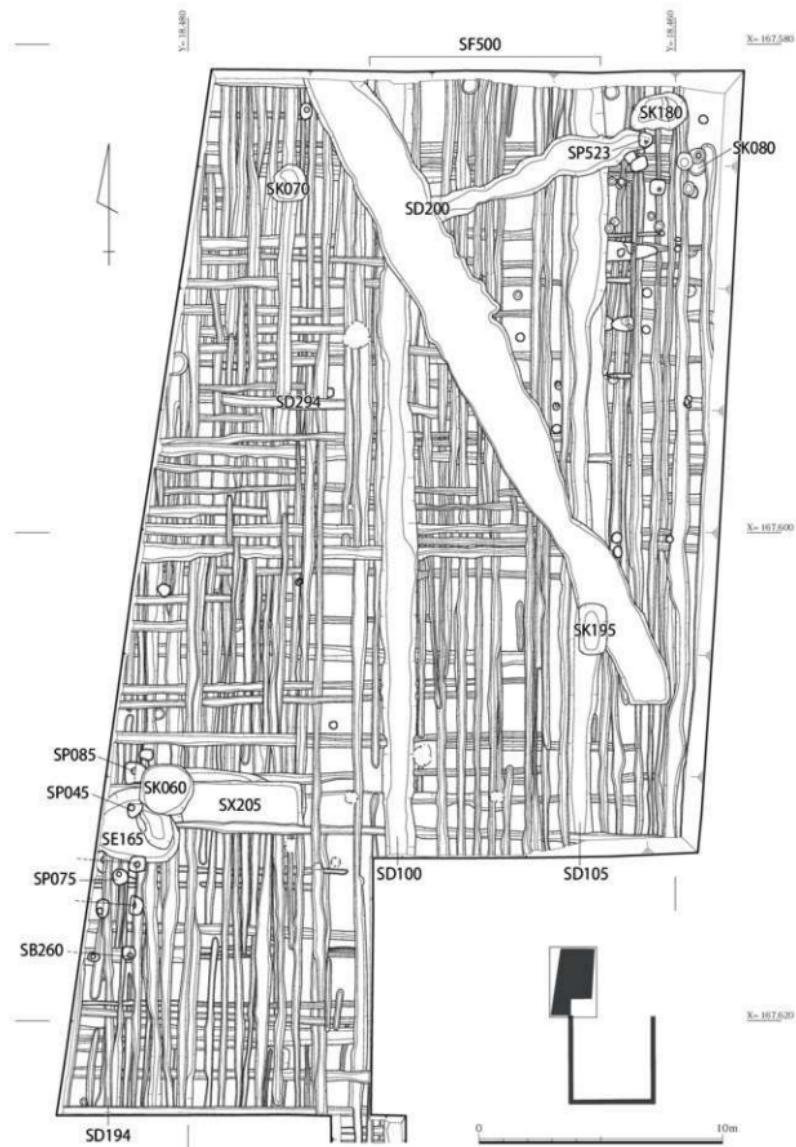


図5 1-A区第1遺構面全体図 (S=1/200)



図 6 1-A 区第 2 遺構面全体図 (S=1/200)

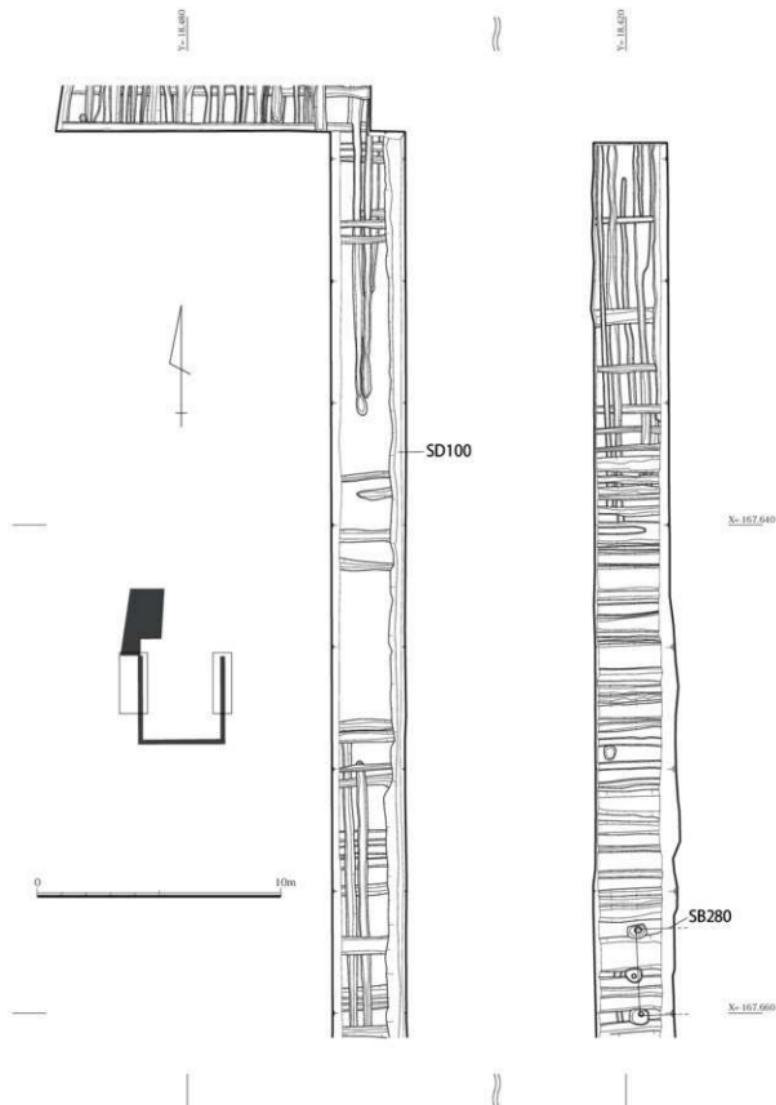


図 7 1-B 区第 1 遺構面全体図 (S=1/200)

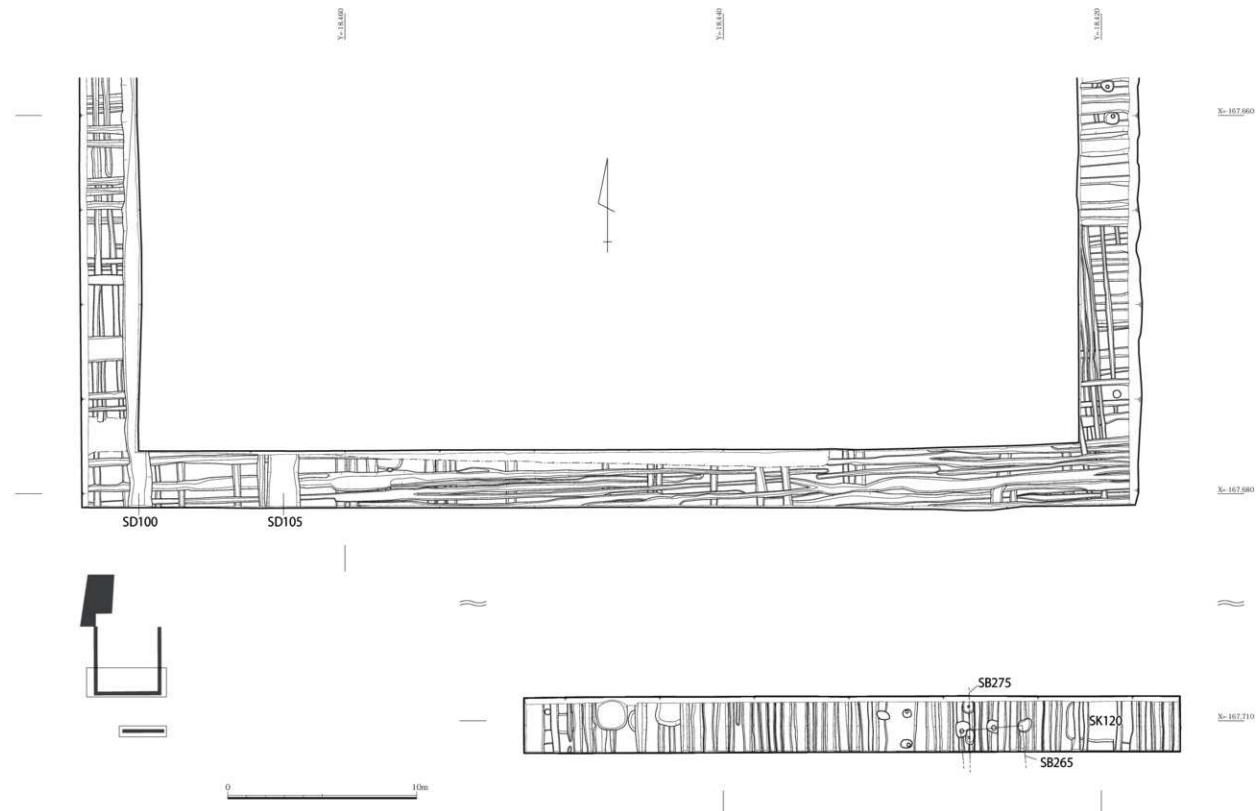
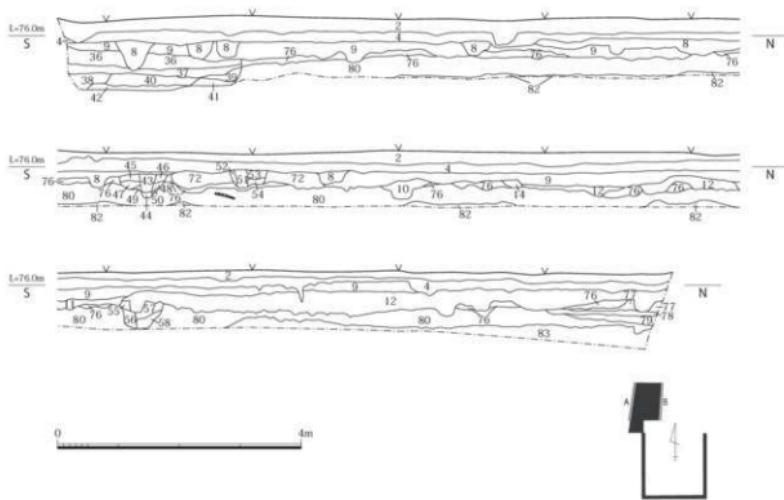


図 8 1-B 区・2 区第 1 遺構面全体図 (S=1/200)

A:1区西壁



B:1 区東壁

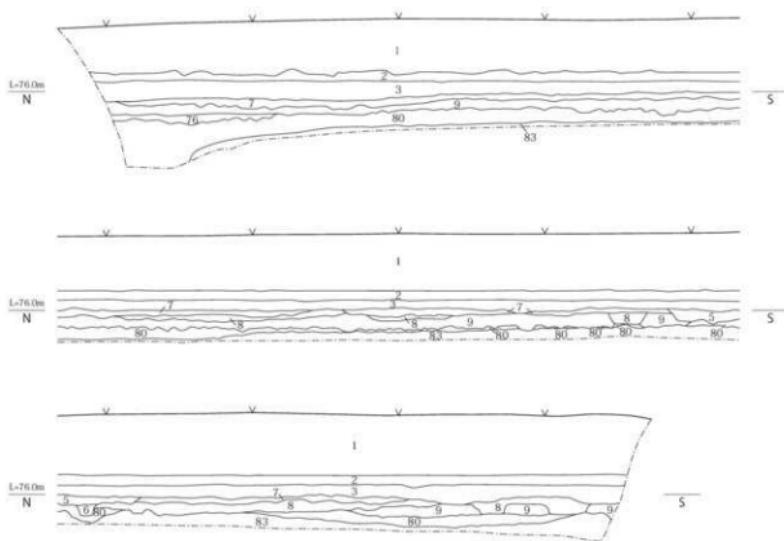
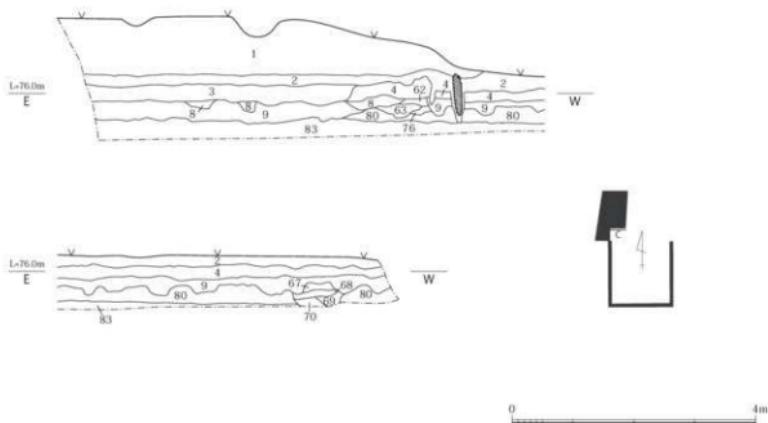


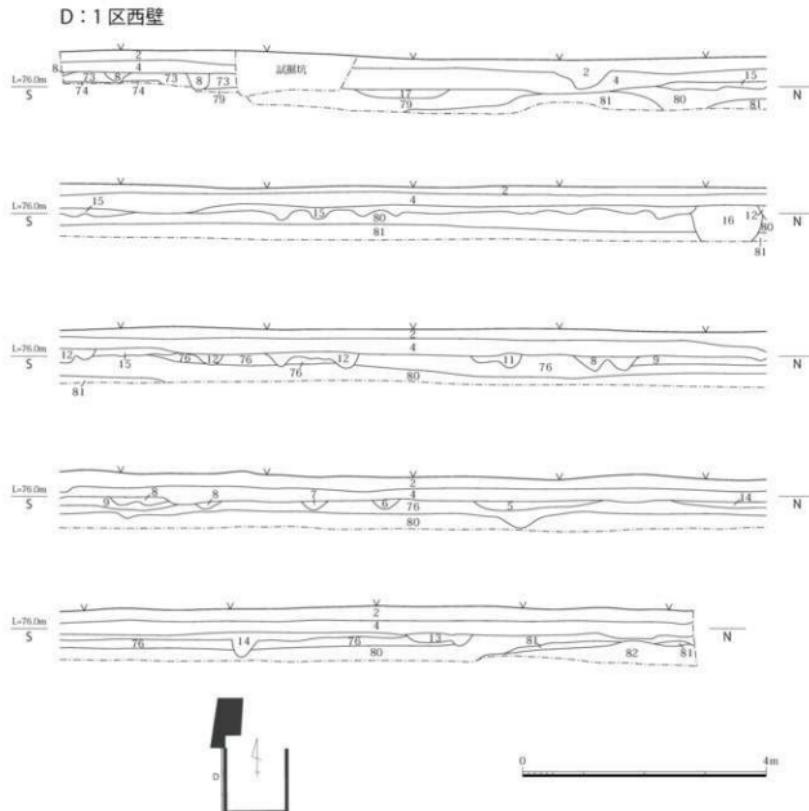
図9 壁面土層断面図(1) (S=1/80)

C:1区南壁



1. 浅黄粘 10YR8/4 粘土
2. 黑 5Y7/1 粘质土 (部分的に灰オーリーブ粘质土 5Y6/2 の床土あり)
(現代耕作土)
3. 灰オーリーブ 5Y4/2 粗粒砂
4. にぶ~黄 5Y6/3 粘质土 (径2~5mmの礫を含む) (中・近世耕作土)
5. 黄灰 10YR8/1 粘土 (明黄灰 10YR8/6 粗粒砂を含む) (素掘溝)
6. 黄灰 2.5Y6/1 粘土に灰白 2.5Y8/2 和輪砂が隙に混じる (素掘溝)
7. 灰 2.5Y5/1 粘土に黄粘 10YR7/8 粗粒砂が隙に混じる (素掘溝)
8. 黄灰 2.5Y6/1 粘土に明黄灰 2.5Y7/6 粗粒砂が隙に混じる (素掘溝)
9. 明黄粘 10YR8/6 粘土に灰灰 10YR8/1 粗粒砂が隙に混じる (素掘溝)
10. 灰 5Y6/1 粘土に浅黄 2.5Y7/4 粗粒砂が隙に混じる (素掘溝)
11. 灰 5Y5/1 粘土に明黄粘 10YR7/8 粘质土が隙に混じる (土隙片、径2~4mmの小礫を含む) (素掘溝)
12. 灰 2.5Y6/2 粘土に黄粘 10YR7/8 粘质土が隙に混じる (灰 5Y6/1 粗粒砂を含む) (素掘溝)
13. 灰黄粘 10YR6/2 粘土ブロックが隙に混じる 10YR6/1 中粒砂 (0.5~4mm程度)
に混じる (素掘溝)
14. 灰灰 10YR6/1 中粒砂
15. 黄灰 2.5Y6/1 粘土に浅黄 2.5Y7/4 粘质土が隙に混じる (素掘溝)
16. 黄灰 2.5Y6/1 粘质土 (明黄粘 10YR6/6 粘质土が隙に混じる) (素掘溝)
17. 灰白 2.5Y7/1 中粒砂に灰オーリーブ 5Y6/2 ブロックが隙に混じる (素掘溝)
18. 灰 5Y6/1 粘土 (素掘溝)
19. 青灰 10BG5/1 粘土 (素掘溝)
20. 灰 N6.0 粘土に灰白 2.5Y7/1 中粒砂が隙状に入れる (素掘溝)
21. にぶ~黄 2.5Y6/4 粘质土 (径1~5mm程度の小礫が入る) (近・現代耕作土)
22. 明黄粘 2.5Y7/6 粘质土に灰白 2.5Y7/1 粘质土が隙に混じる (径1~3mm
の小礫を含む) (近・現代耕作土)
23. 灰 5Y6/1 粘土に浅黄 2.5Y7/4 粘质土が隙に混じる (素掘溝)
24. 黄灰 2.5Y6/1 粘质土に浅黄 5Y7/4 粘土ブロックが隙に混じる (素掘溝)
25. 黄灰 2.5Y6/1 粘土 (素掘溝)
26. 黄粘 10YR5/6 粘质土に灰白 2.5Y7/1 粘土がブロック状に混じる (素掘溝)
27. 灰 2.5Y7/1 粘土に灰白 10YR7/1 中粒砂が隙に混じる (素掘溝)
28. 灰白 2.5Y7/1 粘质土に明黄粘 10YR8/8 粗粒砂が隙に混じる (素掘溝)
29. 灰白 N7/0 中粒砂 (7層が隙状に入る) (素掘溝)
30. 灰灰 10YR6/1 粘质土に灰白 10YR8/1 粗粒砂、オリーブ灰 5Y6/3 粘质土ブ
ロックが隙じる (素掘溝)
31. 黄粘 2.5Y7/8 シルト (7層が隙層として帯状に入る) (素掘溝)
32. 灰白 2.5Y7/1 中粒砂 (7層が隙層として帯状に入る) (素掘溝)
33. 灰白 2.5Y7/1 粘土に明黄粘 10YR7/6 粘质土が隙に混じる
34. 灰白 2.5Y7/1 中粒砂に明黄粘 2.5Y6/6 粘质土が隙に混じる (素掘溝)
35. 灰白 2.5Y7/1 粗粒砂に明黄粘 2.5Y6/6 粘质土が隙に混じる (素掘溝)
36. 灰灰 10YR6/1 粘土に明黄粘 5Y6/5 粘质土と明黄粘 10YR6/6 粗粒砂が隙
に混じる (炭化物、土隙片を含む) (SK165)
37. 灰灰 10YR6/1 中粒砂に粗 7.5YR6/6 中粒砂と灰白 2.5Y7/1 粘土が隙に混
じる (SK165)
38. 7層に灰 5Y6/1 粘土ブロックが隙に混じる (SK165)
39. 灰灰 2.5Y6/1 粘土に明黄粘 10YR6/8 中粒砂が隙状に入れる (径5mmの小礫
を含む) (SK165)
40. 灰灰 10YR6/1 中粒砂に粗 7.5YR6/6 と灰白 2.5Y7/1 粘土が隙に混じる
(SK165)
41. 灰灰 2.5Y6/1 粘土 (7層のブロックを含む) (SK165)
42. 80層に灰黄 2.5Y5/1 粘土が隙に混じる (一部はブロック状をなす) (SK165)
43. 灰灰 2.5Y6/1 粘质土に粗 7.5YR4/6 粘质土ブロックが隙に混じる (炭化物、土
隙片を含む)
44. 灰 5Y6/1 梅細粒砂
45. 灰灰 10YR5/6 粘土に灰白 10YR7/1 中粒砂が隙状に入れる
46. にぶ~黄 2.5Y6/4 粘质土に浅黄 2.5Y8/3 和輪砂が隙状に入れる
47. にぶ~黄粘 10YR6/4 粘土に明黄粘 10YR6/6 粘质土がブロック状に入れる
48. 灰白 2.5Y7/1 中粒砂に明黄粘 10YR6/8 粘质土ブロックが入る (炭化物を
含む)
49. にぶ~黄粘 10YR6/3 粘质土に灰白 2.5Y7/1 中粒砂が隙に混じる
50. 灰白 2.5Y7/1 中粒砂
51. 灰灰 2.5Y6/1 粘土に粗 7.5YR7/6 粘质土が隙に混じる
52. 灰灰 10YR5/1 粘土に黄粘 10YR5/8 粘质土が隙に混じる
53. 灰灰 2.5Y6/1 粘质土
54. 明灰 7.5YR5/6 粘质土 (1~4mmの小礫を含む)
55. 明黄粘 10YR7/6 粘质土に黄粘 10YR8/8 粗粒砂が隙に混じる
56. にぶ~黄粘 10YR5/3 粘土に灰白 2.5Y7/1 粗粒砂が隙に混じる

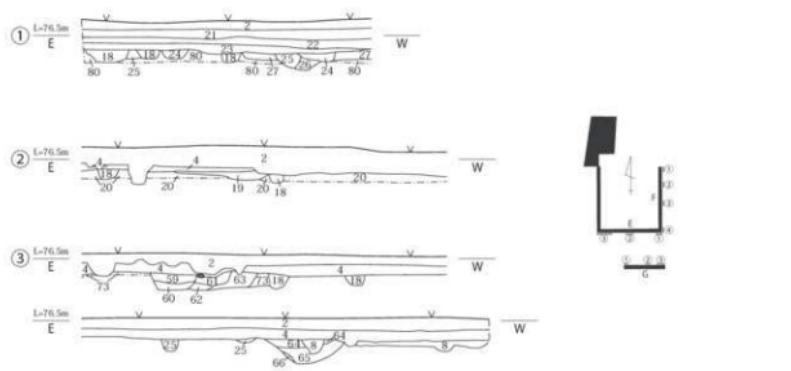
図 10 壁面土層断面図 (2) (S=1/80)



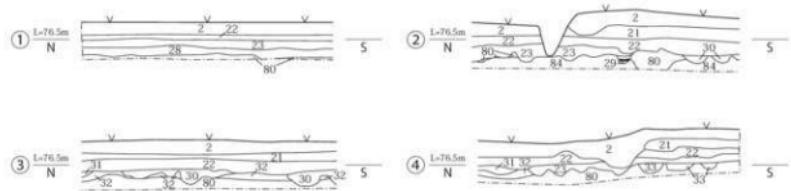
57. に、ぶい黄鐵 10YR6/4 中粒砂に灰白 10YR7/1 中粒砂が隙に混じる
 58. に、ぶい黄鐵 10YR6/4 中粒砂に、ぶい黄鐵 10YR5/3 粘土ブロックが混じる
 59. 灰白 10YR7/1 粘土に灰白 5Y7/1 極細粒砂を帯状に入る (SD105)
 60. 灰灰 2.5Y6/1 粘土に明黄褐 10YR6/8 粘質土が隙に混じる (SD105)
 61. 灰褐 7.5YR6/1 粘質土に 7.5YR6/6 中粒砂が隙に混じる (SD105)
 62. 棕 7.5YR6/8 相粒砂 (SD105)
 63. 灰 2.5Y5/1 粘土に明黄褐 10YR6/8 粘土が隙に混じる (SD105)
 64. 灰 10Y6/1 粘質土 (SD100)
 65. 黄灰 2.5Y5/1 粘質土に明黄褐 10YR6/6 粘質土が隙に混じる (SD100)
 66. 灰 7.5Y6/1 粘土に灰白 7.5Y7/1 極細粒砂が帯状に混じる (SD100)
 67. 墓灰黄 2.5Y5/2 極細粒砂混じ中粒砂 (混合物少ない) (SD100)
 68. 墓灰黄 2.5Y4/2 シルト混細粒砂 (しまり強い) (SD100)
 69. 黒褐色 2.5Y3/2 粘土 (しまり強い、土蘚片を含む) (SD100)
 70. 黄灰 2.5Y4/1 シルト混中粒砂 (しまり強い、土蘚片少無含む) (SD100)
 71. 灰 7.5Y5/1 粘土 (土蘚片・炭化物多く含む) (SK120)
- D
- 0 4m
- 整地土 (72-74)
 72. 棕 7.5YR6/8 粘土に灰白 10YR7/1 粗粒砂が隙に混じる
 73. 明黄褐 10YR6/8 粘土に灰灰 10YR6/1 粘土が隙に混じる
 74. 棕 7.5YR6/8 粘土
第1 道構面ベース (75-82)
 75. 灰灰 7.5YR5/1 粘質土に黄灰 2.5Y6/1 粗粒砂が隙に混じる
 76. 明赤褐 5YR5/8 中粒砂混細粒砂 (ウミナ形形成) (洪水堆植物)
 77. 灰白 5Y7/1 シルト (ラミナ形形成) (洪水堆植物)
 78. 灰灰 2.5Y6/1 シルト (ラミナ形形成) (洪水堆植物)
 79. 黄灰 2.5Y7/2 粗粒砂 (洪水堆植物)
 80. 灰灰 2.5Y5/1 中粒砂 (洪水堆植物)
 81. 明黄褐 10YR6/6 シルト (洪水堆植物)
第2 道構面ベース (82-84)
 82. に、ぶい黄鐵 10YR4/3 粘土 (径 1 ~ 2mm の小礫が入る) (水田耕作土)
 83. 从黄褐 10YR5/2 粘土 (水田耕作土)
 84. 黑褐色 10YR3/1 粘土 (水田耕作土)

図 11 壁面土層断面図 (3) (S=1/80)

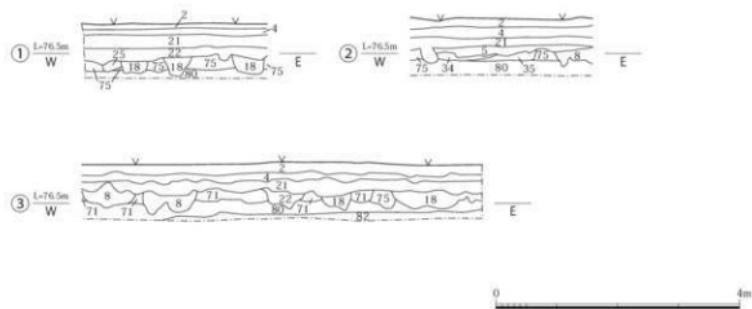
E: 1区南壁



F: 1区東壁



G: 2区北壁

図 12 壁面土層断面図 (4) ($S=1/80$)

第3節 中世の遺構と遺物

第1項 検出遺構

素掘溝

素掘溝は、調査区全体で検出した。特に、1-A 区では非常に複雑な切り合い関係を持っていた。1-A 区では正方位を主体とする一方、1-B 区の南端ではやや角度を振った東西方向と南北方向の溝も認められる。いずれの素掘溝も幅 20 ~ 60 cm、深さ 25 ~ 50 cm を測り、古代の遺構に由来する遺物が多く出土している。南北方向の素掘溝からは土師器皿（10）が、やや西に振れる素掘溝からは瓦器挽（8）が出土していることから、素掘溝は 13 世紀初頭に N-1° 9' -W 方向から正方位に変遷すると見られる。

第2項 出土遺物

素掘溝（図 13、図版 17）

瓦質土器製円板（3） 瓦質土器を円板に再加工したもので、内外面に煤が付着している。表面の劣化が強く、調整は不明である。

土師器皿（4・6・7・10） 4 は、耳皿である。内面から口縁部にかけてヨコナデ調整を施す。底部は未調整である。6 は、にぶい褐色の胎土を持ち、外面下半にナデ調整、内面から口縁部にかけてヨコナデ調整を施す。焼成後と思われる穿孔が体部に確認できる。内外面に煤が付着する。7 は、橙褐色の胎土を持ち、内外面にナデ調整し、口縁部をさらにヨコナデ調整する。底部にはユビオサエ痕を残す。10 は、黄橙色の胎土を持つ。内外面にナデ調整し、口縁部をさらにヨコナデ調整する。底部にはユビオサエ痕を残す。13 世紀後半のものである。

瓦器挽（5・8・12） 5 は、内外面とも表面劣化が強いが、口縁部外面にはヨコナデ調整、口縁部内面には沈線がめぐり、内面に粗い圓線ミガキが認められる。体部外面には、ユビオサエ痕が残る。8 は、外面にはナデ調整を施し、連続したユビオサエ痕が残る。口縁部内面には不明瞭な沈線がめぐり、内面にはやや密な圓線ミガキを施す。見込みには螺旋状暗文が確認できるが、不明瞭である。大和型皿段階 A 型式のものである。12 は、口縁部に沈線を持ち、内面にやや粗い圓線ミガキを施す。外面には弱いユビオサエ痕が残る。大和型皿段階 B 型式のものである。

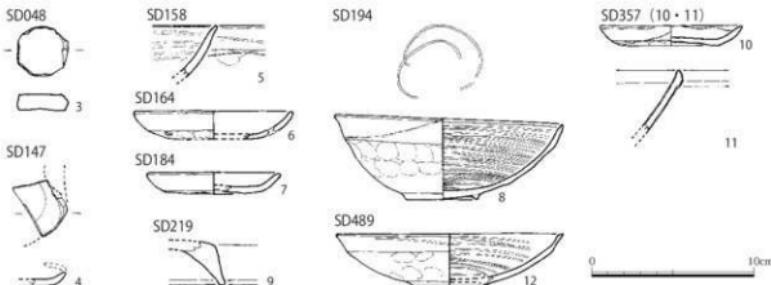
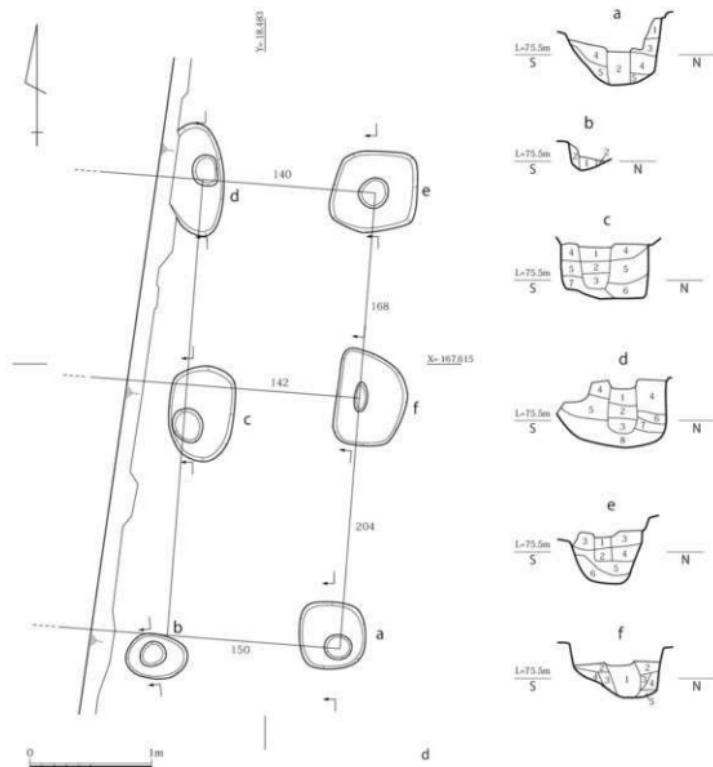


図 13 素掘溝出土遺物実測図 (S=1/3)

**a**

1. 黄灰 2.5Y4/3 シルト混中粒砂（しまり強い）
2. 黄灰 2.5Y4/1 粘土混細粒砂（しまり弱い）
3. 喀灰黄 2.5Y4/2 中粒混中粒砂（しまり強い）
4. 黄 5Y4/1 粘土混中粒砂（しまり強い、土塊片を含む）
5. 黄 5Y4/1 粘土混細粒砂（混合物をあまり含まない）

b

1. 喀灰黄 2.5Y4/2 シルト混中粒砂（しまり強い、10mm程度の混合物）
2. 黄 5Y4/1 粘土混細粒砂（しまり強い、土塊片少含む）

c

1. 喀黄灰 2.5Y4/2 中粒砂混粗粒砂（しまり強い、30mm程度の混合物）
2. 黄 5Y4/1 粘土混粗粒砂（混合物をあまり含まない）
3. 黄灰 2.5Y4/1 細粒砂混粗粒砂（しまり強い）
4. 黄灰 2.5Y4/1 粘土混中粒砂（しまり強い、10mm程度の混合物）
5. 黄 5Y4/1 粘土混中粒砂（しまり強い）
6. 黄灰 2.5Y4/1 シルト混中粒砂（しまり強い）
7. 喀黄灰 2.5Y4/2 中粒砂混粗粒砂（混合物をあまり含まない）

d

1. 黄灰 2.5Y5/1 中粒砂混粗粒砂（炭化物少量含む）

2. 喀オーリープ 5Y4/3 粗粒砂混中粒砂（炭化物少量含む）

3. 喀灰黄 2.5Y5/2 中粒砂混粗粒砂

4. 黄灰 2.5Y5/2 中粒砂混粗粒砂（土塊片、炭化物含む）

5. 黄灰 2.5Y5/1 粗粒砂混中粒砂（壤土、炭化物含む）

6. 喀灰黄 2.5Y4/2 粗粒砂（炭化物少量含む）

7. 黄 2.5Y4/1 中粒砂混粗粒砂

8. 喀オーリープ 5Y4/2 粗粒砂混中粒砂

e

1. 喀 10YR4/6 粗粒砂混中粒砂（炭化物少量含む）

2. 黄灰 2.5Y5/1 粗粒砂混シルト（土塊片、炭化物含む）

3. 黄褐 10YR5/8 中粒砂混粗粒砂（炭化物少量含む）

4. 黄灰 2.5Y4/1 粘土（土塊片、粘土含む）

5. 喀灰黄 2.5Y5/2 粘土（炭化物少量、粘土含む）

6. 喀灰黄 2.5Y4/2 粘土（植物遺体少量含む）

f

1. 黄灰 2.5Y5/1 粗粒砂混中粒砂（炭化物・土塊片少量含む）

2. 黄灰 2.5Y6/2 中粒砂混粗粒砂（炭化物・壤土少量含む）

3. 喀オーリープ 5Y5/2 中粒砂混粗粒砂（炭化物少量含む）

4. 喀 5Y4/1 細粒砂混中粒砂

5. 喀オーリープ 5Y4/2 中粒砂混粗粒砂

図 14 SB260 平面・土層断面図 (S=1/40)

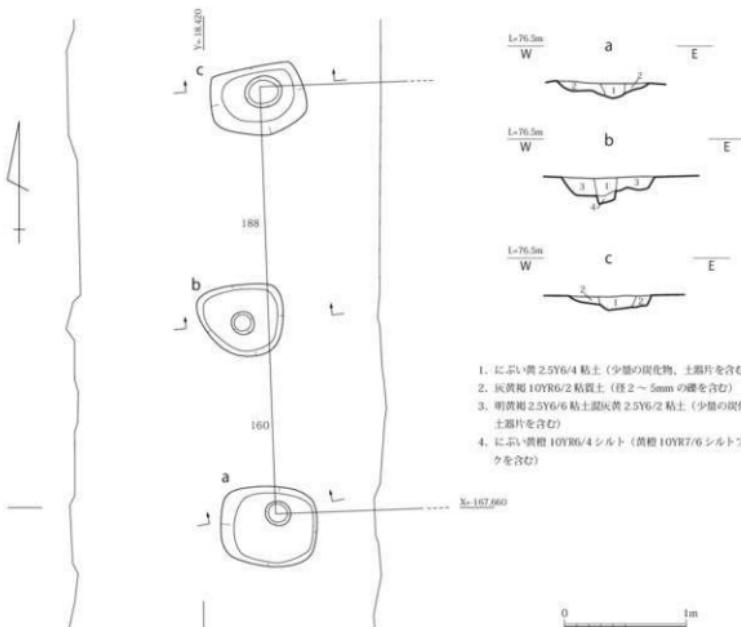


図 15 SB280 平面・土層断面図 (S=1/40)

瓦質土器蓋 (9) 内外面をヨコナデ調整する。天井部は大部分が剥離しており、調整不明である。

輸入磁器白磁碗 (11) 外面を回転ヘラケズリし、灰白色を呈する釉薬を薄く施釉する。

第4節 古代の遺構と遺物

第1項 検出遺構

建物

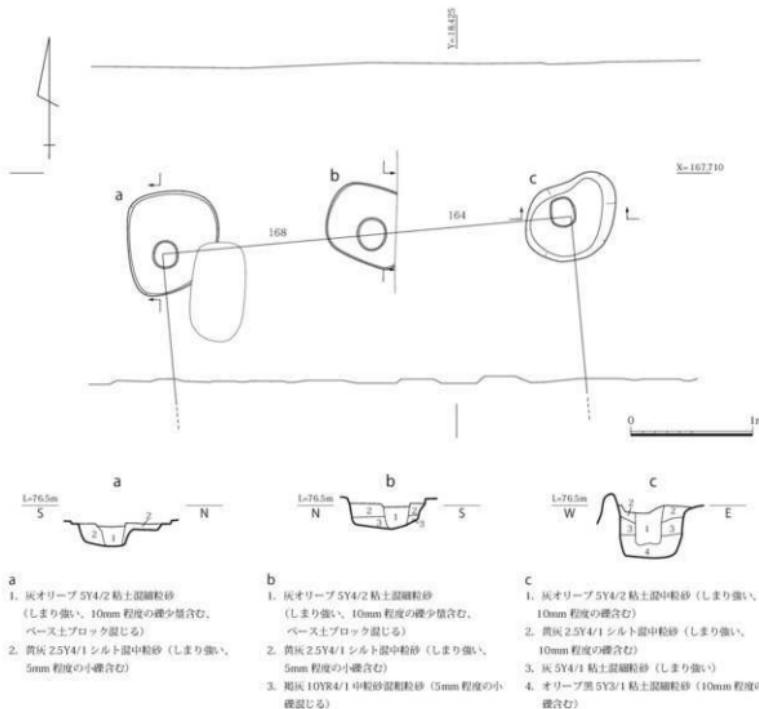
SB260 (図 14、図版 4 ~ 7)

1-A 区南西端で検出した掘立柱建物である。やや南北に間延びし、南北二間、東西一間分が残存する。柱掘方は、直径 46 ~ 80 cm の隅丸方形ないし不整円形を呈し、深さは約 50 cm である。埋土から復元できる柱直径は 22 cm で、柱間は 140 ~ 204 cm とばらつきを持つ。主軸方位は N-8° 24' -E 前後を測る。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SB280 (図 15)

1-B 区東側南北トレンチ中央付近で検出した掘立柱建物である。トレンチの幅が狭く、南北二間分が残存するのみで、建物がどのように展開するかは復元できない。柱掘方は 60 ~ 80 cm で、後世の削平の影響を受けているため、深さは 10 cm 程しか残存していない。埋土から復元できる柱直径は



18 ~ 30 cmで、主軸方位は N-2° 5' -W 前後である。中央の柱穴がやや西にずれ、柱間も 160 ~ 188 cmで均一ではない。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SB265 (図 16、図版 7)

2 区のやや東寄りで検出した掘立柱建物で、東西二間分が残存する。切り合ひ関係では、SB275 に切られる。柱掘方は 60 ~ 85 cmで、柱間は 164 ~ 168 cm、埋土から復元できる柱直径は約 20 cmである。深さは 18 ~ 20 cmが残存し、c のみ約 40 cmを測る。トレチの幅が狭いため建物の具体的な展開は復元できないが、c を隅柱として南北のいずれかに展開したものと推定される。主軸方位は、N-5° 27' -W 前後である。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SB275 (図 17)

2 区のやや東寄りで検出した掘立柱建物で、SB265 を切る。南北一間分のみの残存で、対になる柱列もないことから壠である可能性もある。柱穴の平面形態は梢円形を呈し、柱掘方の短軸径は 45 ~ 58

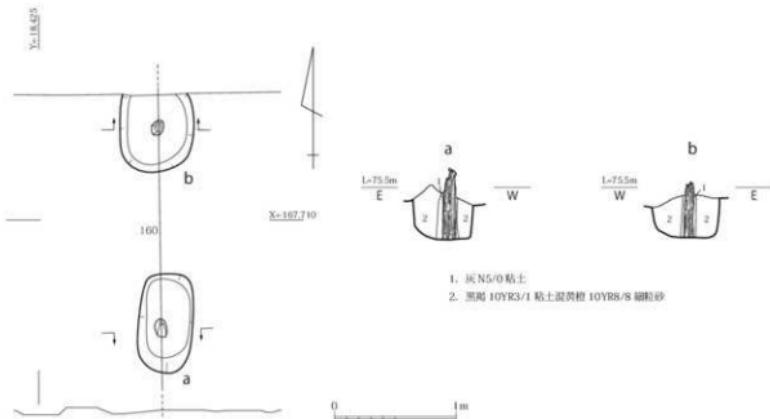


図17 SB275 平面・土層断面図 (S=1/40)

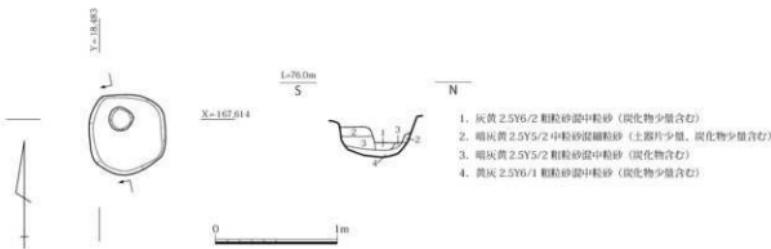


図18 SP075 平面・土層断面図 (S=1/40)

cmである。いずれの柱穴にも約10 cmの柱根が残っており、柱間は160 cmを測る。本調査で確認した他の建物とは異なり、主軸は正方位をとる。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

柱穴 (SP045・075・085・282・523) (図18)

SP045・075・085は、1-A区南西隅に分布する柱穴である。SB260に近接しているが、柱間や主軸のズレ、強い削平により残存状況が悪かったことから、単独の柱穴として取り扱った。SP075は、A-1区南西隅付近に位置する、直径64 cmを測る柱穴である。素掘溝により強く削平を受けるが、埋土から直径約16 cmの柱根が復元できる。

SP282は、1-A区中央西寄りに位置する柱穴である。出土遺物は飛鳥IIIに相当する須恵器杯蓋が出土している。

SP523は、1-A区北東隅で確認した柱穴である。SD105に近接し、周辺は土坑と柱穴が集中するが、建物としてのまとまりにはならない。

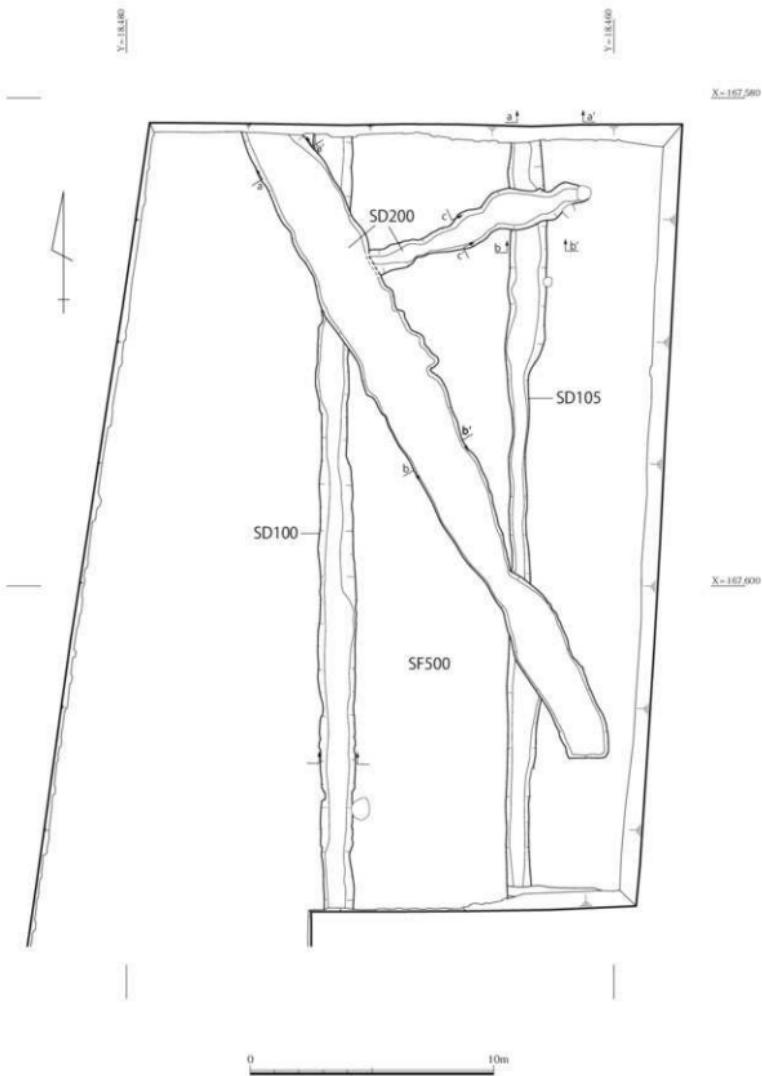


図 19 SF500、SD100・105・200 平面図 (S=1/200)

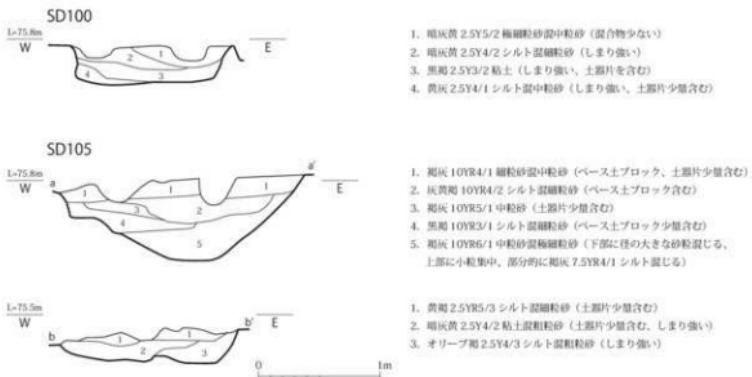


図 20 SD100・105 土層断面図 (S=1/40)

西三坊大路関係

SF500、SD100・105 (図 19・20、図版 8～10)

SF500 は、南北方向の条坊道路である西三坊大路と考えられる。路面は残存していないが、1 区において条坊道路の推定位置で東西に並行する SD100 と SD105 の二条の南北溝が良好に残存していた。両溝の心間距離は 7.8m、主軸方位は N 0° 13' -W 前後である。

SD100 は、1 区西寄りに位置し、1-A 区では約 32 m 分、1-B 区西側トレンチでは溝の大半は西半分であるが約 56 m 分が残存していた。調査区が不定形であるため部分的に断続するものの、位置関係から同一の溝と考えられる。主軸は N 0° 17' -W 前後、溝は上幅 126 cm、下幅 95 cm、深さ 30 cm を測り、断面形態は箱型を呈する。埋土の中層以下で藤原京期の遺物と馬の臼歯が出土しているが、いずれも小片で完形の遺物の出土は見られなかった。少数ではあるが、埴輪片が混入する。一方、SD105 は 1-A 区東寄りで検出され、1-A 区では約 33m 分、1-B 区南側トレンチで約 3m 分が残存する。主軸は N 0° 13' -W 前後、溝は最も残りの良い地点で幅 70 ~ 150 cm、下幅 40 ~ 158 cm、深さ約 20 ~ 70 cm を測り、南に行くに従って浅く箱型の断面を呈するようになる。埋土からは、藤原京期の遺物が出土し、SD100 に比して遺物の残りは良好で完形品が複数見られるほか、弥生土器が混入する。

今回の発掘調査で確認した SD105 は、積極的に西三坊大路の東側溝とするにはやや問題がある。西三坊大路東側溝は、これまでの発掘調査で N 25° -W の振れで一直線に通ることが確認されているが、SD105 は想定復元の約 5m 西、藤原京第 88 次調査（奈文研 1998）SF3760 のおよそ中央に位置し、主軸の振れもある。本来の東側溝は、藤原京第 88 次調査南区で途切れた状態で残存していることから明らかなように、削平を受けていた可能性が高く、1-B 区では SD105 以外に道路側溝に相当する溝は検出されなかった。SD100 については、藤原京第 88 次調査 SD3762 の延長に位置しているため、西三坊大路の西側溝として位置づけられる。

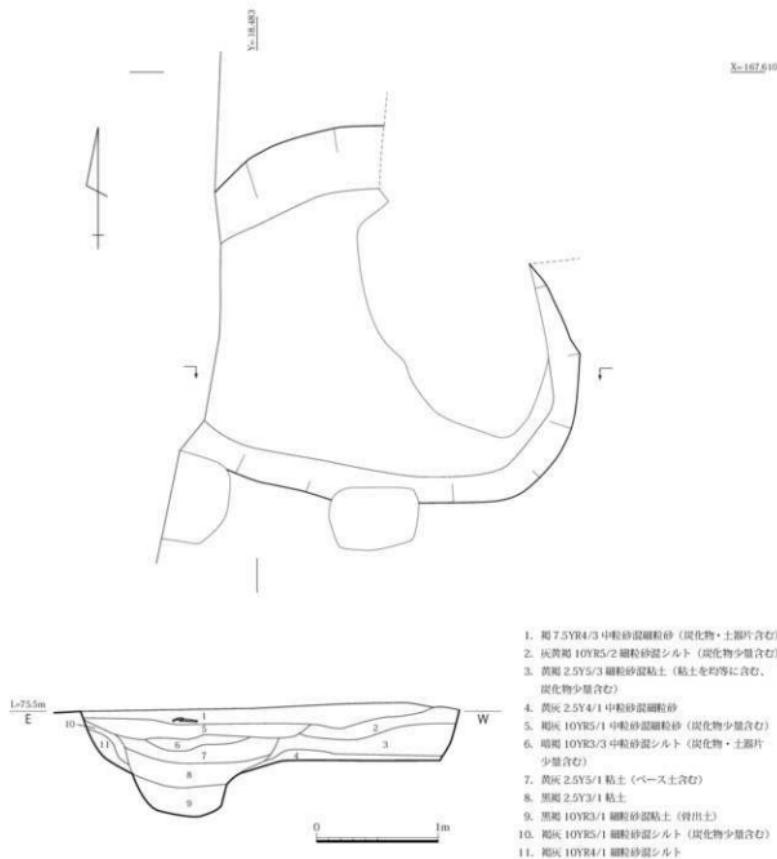


図 21 SE165 平面・土層断面図 (S=1/40)

井戸

SE165 (図 21、図版 10・11)

I-A 区南寄りで検出された直径約 300 cm、深さ 88 cm の井戸で、西側の肩は調査区外に延びる。井戸枠は抜き取られていたが、埋土から約 80 cm 四方の枠組みが想定できる。

遺構は SP045 ないし SK060、SB260 に切られているが、出土遺物から藤原京期に形成されたと考えられる。出土遺物には飛鳥 I に相当する須恵器が混入するほか、掘方より馬の中手骨が出土した。その他の部位の骨は認められなかったことから、井戸の掘削に際して祭祀が行われ、そこで投入された可能性がある。

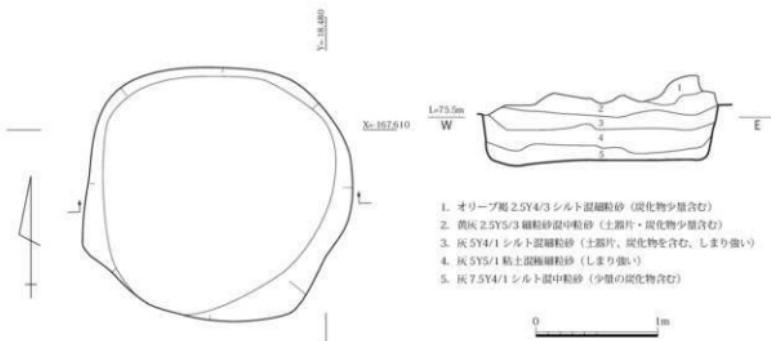


図 22 SK060 平面・土層断面図 (S=1/40)

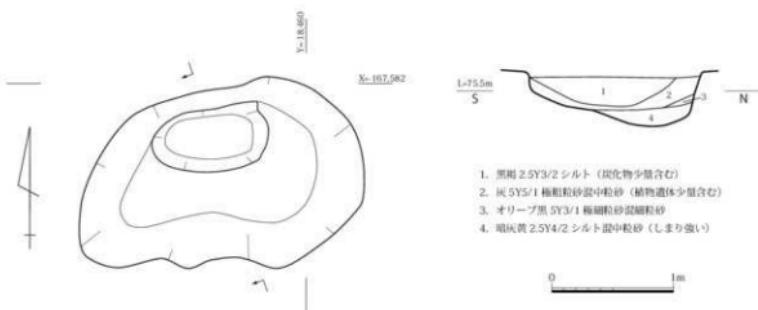


図 23 SK180 平面・土層断面図 (S=1/40)

土坑

SK060 (図 22、図版 11)

1-A 区南寄りで検出された直径約 220 cm、深さ約 70 cm の土坑である。断面形態は箱型で、埋土は水平体積する。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SK180 (図 23)

1-A 区北東隅付近で検出された平面形態が不整円形を呈する土坑である。長径 230 cm、短径 140 cm、深さ 24 ~ 40 cm を測り、北側の一部がやや掘りくぼめられる。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SK190

1-A 区北東隅で検出した土坑である。藤原京期の遺構である。

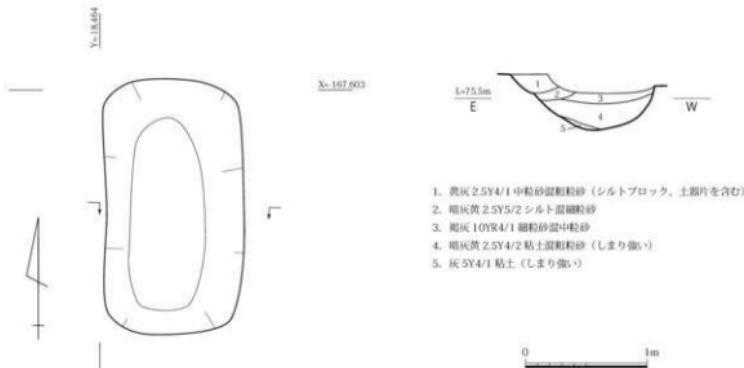


図24 SK195平面・土層断面図 (S=1/40)

SK195 (図24)

I-A区南東寄りで検出された平面形態が隅丸長方形を呈する土坑で、SD105に切られる。長径210cm、短径114cm、深さ50cmを測り、断面形態はU字型となる。

出土遺物から、藤原京期の遺構と考えられる。

SK070 (図25、図版12)

I-A区北西隅付近で検出した不整円形の土坑である。長径154cm、短径120cm、深さ22cmを測る。

出土遺物は不明木製品が一点出土したのみで、遺構の年代は不明である。

SK120 (図26、図版12)

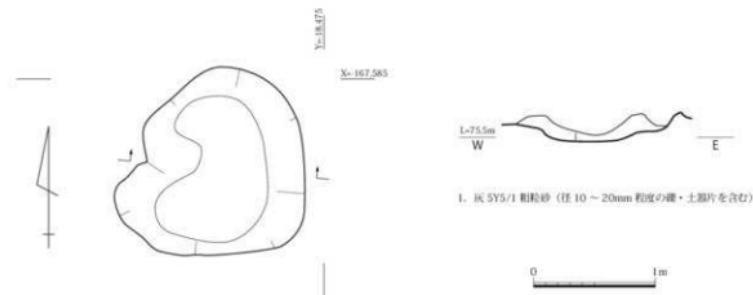
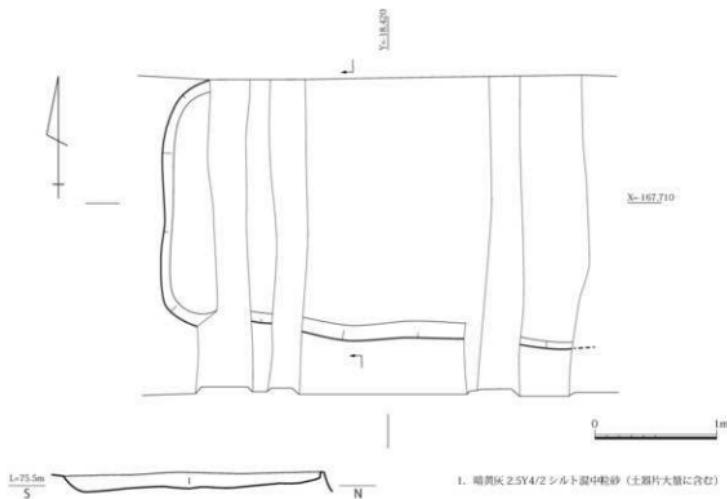
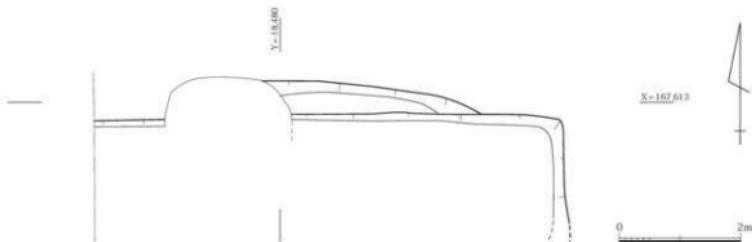
2区東端で検出した大型の土坑である。トレンチ幅が狭く、全容は不明であるが、北から東にかけてさらに広がるものである。長径348cm以上、短径212cm以上を測り、深さは12cmほどと比較的浅い。

出土遺物は、古代の土師器、須恵器といった藤原京期の遺物が多く出土しているが、いずれも小片である。遺物の中には弥生土器が混入する。

落ち込み**SX205 (図27)**

I-A区南西隅で検出した落ち込みである。周辺の調査事例から流路の可能性がある。調査期間が限られていたため、一部のみ掘削を行った。平面形態は不整形形を呈し、南に向かって落ち込んでいる。埋土には砂と粘土がほぼ水平堆積するが、ラミナの形成は見られないため、一定期間の滞水があったものと考えられる。また、後述する水田跡とSB260の切り合い関係から、SX205を含む土地変更、および整地がなされた後に古代の建物などの遺構が形成されたものと考えられる。

出土遺物は古代の須恵器や土師器などで、朝顔形埴輪(図37-125)も確認しているが、完壇には至っておらず、遺構の形成時期については不明である。近隣で行われた60-3次調査(奈文研1990)、およびその隣接地調査(樋考研1990)で確認された流路は、6世紀後半以降の埋没と推定されており、条坊施工前の土地条件を考える上で注意が必要である。

図 25 SK070 平面・土層断面図 ($S=1/40$)図 26 SK120 平面・土層断面図 ($S=1/40$)図 27 SX205 平面図 ($S=1/80$)

第2項 出土遺物

建物

SB260 (図28、図版17・18)

土師器杯 (13～15) 13は、外面に横方向のヘラミガキ調整、内面は正放射状暗文を施す。14は、やや外反気味に立ち上がる口縁を持ち、底部との境に稜をなす。15は、内面の表面が強く劣化しており調整不明であるが、外面に横方向のヘラミガキが認められる。やや内湾する口縁部から、飛鳥IIのものと考えられる。

土師器甕 (16・19) 16は、ナデ調整の後、口縁端部をつまみ上げ、外面をヨコナデによって面取りする。19は、甕Bである。く字状に折り曲げた口縁を持ち、口縁端部を丸く収める。表面の劣化が激しいが、内面はヘラケズリ、外面はハケ調整の後ナデ調整する。体部には、折り曲げた把手が付される。

須恵器壺 (17) 内外面に回転ナデ調整を施す。口縁内面と外面には自然軸がかかる。

須恵器皿 (18) 全体を回転ナデ調整した後、底部外面に回転ヘラケズリ、底部内面に一定方向のナデ調整を施す。口縁端部は肥厚し、丸く収める。

SB265 (図29、図版18)

土師器杯 (22～24) 22は、外面を横方向にヘラミガキ調整、内面に斜放射状暗文を施す。小片のため型式は不明である。23は、杯Aである。調整は表面劣化のため不明である。24は、内面から口縁部にかけてヨコナデ調整し、体部外面には縦方向にヘラケズリを施す。小片のため型式は不明であり、鉢の可能性もある。

須恵器蓋 (25・26) 25は、杯G蓋である。内外面に回転ナデ調整を施し、天井部外面には回転ヘラケズリする。口縁内面にかえりを持ち、端部には自然軸がかかる。かえりの特徴から飛鳥IIのものと考えられる。26は、杯B蓋である。内外面に回転ナデ調整を施す。外面には自然軸がかかる。

SB280 (図29、図版19)

土師器椀 (20) 内外面ともナデ調整し、口縁部は弱い横方向のナデ調整を施す。器壁が極めて薄く、底部からやや内湾しながら立ち上がることから、椀として考える。

土師器杯 (21) 杯Gである。内外面ともナデ調整し、口縁部にはさらに横方向のナデ調整を施す。

SB275 (図29、図版19)

土師器甕 (27) 内外面ともに横方向のナデ調整を施す。外面には、連続的なユビオサエ痕が残る。

柱穴

SP045 (図30、図版19)

土師器杯 (28) 内外面ともに表面が劣化し、調整は不明である。内面には煤が付着している。

須恵器蓋 (29・30) 29は、内面に回転ナデ調整、外面に回転ヘラケズリを施す。30は、内外面ともに回転ナデ調整を施す。

SP075 (図30)

須恵器壺 (31) 須恵器壺の底部である。焼成が著しく不良で土師質を呈する。内外面ともに回転ナデ調整を施し、内面と外面の一部に漆が付着する。

SP085 (図30)

土師器杯 (32) 杯Gである。内外面にヨコナデ調整を施す。外面下半には黒斑を有する。

土師器甕 (33) 甕Aである。外面にはナデ調整、内面には粗いハケ調整を施す。

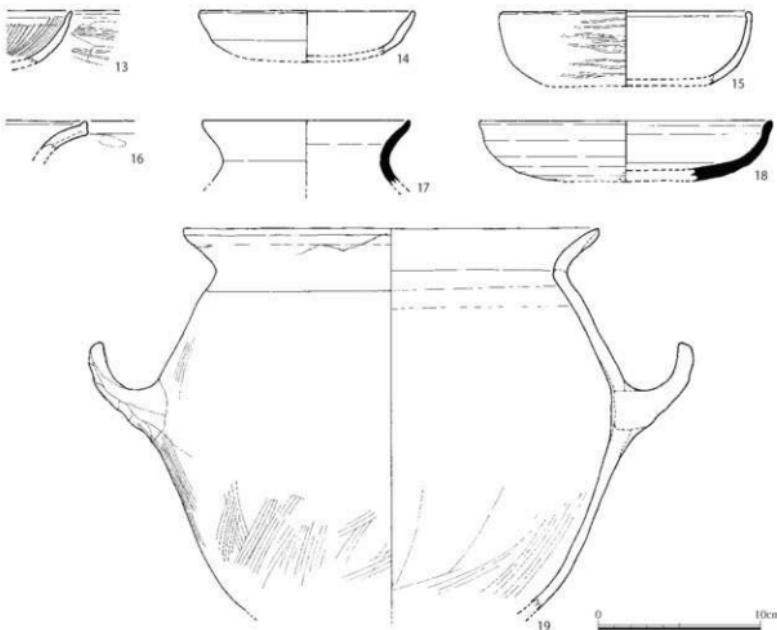


図 28 SB260 出土遺物実測図 (S=1/3)

SP282 (図 30)

須恵器蓋 (34) 杯 B 蓋である。内外面を回転ナデ調整し、天井部外面には回転ヘラケズリ、内面には不定方向のナデ調整を施す。内面にはかえりを持つ。かえりの特徴から飛鳥IIIのものと考えられる。

SP523 (図 30)

平瓦 (35) 凸面に縄タタキの痕跡が若干見られるが、表面劣化のため詳細は不明である。凹面には布目痕を残し、側縁部は面取りする。

溝**SD100 (図 31、図版 19 ~ 21)**

土師器杯 (36・37) いずれも杯 G である。内外面ともナデ調整を施し、体部下半にはユビオサエ痕が残る。37 の方がやや器高が高いが、焼成や胎土は 36 に比して不良である。

土師器壺 (38・39) いずれも壺 B である。38 は、内外面をナデ調整し、体部から底部にかけての外面にはユビオサエ痕が残る。39 は、内外面をナデ調整し、口縁部をさらに横方向にナデ調整する。

土師器甕 (40 ~ 42) いずれも甕 A である。40 は、内外面をナデ調整し、口縁内面には粗いヨコハケ調整、外面の口縁下半から肩部にかけてタテハケ調整を施す。口縁端部は横方向にナデ調整し、面取りする。41 は、口縁部内外面の調整は表面劣化により不明であるが、肩部外面にはタテハケ調整、肩部

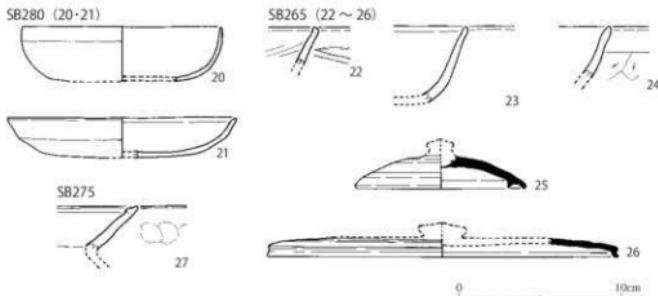


図29 SB265・275・280出土遺物実測図 (S=1/3)

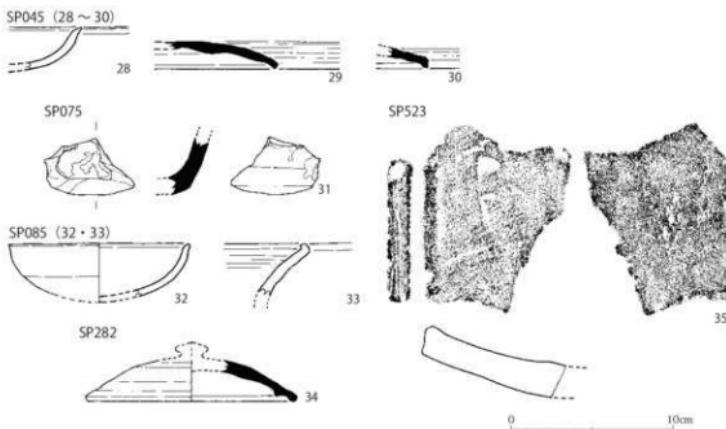


図30 SP045・075・085・282・523出土遺物実測図 (S=1/3)

内面にはヨコハケ調整を施す。口縁端部はやや肥厚する。42は、口縁部外面にナデ調整を行い、体部外面にタテハケ調整、口縁内部にヨコハケ調整を施す。内面と外面下半に煤が付着する。

須恵器蓋(43・44) いずれも杯B蓋である。43は、内外面に回転ナデ調整後、外面天井部に回転ヘラケズリを施す。内側にかえりを持つ。かえりの特徴から飛鳥Ⅲのものと考えられる。44は、内外面とも回転ナデ調整後、外面に回転ヘラケズリを施す。

須恵器杯(45～48・50) 45～48は、杯Bである。45は、内外面を回転ナデ調整し、底部へラキリ後は未調整である。46～48は、内外面とも回転ナデ調整し、底部へラキリ後、高台を貼り付けてさらに回転ナデ調整を施す。50は、杯Aである。内外面を回転ナデ調整し、底部には回転ヘラケズリを施す。焼成は不良で、灰白色を呈する。

須恵器椀(49) 椭Cである。内外面を回転ナデ調整し、体部下半から底部にかけて回転ヘラケズリを施す。

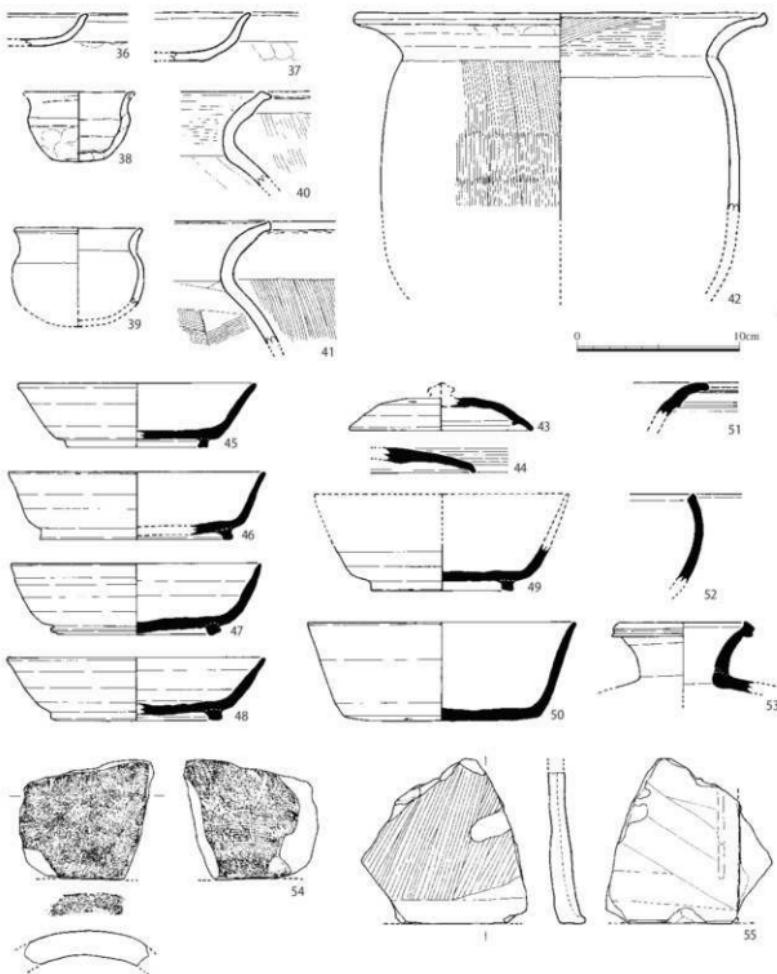


図31 SD100出土遺物実測図 (S=1/3)

須恵器鉢 (51・52) 51は、内外面を回転ナデ調整し、口縁を外反させながら端部を丸く取める。外面には一条の突帯が付され、内面には降灰が見られる。52は、鉢Aである。内外面とも回転ナデ調整を施す。

須恵器横瓶 (53) 内外面とも回転ナデ調整する。口縁内面に降灰が見られる。

丸瓦 (54) 凸面は表面劣化のため調整不明であるが、凹面は無調整で布目痕が残る。側縁については、四面凸面とともにナデ調整し、外縁部を面取りする。

埴輪不明（55） 円筒埴輪もしくは円筒台の一部である。小片のため器種は不明である。底部は強いナデ調整で面取りし、外面にはタテハケ調整、内面には板状工具によるナデ調整を施す。

SD105（図32・33、図版21・22）

土師器皿（56～58） 56・57は、皿Aである。56は、横方向のナデ調整を施した後、体部外面下半にヘラケズリする。内面は劣化のため不明瞭であるが、一部に暗文と漆の付着が見られる。57は、内外面とも表面劣化のため調整は不明である。58は、皿Bである。体部外面は、横方向のヘラケズリ後、ミガキ調整し、内面には放射状暗文を施す。

土師器杯（59） 内外面は横方向のナデ調整を施す。体部外面下半にはユビオサエ痕が残る。内面には針描きが認められる。

土師器高杯（60） 外面にユビオサエ痕を明瞭に残し、口縁部はナデ調整を施す。杯部内面には工具痕が残る。全体的に不整形で、口縁は波打っており、黒斑も認められる。

土師器壺（61・62） 粘土紐を巻き上げ、内外面とも横方向のナデ調整を施す。外面は粘土紐巻き上げ痕が残るが、内面は丁寧に仕上げている。体部から底部にかけての内外面には、連続したユビオサエ痕が残る。61は体部下半のくびれが強く、口縁がやや外反するのに対し、62は丸みを持った体部と直立した口縁を持っており、形態に若干の差異がある。

土師器甕（63～65） いずれも甕Aである。63・64は、内外面を横方向にナデ調整し、口縁端部は面取りする。63は、肩部にタテハケ調整が認められる。65は、内外面を横方向にナデ調整し、口縁内面にはヨコハケを施す。口縁端部は丸く收め、内面と外面下端に煤の付着が見られる。

須恵器蓋（66～69） いずれも杯B蓋である。66は、内外面に回転ナデ調整を施す。内面にかえりを持つ。67～69は、内外面に回転ナデ調整を施す。67・68は、天井部外面に降灰が見られる。69は、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。

須恵器皿（70） 皿Bである。内外面に回転ナデ調整を施し、底部は回転ヘラケズリする。

須恵器椀（71） 椭Bである。内外面を回転ナデ調整し、底部は回転ヘラケズリの後、丁寧にナデ消している。体部から口縁部に向かって緩やかに外反し、端部を丸く收める。

須恵器甕（72） 回転ナデ調整後、肩部外面に平行タタキを施し、さらにカキメを施している。内面には當て具痕が残る。口縁は端部に向かってやや肥厚し、丸く收める。

須恵器鉢（73） 鉢Aである。内外面ともに回転ナデ調整し、外面下半は回転ヘラケズリを施す。口縁は内傾し、端部を丸く收める。

須恵器壺（74・75） いずれも壺Kである。74は、内外面とも回転ナデ調整を施す。75は、内外面とも回転ナデ調整し、底部は回転ヘラケズリの後さらにナデ調整する。頸部から肩部にかけて自然軸がかかる。

土師器甕（76・77） 76は、外面にハケメ調整、内面に縦方向のハケメ調整を施す。内面には、部分的にユビオサエ痕を残す。77は、内外面ともにナデ調整し、脚部には縦方向のナデ調整を施す。体部と脚部の接合部分には強い横方向のナデ調整を施す。脚部先端には、黒斑が見られる。

須恵器土製円板（78） 壺を転用し円板に再加工したものである。外縁は打ち欠いた後、研磨する。外面にはカキメの後、刺突文を施し、内面には當て具痕が残る。

土製品鑄型（79） 不明製品の鑄型の一部である。表面劣化のため調整は不明である。胎土はオレンジ色を呈するが、鑄型面の中央が使用時の被熱により灰色に変色する。

平瓦（80） 凸面に丁寧なナデ調整を施し、凹面には布目痕を残す。凹面には煤が付着する。外縁部は

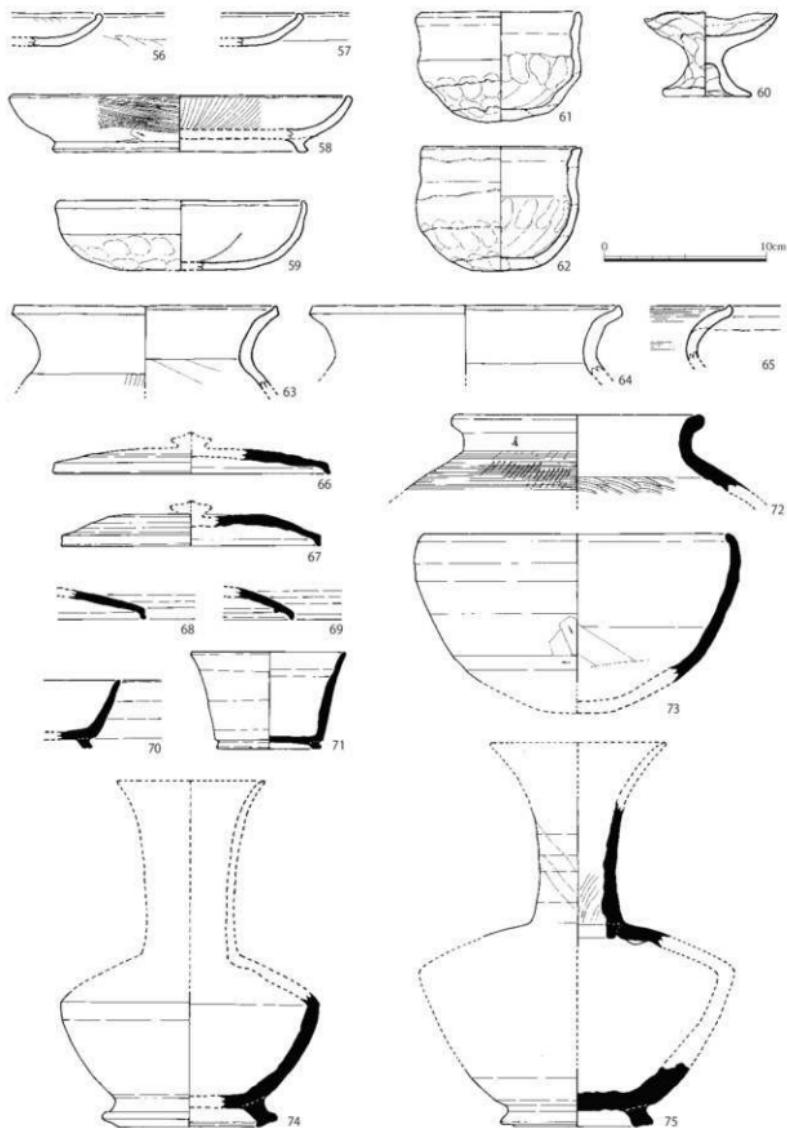


図32 SD105 出土遺物実測図(1) (S=1/3)

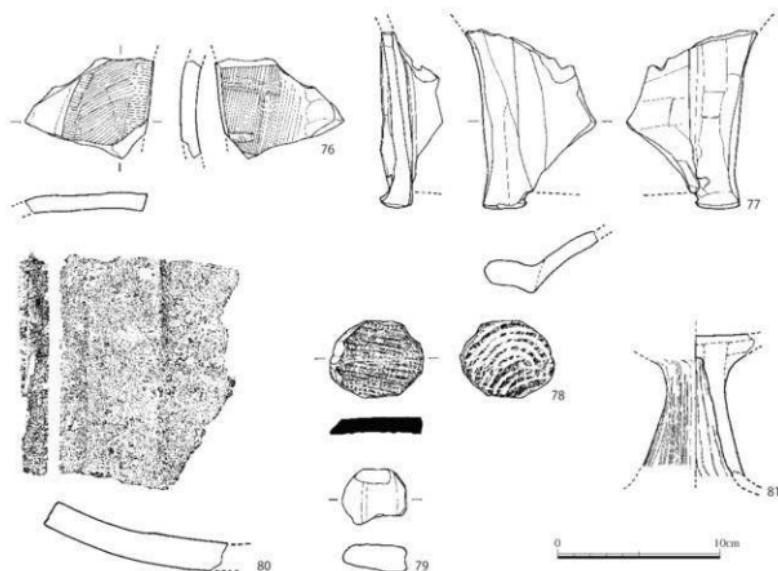


図33 SD105 出土遺物実測図（2）(S=1/3)

面取りしている。

弥生土器高杯（81） 内外面ナデ調整後、脚部はシボリ成型し、外面にはミガキを施す。杯部内面は表面劣化のため調整は不明である。弥生時代後期のものである。

井戸

SE165 (図34、図版22・23)

土師器皿（82） 皿Aである。外面下半にヘラケズリを施し、内面から口縁部にかけてヨコナデ調整する。内面には方射状暗文が確認できる。

土師器杯（83・84） いずれも杯Aである。ヨコナデ調整後、外面下半にヘラケズリ、上半に横方向のヘラミガキを施す。内面には、劣化のため不鮮明であるが暗文が見える。84は、外面下半にヘラケズリ、上半に横方向のヘラミガキを施す。内面は表面劣化のため調整不明である。

土師器鉢（85） 口縁部外面に不鮮明なヘラミガキが見えるのみで、内外面とも表面劣化のため調整不明である。

土師器高杯（86） 脚部外面は横方向のヘラケズリによって面取りし、裾部はヨコナデ調整して端部を丸く取める。脚部内面には横方向のヘラケズリを施す。杯部内面はナデ調整する。

土師器甌（87） 移動式甌の掛口口縁部である。外面は粗いハケメ調整、内面から口縁部にかけてヨコハケ調整を施す。内面は全体的に煤が付着する。

須恵器蓋（88） 杯口蓋である。内外面とも回転ナデ調整し、天井部外面に回転ヘラケズリ、天井部内

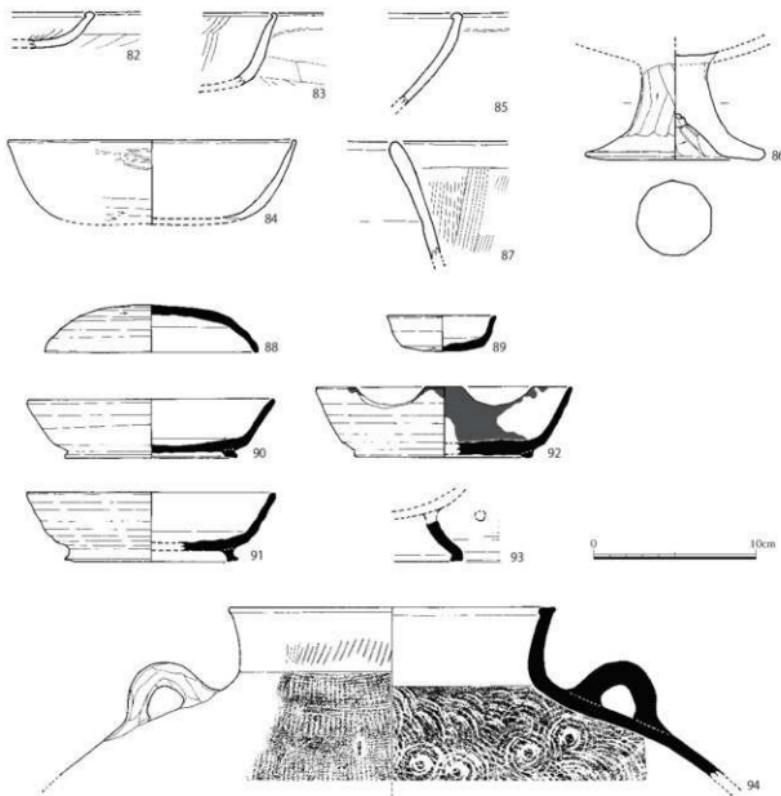


図34 SE165 出土遺物実測図 (S=1/3)

面には不定方向のナデ調整を施す。

須恵器杯 (89 ~ 92) 89は、内外面とも回転ナデ調整し、底部には回転ヘラケズリを施す。90~92は、いずれも杯Bである。90は、内外面とも回転ナデ調整し、底部はヘラキリ後未調整である。91は、内外面とも回転ナデ調整し、底部は回転ヘラケズリ後ナデ調整を施す。92は、内外面とも回転ナデ調整し、底部はヘラキリ後未調整である。内面は使用により平滑になっている。口縁部の一部は打ち欠かれており、その破断面と内外面に煤が付着する。飛鳥Iのものと考えられる。

須恵器壺 (93) 壺脚部である。内外面とも回転ナデ調整を施し、円形もしくは方形の透かし孔を持つ。

須恵器甕 (94) 回転ナデ調整後、外間にタタキ、内面に当て具による調整を施す。口縁部はやや外反し、端部を強くナデ調整して面取りする。肩部には環状把手が付されている。

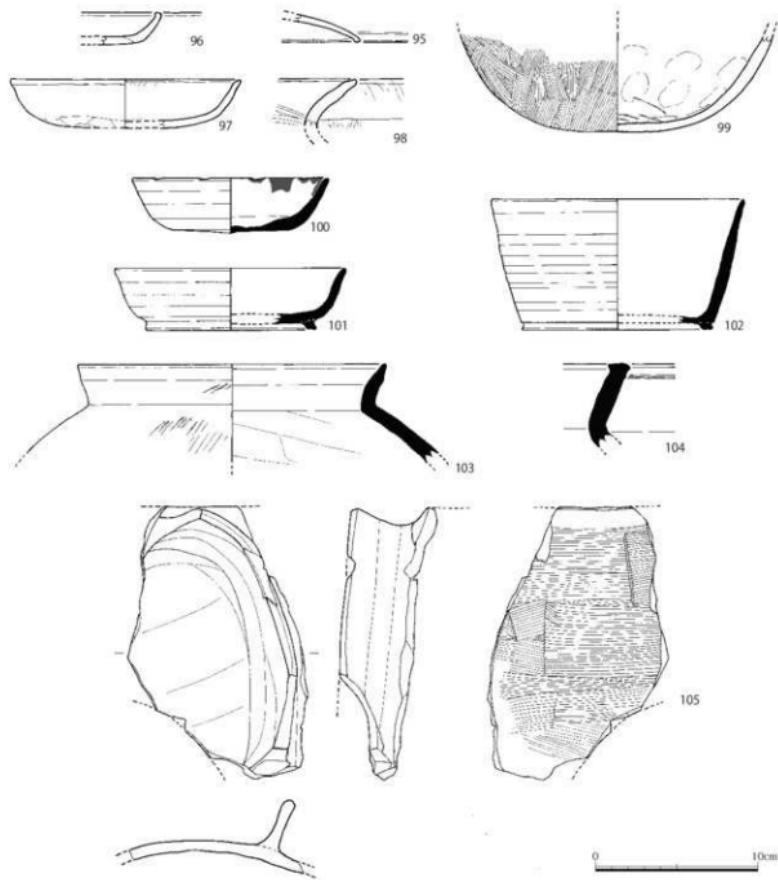


図 35 SK060 出土遺物実測図 (S=1/3)

土坑

SK060 (図 35、図版 23・24)

土師器蓋 (95) 杯 B 蓋である。内外面とも表面劣化のため調整不明である。

土師器皿 (96) 皿 A である。内外面とも表面劣化のため調整不明である。

土師器杯 (97) 内外面とも表面劣化のため調整は不明瞭で、内面には部分的に正放射状暗文が残る。底部はヘラケズリを施す。

土師器甕 (98・99) 98 は、ナデ調整後、口縁下半の内面に粗いヨコハケ調整を施す。外面には、タテハケ調整の一部が残る。口縁端部は外方向につまみ上げて丸く収める。99 は、ナデ調整後、外面には

ハケ調整、内面にはユビオサエを施す。内面下半には、工具痕が無数に残り、煤の付着も見られる。

須恵器杯 (100・101) 100 は、杯 A である。内外面を回転ナデ調整し、外面の体部下半に回転ヘラケズリを施す。底部は回転ヘラキリ後、未調整である。口縁端部は部分的に打ち欠かれており、その部分を含め口縁内部に油煙が付着する。101 は、杯 B である。内外面を回転ナデ調整、外面の体部下半には回転ヘラケズリを施す。底部は回転ヘラキリの後、回転ナデ調整を施し、貼付高台を付す。

須恵器挽 (102) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部はヘラキリの後、貼付高台を付す。

須恵器壺 (103) 内外面に回転ナデ調整を施す。さらに外面には、タタキの後ナデ消し、内面には横方向にナデ調整する。

須恵器甕 (104) 内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部はく字状に折り曲げ、口縁端部は強いナデ調整により面取りしている。

土師器甕 (105) 外面にナデ調整、内面に横方向のハケメ調整を施し、内面には若干のユビオサエ痕が残る。掛口端部はナデ調整により丸く取り、焚口端部はナデ調整によって面取りする。外面には U 字状の庇が貼り付けられる。内面には煤が付着する。

SK180 (図 36、図版 24)

土師器壺 (106) 壺 B である。ナデ調整後、口縁部に強いヨコナデ調整を施す。体部にはユビオサエ痕を残す。

SK190 (図 36、図版 24)

土師器杯 (107) 杯 A である。外面下半にヘラケズリを施し、底部内面には方射状暗文がわずかに認められる。外面上半の調整は、表面劣化のため不明である。

SK195 (図 36、図版 24)

土師器甕 (108) 移動式甕の脚部から天井部にかけてのものである。底部の端部は欠損する。全体を継方向にナデ調整する。内面には煤が付着する。

SK070 (図 36、図版 25)

不明木製品 (109) 全体的に表面が劣化しており、加工痕などは不明である。広端面が屈曲していることから、木製甕の未製品の可能性がある。木取りは板目取りである。

SK120 (図 36、図版 25)

土師器蓋 (110・111) いずれも皿 B 蓋である。110 は、外面にわずかにヘラミガキが見えるが、内面の調整は表面劣化のため不明である。111 は、内外面とも表面劣化のため調整不明である。

土師器杯 (112) 杯 G である。外面には連続したユビオサエ痕が残り、口縁部をヨコナデ調整する。内面の暗文は劣化のため不明である。

土師器甕 (113) 口縁部外面にタタキ痕が残り、口縁部はヨコナデ調整するが不整形である。内面の調整は表面劣化のため不明である。

須恵器蓋 (114・115) いずれも杯 B 蓋である。114 は、内外面とも回転ナデ調整を施し、さらに天井部外面には回転ヘラケズリ、天井部内面に不定方向のナデ調整を行う。115 は、内外面を回転ナデ調整し、天井部外面に回転ヘラケズリを施す。外面には自然釉がかかる。東海系須恵器と考えられる。

須恵器杯 (116) 杯 B である。内外面とも回転ナデ調整を施す。底部には回転ヘラケズリの後、ナデ調整を施す。

須恵器甕 (117・118) 117 は、内外面とも回転ヘラケズリを施す。118 は、内外面とも回転ナデ調整を施す。外面のカキメと内面の当て具痕は丁寧にナデ消されており、口縁部外面には浅い凹線文が見える。

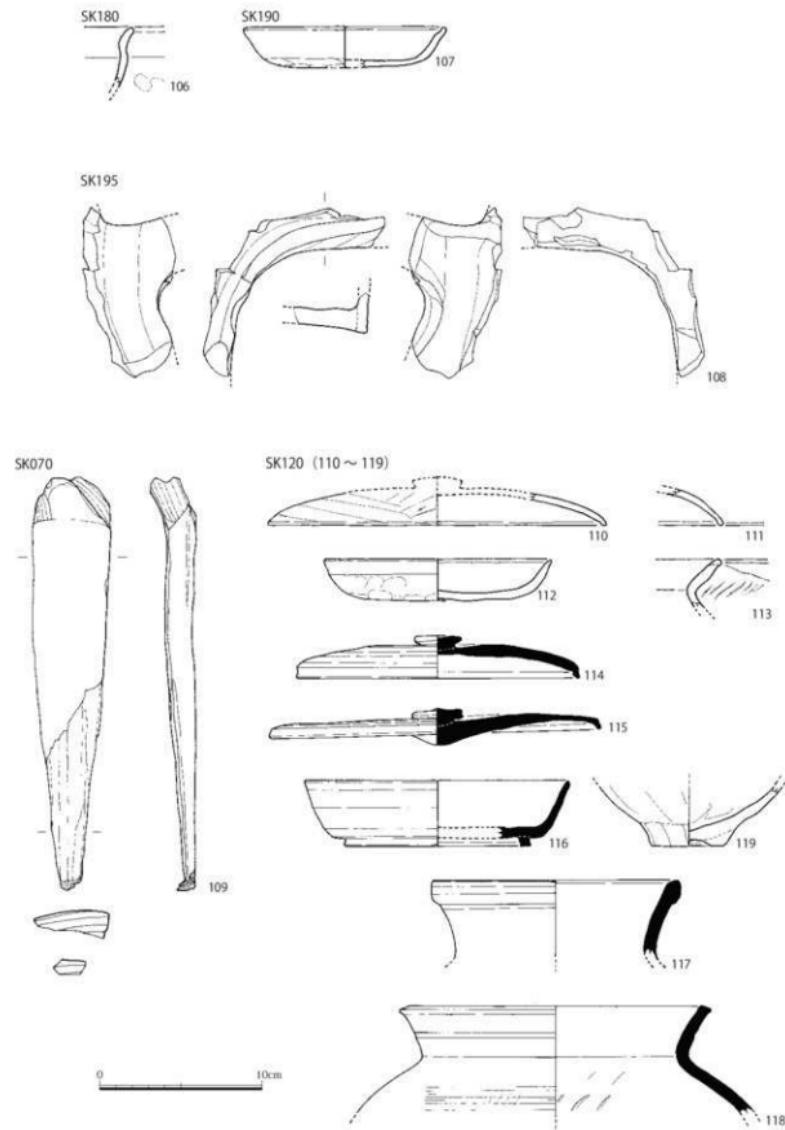


図 36 SK070・120・180・190・195 出土遺物実測図 (S=1/3)

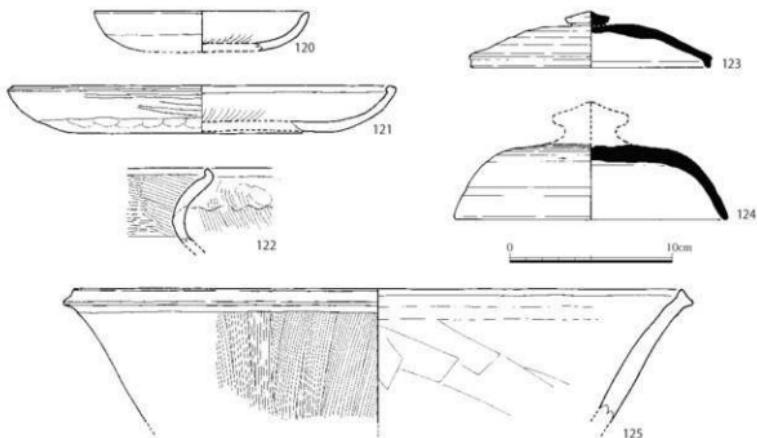


図37 SX205 出土遺物実測図 (S=1/3)

弥生土器壺（119） 弥生時代後期の壺底部である。外面にはナデ調整を施し、底部外面には細かく刻んだ横方向のナデ調整を施す。底部にはユビオサエ痕が残る。内面は表面劣化のため調整不明である。遺構の年代から混入遺物と考えられる。

落ち込み

SX205（図37、図版26）

土師器杯（120） 杯Cである。内外面とも剥離と表面劣化のため調整不明な部分が多い。底部には部分的に方射状暗文を残し、口縁部にはヨコナデ調整が認められる。

土師器皿（121） 皿Aである。口縁端部を玉縁状に巻き込み、外面上半は横方向にヘラミガキ、下半はケズリを施すも底部にユビオサエ痕を残す。内面には正方射状暗文が認められる。

土師器壺（122） 内外面をナデ調整後、外面に縦方向のハケメ調整、内面に横方向のハケメ調整を施す。内面には黒斑も見られる。口縁端部は内側にやや突出させ、丸く收める。

須恵器蓋（123・124） 123は、杯B蓋である。内外面を回転ナデ調整し、天井部を回転ヘラケズリする。全体的に降灰が見られる。124は、内外面を回転ナデ調整した後、天井部外面には回転ヘラケズリ、天井部内面には不定方向のナデ調整を施す。

埴輪（125） 朝顔形埴輪の口縁部である。外面は縦方向のハケメ調整、内面はナデ調整を施す。口縁部にはヨコナデ調整を施し、端部は外方に肥厚して上方に面を持つ。

第5節 古代以前の遺構

今回の発掘調査では、調査区全体に明赤褐色中粒砂が堆積していた。既知の調査から、中粒砂の下層に水田遺構の存在が想定できたが、調査期間と面的に調査が可能であることを踏まえて1-A区でのみ実施した。

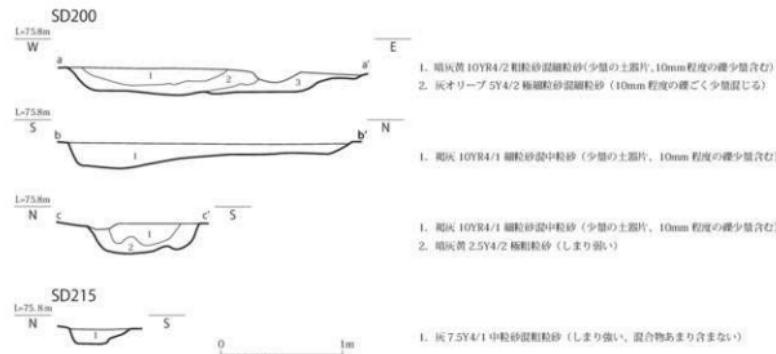


図 38 SD200・215 土層断面図 (S=1/40)

溝

SD200 (図 19・38、図版 13・14)

1-A 区南東から北西にかけて延びる溝である。幅 234 cm、深さ 20 cm を測る。中央よりやや北側で幅 90 cm、深さ 24 cm の溝に二股に分かれ、調査区北東隅付近で終息する。両者は、ほぼ 90° の角度で接続しているが、埋土も近似し、検出時に切り合はは確認できなかったことから、同一の溝であると考えられる。直線的な溝ではあるが溝の肩は大きく蛇行している。

出土遺物は、古代の須恵器、土師器、平瓦などの小片が最上層で出土しているが、遺構の形成時期の特定には至らなかった。

SD215 (図 6・38、図版 14)

1-A 区中央やや南寄りの東端で検出した溝である。幅 50 cm、深さ 12 cm を測る。SK195 が第 2 遺構面まで及んでいるため水田との接続状況は不明であるが、大畦畔を分断し、最高所に位置する区画と近接することから、水田に給水する基幹水路と捉えられる。

出土遺物は無く、時期は不明である。

水田跡 (図 6、図版 15・16)

水田跡は、1-A 区中央から南西にかけて展開する。外縁には「く」字状の大畦畔があり、大畦畔の北ないし南にかけては緩傾斜となることから、水田跡は台地上に立地していることが明らかである。水田跡は 17 枚残存し、小畦畔によって不整形ないし長方形で、一部は多角形を呈して区画される。SD215 に隣接し、最も東に位置する区画①が 9 × 4.5 m と本調査で検出した中で最も広く、それに次いで区画⑥がおよそ 6 × 5.5 m を測る。水田区画は西に向かうにしたがって面積が狭くなっている、同心円状に区画割していた様子がうかがえる。水田跡の構造は、SD215 から取水し、畦畔の一部を切断した水口から水流を生んで西から順に湛水させるものである。

区画①と②間の畦畔は削平を受けているが、およそ SD215 の中央付近の位置に復元できる。おそらく、SD215 を通った水はまず区画①と②に分水し、その後区画①は区画⑥と③に、区画②は区画④と⑥に分水したと考えられる。つまり、およそ SD215 の延長ラインを軸に北側の区画と南側の区画に分ける

ことができ、それぞれ均等に用水が行き渡るように工夫したのだろう。水田が湛水すると作付けを行って水口を塞ぐが、今回の調査で検出した水田の水口は塞がれていた。そのため、作付け間もなくして洪水を受けて埋没したと考えられる。水田面には連続する足跡を検出しており、埋没の直前に水田を移動していた可能性がある。大畦畔の北側でも形が不明瞭な足跡が確認されたが、遺構は確認されていないため、人の動きを復元することは困難であった。

作土や畦畔からは遺物が出土しておらず、課題であった遺構の時期は不明である。しかし、SD105 や SK120 から出土した土器には弥生時代後期を示すものが混入しており、これらの遺物は本遺跡の下限を示すことから、水田の年代を考えるうえで示唆的である。

第6節 素掘溝出土遺物（古代以前）

SD293（図39）

土師器皿（126）皿Aである。体部外面下半にヘラケズリを施し、口縁部外面にヨコナデ調整を施す。内面は表面の剥離が強く及んでいるが、わずかに方射状暗文が確認できる。

SD259（図39）

土師器杯（127）杯Gである。内外面にナデ調整、口縁部にはヨコナデ調整を施す。外面にはユビオサエ痕が残る。

須恵器杯（128）杯Bである。内外面に回転ナデ調整、底部に回転ヘラケズリを施す。

須恵器椀（129）表面劣化のため調整は不明瞭であるが、内外面に回転ナデ調整が確認できる。外面に弱いユビオサエ痕を残す。

SD263（図39）

須恵器蓋（130）杯B蓋である。内外面に回転ナデ調整、天井部に回転ヘラケズリを施す。ツマミを貼り付け後、ナデ調整する。

SD496（図39、図版27）

須恵器蓋（131）内外面ともに回転ナデ調整を施し、天井部外面には回転ヘラケズリを施す。内面にかえりを持つが、ツマミは欠損する。

須恵器杯（132）内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面には回転ヘラケズリを施す。

SD271（図39）

須恵器壺（133）内外面とも回転ナデ調整を施す。

SD386（図39）

須恵器壺（134）内外面とも回転ナデ調整を施す。口縁はやや内湾する。

SD326（図39、図版27）

須恵器壺（135）内外面とも回転ナデ調整し、肩部にはさらにカキメを施して把手を貼り付ける。内面には当て具痕が残る。

SD258（図39）

須恵器甕（136）回転ナデ調整後、肩部外面にカキメを施す。内面には当て具痕が残る。

SD209（図39）

須恵器甕（137）内外面とも回転ナデ調整し、体部外面をヘラケズリする。底部にはユビオサエ痕が残り、胴部を外面から穿孔する。

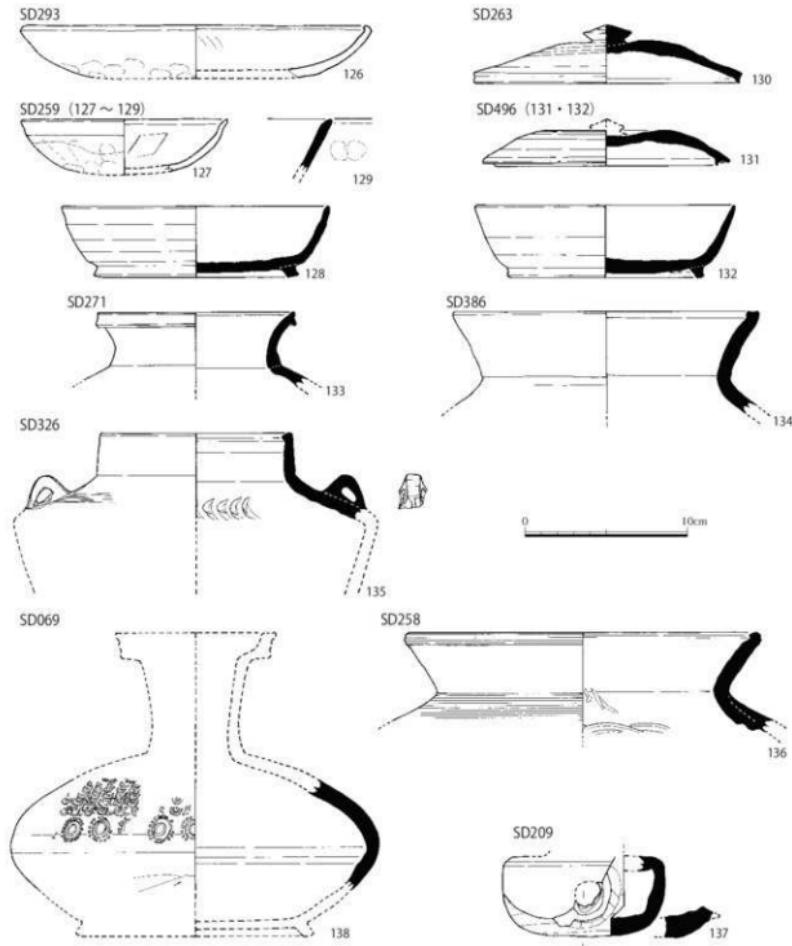


図39 素掘溝出土遺物実測図(1) (S=1/3)

SD069 (図39、図版27)

陶質土器壺 (138) 全体を回転ナデ調整した後、外面下半に回転ヘラケズリを施す。肩部から体部にかけてはスタンプ文があり、2条の多弁花文の間に縦長連続文が押されている。文様構成と体部が算盤珠形となる形態的特徴から、新羅土器長頸壺であると考えられる。

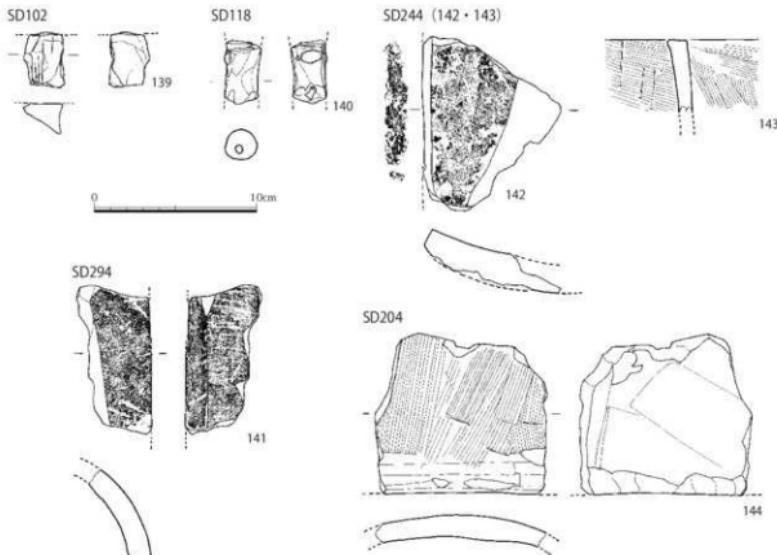


図40 素掘溝出土遺物実測図(2)(S=1/3)

SD102 (図40、図版28)

土製品鉄型(139) 不明製品の鉄型の一部である。鉄型面の表面に若干の布目が残り、部分的に擦痕が認められるが、製品の装飾かどうかは不明である。胎土は橙色であるが、鉄型面は使用時の被熱により灰色を呈している。

SD118 (図40、図版28)

不明土製品(140) 全体にヘラケズリを施し、下部に棒状のものを差し込んだ穿孔が見られる。両端部が欠損しているため、どのような製品であるかは不明であるが、土馬の可能性がある。

SD294 (図40)

丸瓦(141) 凸面をナデ調整するが、凹面は無調整で布目痕を残す。外縁部は面取りする。

SD244 (図40、図版27・28)

平瓦(142) 凸面が表面の剥離ため調整不明であるが、凹面は無調整で布目痕を残す。外縁部は面取りする。

埴輪(143) 円筒埴輪の口縁部である。外面は縦方向にハケメ調整し、内面には横方向にハケメ調整する。内面のハケメ調整は、静止痕が見えることからB種ヨコハケであると考えられる。

SD204 (図40、図版27)

埴輪(144) 形象埴輪の台部である。外面は縦方向にハケメ調整し、内面は板状工具によるナデ調整を施す。底端部に黒斑が認められる。

第4章 自然科学分析

1. はじめに

藤原京右京十条三・四坊の発掘調査で出土した動物遺体について、同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、藤原京の条坊側溝と推定される SD100 から出土した 1 点と藤原京期の SE165 から出土した 1 点、計 2 点の動物遺体である（図 41）。

試料の観察を肉眼および実体顕微鏡で行い、現生標本との比較により分類群と部位を同定した。

3. 結果

表 1 に結果を示す。

SD100 の試料はウマ (*Equus caballus*) の臼歯 (145)、SE165 の試料はウマの右中手骨 (146) であった。

表 1 藤原京右京十条三・四坊出土の動物遺体

報告番号	地区	グリッド	遺構	層位	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
145	1-A	G・H-0 ~ 10	SD100	—	ウマ	臼歯	不明	破片	1	破片化しているが 1 点に由来
146	1-A	D-10・11	SE165	墓下層 砂泥黒粘土	ウマ	中手骨	右	ほぼ完存	1	最大長 (GL) 218 mm



図 41 藤原京右京十条三・四坊出土の動物遺体

第5章 調査のまとめ

第1節 遺構の変遷

(1) 1期の遺構

本遺跡の本格的な遺構の展開は、弥生時代後期に推定される水田遺構に始まる。出土遺物がなく遺構の形成時期については捉えられなかったが、SD105とSK120に混入する弥生時代後期の高杯と壺は、調査地に隣接する藤原京第60-3次調査（奈文研 1990・1991）などの成果と整合的である。

本調査では、「く」字状に屈曲する大畦畔とその内側に17枚の水田区画が確認できた。水田への給水はSD215でを行い、SD215直下の区画①および②に分水するようである。水田面の足跡からは、人間が移動していた様子がうかがえるが、畦畔の水口が開いている状況から作付けは行ったものの、湛水できないまま洪水によって埋没したものと考えられる。水田埋土は洪水に伴う中粒砂であり、既知の調査成果と整合的であった。

(2) 2期の遺構

2期の遺構は、SD200が該当する。洪水による水田遺構の埋没後に形成され、遺物の出土は無いが切り合い関係から古代の遺構に先行する遺構として捉えられる。後述する3期の遺構には多数の埴輪片が混入しており、遺構の年代を示唆する。不確定要素が強いものの、SX205についても、周辺の調査成果を踏まえれば古墳時代に形成された可能性がある。

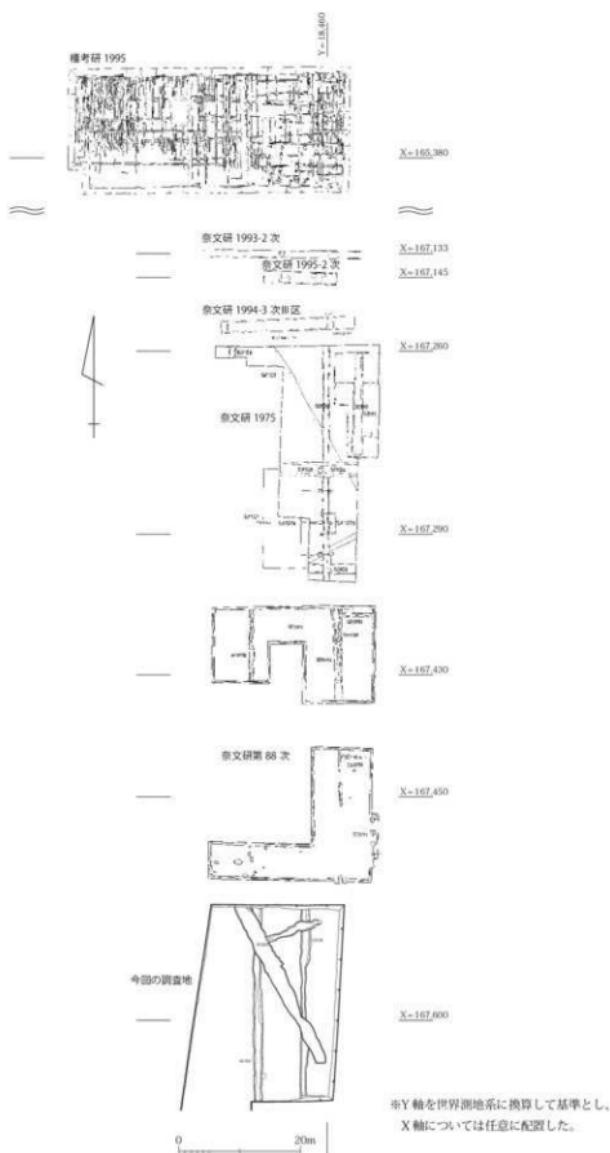
(3) 3期の遺構

3期は、藤原京期の遺構が展開する。西三坊大路SF500と東西側溝SD100・105のほか、遺構には切り合い関係があるため空間利用には変遷が認められる。遺構密度は低く、1-A区では北東と南西に遺構が集中するが、SK060やSE165の大型遺構を除くと復元可能な建物跡はSB206に限られる。

今回の発掘調査は、1-B区や2区はトレンチ調査であったため遺構分布については十分に把握できたとは言えず、宅地利用に関しては課題を残した。また、十条条間路については、検出の想定はされたものの、調査区外であったため遺構は未確認である。

第2節 西三坊大路について（図42）

西三坊大路については、本薬師寺の調査や右京一条、右京八条など複数の調査で検出されており、一定の成果が挙げられている。これまでの成果の中で統一的な見解であったのが、東側溝の北で約25'西に振れる主軸と位置関係である。東側溝の主軸の振れは藤原京右京域の南北道路の振れと一致することから、一定の規格で設計されたものと考えられている（今尾 1996）。その一方、西側溝については、樞考研 1995年度調査と藤原京第88次調査で面的に検出されているが、本薬師寺の周辺では特に削平が強く、想定される位置で遺構の検出が出来なかつたことなどによって位置が確定的ではなかった。こ

図42 西三坊大路推定東西側溝の位置関係 ($S=1/800$)

これまでに明らかになっている東西両側溝の心心距離は、6.5m（奈文研 1997）、約 8.3m（今尾 1996、奈文研 1994・1996）、約 14m（奈文研 1998）、15.2m（奈文研 1976）、17m（奈文研 1987）などと調査地点によって異なっており、西三坊大路の西側溝の位置と道路幅の確定は大きな課題といえる。

今回の発掘調査は西三坊大路の想定地に位置し、結果として東西両側溝に該当しうる SD100 と SD105 を検出した。まず、西三坊大路の設計基準であったと考えられている東側溝であるが、本調査で東側溝に該当しうる SD105 の溝の振れは北で約 13° 西に振れる程度しかなく、しかも想定ラインの約 5m 西に位置していた。従来考えられてきた東側溝の位置では、本調査の 1-A 区では調査区外となり、1-B 区でも該当するような溝は検出されなかったため、藤原京第 88 次調査南区で確認されたように東側溝は削平されたと見なせられる。この場合、SD105 は側溝ではない別の溝ということになるが、後述する西側溝の対をなす溝は SD105 以外に無いのが現状で、本調査では SD105 を西三坊大路の東側溝と仮定するが、検証する余地がある。

一方、西側溝については、樅考研 1995 年度調査や本薬師寺 1994-3 次調査Ⅲ区、1975 年度西南隅調査、藤原京第 88 次調査と SD100 の検出位置がほぼ合致し、北で約 17° 西に振れる値は、樅考研 1995 年度調査で算出された N-0° 12' 57" -W という値に近似する。この数値そのものは、山中章氏が想定した右京域の道路造営方位と異なるものであるため、藤原京の条坊施工原理から外れた別の理論のもとで敷設されたと考えられる。

SD100 と SD105 の溝心心間距離は 7.8m で、京内で検出された奇数大路の道路幅（7～8m 前後）に整合する。その一方で、先述したように東側溝の振れと位置は異なっている。SD100 を基準にこれまでに明らかにされている西三坊大路全体を俯瞰すると、SD105 は藤原京第 88 次調査における SF3760 のほぼ中央を通っていることが明らかであり、さらに倍の距離を東に移動すれば、おおよそ從来から指摘されている東側溝の位置に取まる。西側溝と東側溝は、それぞれで主軸方位の振れ幅が異なっているため、南下するにしたがって道路幅が広くなることから、SD105 は西三坊大路の東側溝ではなく道路中央を通る溝として捉えて大過ないと思われる。

このような位置関係で見ると、SD105 は奈文研 1993-2 次調査や奈文研 1995-2 次調査で検出された西側溝の位置とほぼ同じであることから、これらは空間的な断絶はあるものの一連の溝とみなすこと也可能である。このような道路中央を通る溝は、東二坊大路や四条遺跡で検出された四条大路など藤原京の各所で確認されており、条坊道路の敷設に際して設定された計画地割との指摘があることから（林部 2001）、同様の性格を有していた可能性が高い。

西三坊大路東側溝は、十一・十二条三坊まで南下すると從来通りの位置と北で約 25° 強西に振れる数値で検出されている（平岩・石坂 2012）。これを踏まえると、やはり今回の発掘調査においては、東側溝は削平されたと考えるのが妥当である。SD100 の検出により、西三坊大路の西側溝の位置はほぼ確定した。既応の調査成果を踏まえると、西三坊大路の道路幅は約 14 m に復元できる。今後、SD105 のあり方を含めて西三坊大路の側溝の位置と時期差を詳細に検討し、条坊道路の変遷を明らかにしていく必要がある。

《参考文献》

- 今尾文嗣 1996 「藤原京右京一条三坊・同一条四坊発掘調査報告書－西三坊大路の調査－」『奈良県遺跡調査概報』1995年度（第2分冊）。奈良県立橿原考古学研究所
- 小澤毅 2003 「藤原京の造営と京城をめぐる諸問題」「日本古代宮都構造の研究」。青木書店
- 佐藤泰聖 2016 「都城道路」「日本古代の交通・交流・情報3 道路と技術」。吉川弘文館
- 奈良国立文化財研究所 1976 「本薬師寺西南隅の調査」「飛鳥・藤原宮発掘調査概報6」
- 奈良国立文化財研究所 1987 「右京二条二坊・三坊の調査（第45-10・11次）」「飛鳥・藤原宮発掘調査概報17」
- 奈良国立文化財研究所 1990 「右京十条四坊の調査（第60-3次）」「飛鳥・藤原宮発掘調査概報20」
- 奈良国立文化財研究所 1994 「本薬師寺の調査」「飛鳥・藤原宮発掘調査概報24」
- 奈良国立文化財研究所 1996 「本薬師寺の調査」「飛鳥・藤原宮発掘調査概報26」
- 奈良国立文化財研究所 1997 「本薬師寺の調査－1995-1・2・3次、1996-1次 本薬師寺出土の瓦」『奈良国立文化財研究所年報 1997-II』
- 奈良国立文化財研究所 1998 「藤原京右京九条三・四坊の調査－88次」「奈良国立文化財研究所年報 1998-II」
- 林部均 2001 「古代京都形成過程の研究」。青木書店
- 平岩欣太 1996 「藤原京右京十条四坊（第3次）」「かしはらの歴史をさぐる4」平成7年度埋蔵文化財発掘調査速報。橿原市千塚資料館
- 平岩欣太・石坂泰士 2012 「藤原京跡－右京十一・十二条三坊、右京十二条三・四坊」。橿原市教育委員会

関連資料

図 43～47 検出遺構配置略図

表 2～6 報告遺物一覧 (1)～(5)

表 7～14 検出遺構および出土遺物一覧 (1)～(8)

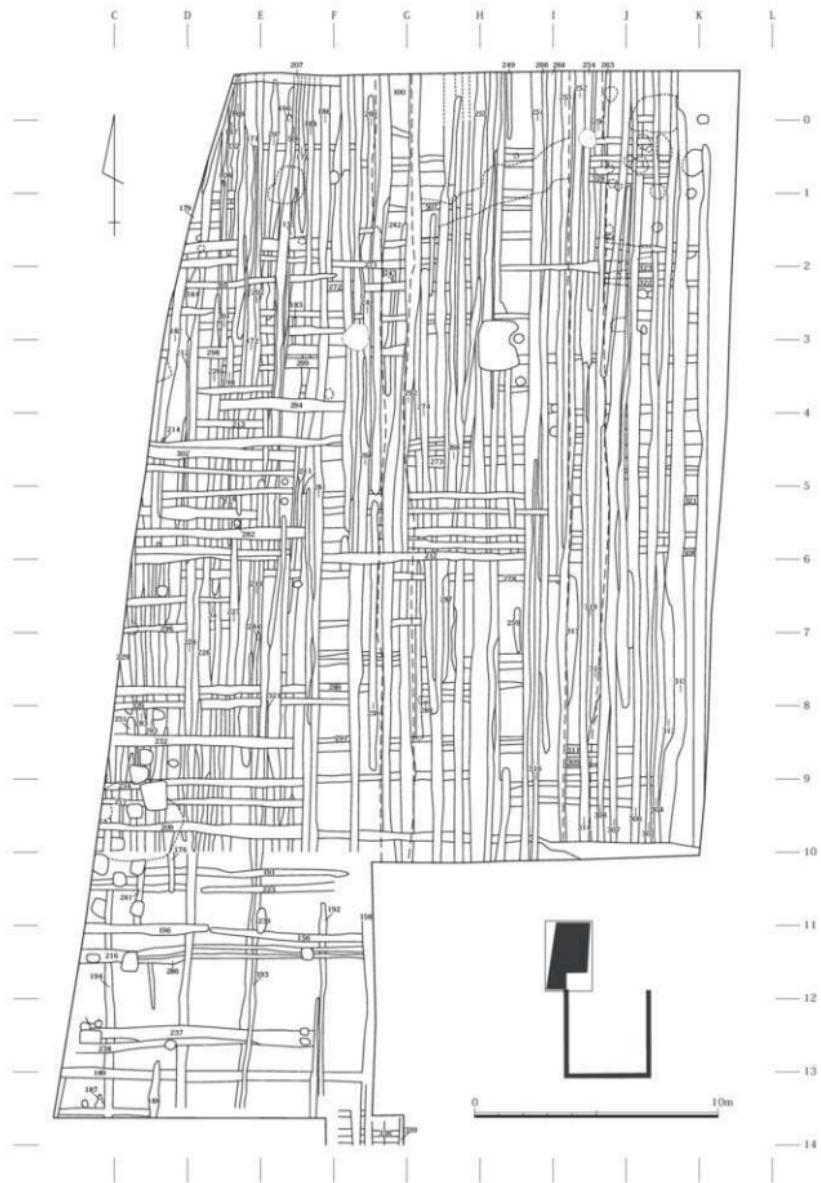


図 43 1-A 区第1 遺構面遺構配置略図 (1) (S=1/200)

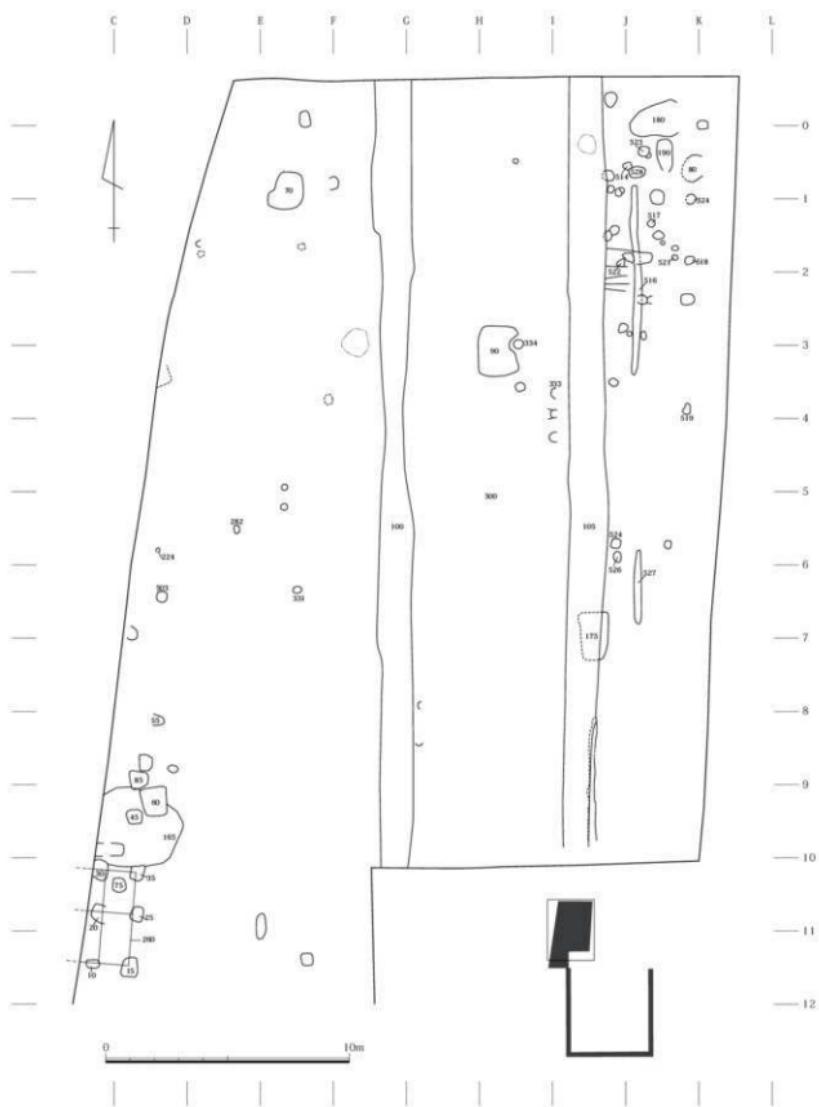


図 44 1-A 区第 1 遺構面遺構配置略図 (2) (S=1/200)

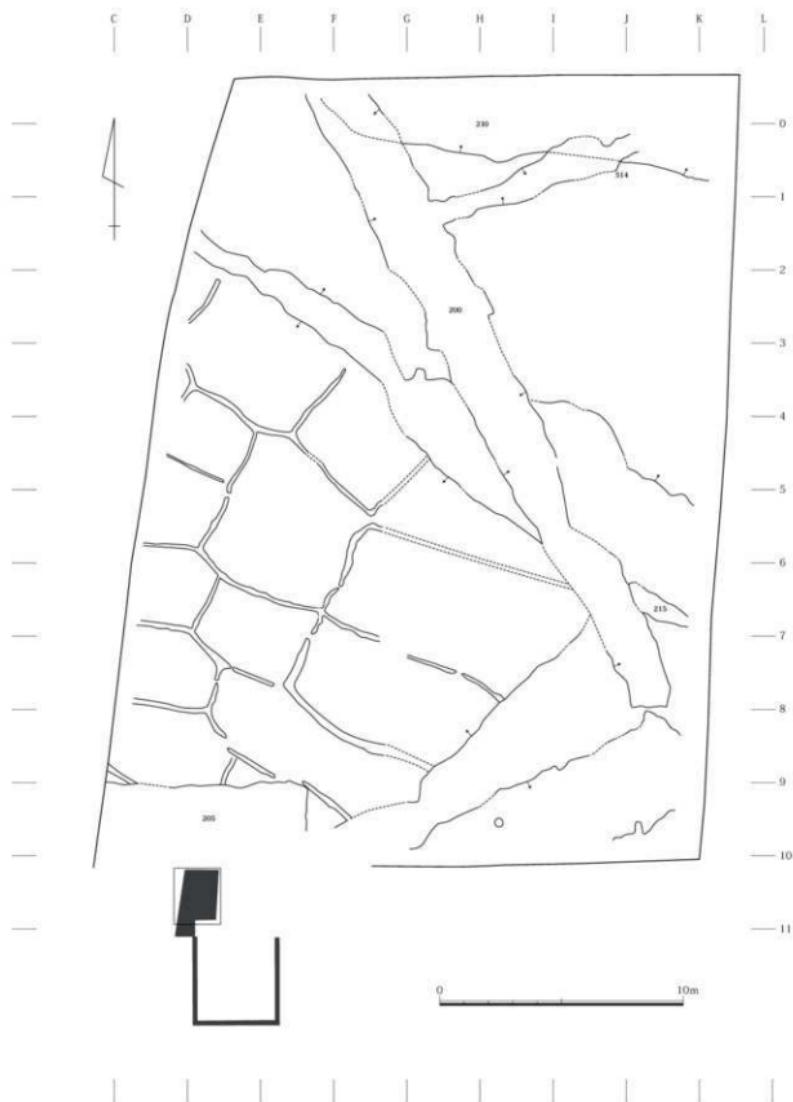


図 45 1-A 区第 2 遺構面遺構配置略図 (S=1/200)

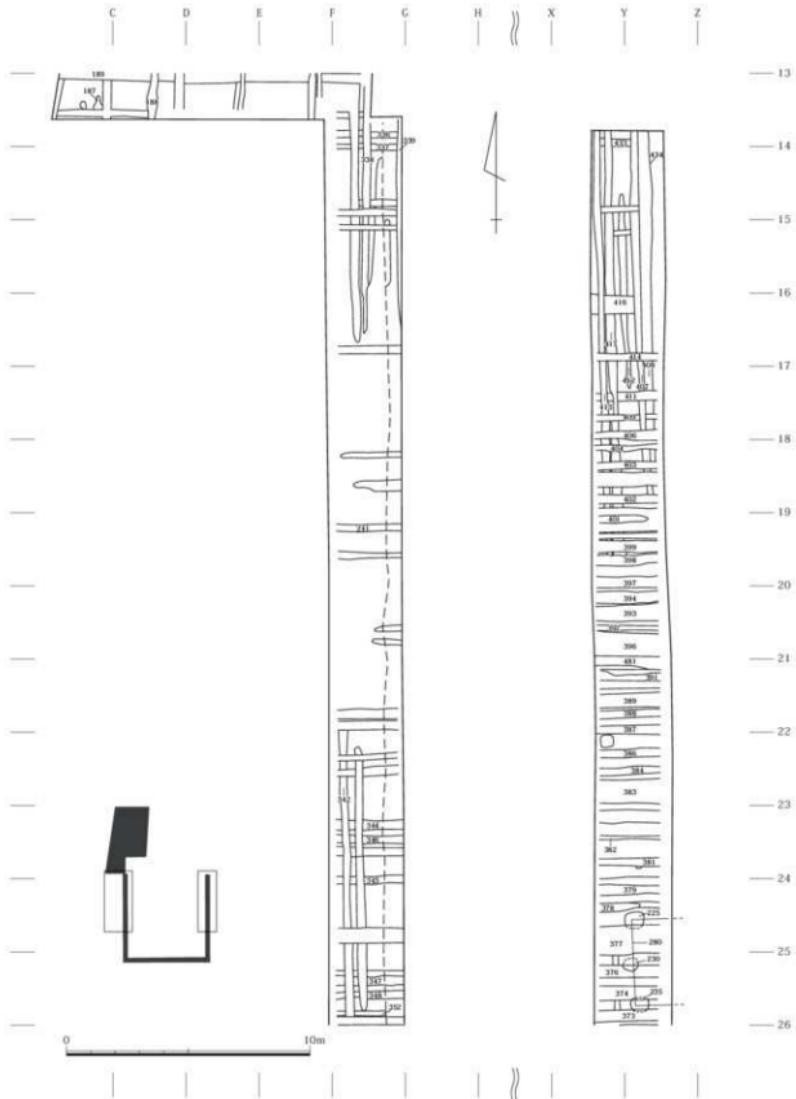


図 46 1-B 区第 1 遺構面遺構配置略図 (1) (S=1/200)

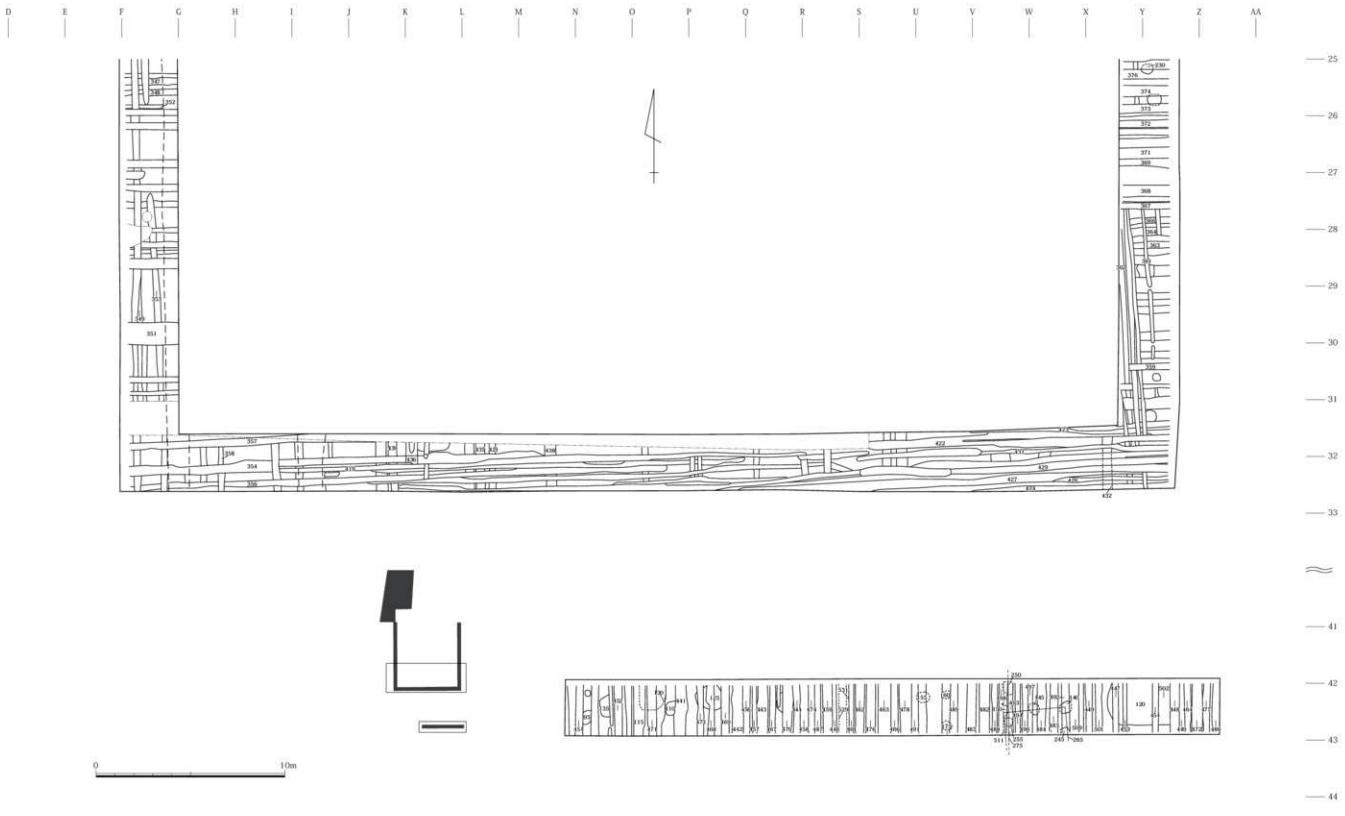


図 47 1-B 区・2 区第 1 遺構面遺構配置略図（2）（S=1/200）

表2 報告遺物一覧(1)

報告 番号	発掘 場所	写真 図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径・高さ・底径(cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
1	国14		明治色中軽妙 瓦質土器 壺	土師器 壺	12.2・2.3・* 80%	中や粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊	不良 浅黄橙 10YR8/3	
2	国14		明治色中軽妙 瓦質土器 壺	土師器 壺	*・(4.2)・* 10%	中や粗 ~2mm石英・長石	良 褐灰 N3/0	
3	国13	SD048		土製品 内板	3.1・1.2・1.1・11.8g 100%	中や粗 ~1mm石英・長石	良 灰 N6/0	瓦質土器軸用品
4	国13	SD147		土師器 壺	*・(0.9)・* 100%	中や粗 ~1mm石英・長石・質母	良	
5	国13	SD158		土師器 壺	*・(3.2)・* 100%	粗 ~3mm長石	不良 浅黄橙 7.5YR8/3	
6	国13	SD164		土師器 壺	9.8・1.7・* 20%	中や粗 ~1mm石英・長石・角閃石	良 にじい褐色 7.5YR6/3	
7	国13	SD184		土師器 壺	8.2・1.3・* 50%	中や粗 ~3mm石英・長石・質母	良 橙 7.5YR6/6	
8	国13 国版17	SD194	五第 壺	(14.2・5.3・4.4 100%)	中や粗 圓小砂粒	不良 灰 N4/0	大和III B	
9	国13	SD219	瓦質土器 壺	*・(2.7)・* 天井部片	中や粗 ~1mm石英・長石・カサリ繊・チャート	良 褐灰 N3/0		
10	国13	SD357	土師器 壺	(8.8)・1.3・* 50%	粗 ~2mm長石・カサリ繊・質母	良 にじい褐色 10YR7/2		
11	国13	SD357	箱入罐 白磁碗	*・(4.0)・* 口縁部分	粗 微小黑色粒	良 灰白 N8/0		
12	国13	SD489	瓦器 壺	(14.2)・3.2・(4.6) 20%	中や粗 微小砂粒	不良 灰 N4/0	大和III B	
13	国28 国版17	SB260a	土師器 壺	*・(3.3)・* 本体片	中や粗 ~1mm石英・長石・カサリ繊	良 橙 5YR7/6		
14	国28 国版17	SB260a	土師器 壺	(13.3)・(2.8)・* 15%	粗 ~5mm石英・長石・カサリ繊	良 にじい褐色 7.5YR7/4		
15	国28 国版17	SB260d	土師器 壺	(20.0)・(4.6)・* 15%	粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊・質母	良 橙 5YR6/8		
16	国28 国版17	SB260f	土師器 壺	*・(1.9)・* 口縁部分	中や粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊	不良 橙 5YR7/6		
17	国28 国版17	SB260f	須恵器 壺	(12.7)・(4.0)・* 20%	中や粗 ~2mm石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0		
18	国28 国版17	SB260d	須恵器 壺	(18.0)・3.8・* 25%	中や粗 ~3mm長石・質母・カサリ繊・黒色粒	良 灰白 N8/0		
19	国28 国版18	SB260a	土師器 壺	(25.6)・(23.7)・* 30%	粗 ~4mm石英・長石・カサリ繊・チャート・質母	良 橙 5YR7/6	B	
20	国29 国版19	SB280c	土師器 壺	(12.3)・3.4・* 25%	中や粗 ~2mm石英・長石・カサリ繊・チャート	良 橙 5YR7/8		
21	国29 国版19	SB280b	土師器 壺	(14.2)・1.5・* 25%	中や粗 ~2mm石英・長石・カサリ繊	良 橙 5YR6/8	H-G	
22	国29 国版18	SB265c	土師器 壺	*・(2.4)・* 口縁部分	中や粗 ~1mm石英・長石・カサリ繊	不良 にじい褐色 5YR7/4		
23	国29 国版18	SB265a	土師器 壺	*・(4.8)・* 本体片	粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊	良 橙 5YR6/8	H-A	
24	国29 国版18	SB265b	土師器 壺	*・(3.3)・* 口縁部分	粗 ~3mm石英・長石・チャート	良 圓橙 7.5YR7/8		
25	国29 国版18	SB265a	須恵器 壺	(10.4)・(2.2)・* 20%	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	H-G 盖	
26	国29 国版18	SB265a	須恵器 壺	(21.6)・(1.2)・* 天井部片	粗 ~2mm長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	H-B 盖	
27	国30 国版19	SB275b	土師器 壺	*・(2.7)・* 口縁部分	中や粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊・質母	良 にじい褐色 7.5YR6/4		
28	国30 国版19	SP045	土師器 壺	*・(2.7)・* 本体片	中や粗 ~1mm石英・長石	不良 橙 2.5YR6/8		
29	国30 国版19	SP045	須恵器 壺	*・(1.7)・* 天井部片	中や粗 ~3mm石英・長石・カサリ繊	良 灰 N5/0		
30	国30 国版19	SP045	須恵器 壺	*・(1.3)・* 口縁部分	粗 ~5mm長石・黒色粒	良 灰白 N7/0		
31	国30	SP075	須恵器 壺	*・(3.5)・* 底部片	中や粗 ~1mm石英・長石	不良 灰白 2.5YR8/1		
32	国30	SP085	土師器 壺	(11.1)・(3.2)・* 10%	中や粗 ~1mm石英・長石・質母	良 橙 2.5YR7/8	H-G	
33	国30	SP085	土師器 壺	*・(3.3)・* 口縁部分	中や粗 ~2mm石英・長石・カサリ繊・チャート	不良 橙 2.5YR7/6	A	
34	国30	SP282	須恵器 壺	(13.0)・(2.6)・* 25%	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	H-B	

表3 報告遺物一覧(2)

報告 番号	博団 番号	写真 図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径・高さ・底径(cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
35 国 30		SP523	瓦	(12.4) - (9.4) - 4.5	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良	灰白 10YR8/2	
36 国 31	国版 20	SD100	土師器 井	* - (2.0) - *	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR6/8	H G
37 国 31	国版 20	SD100	土師器 井	* - (3.0) - *	粗 ~ 3mm 石英・長石・カサリ織	不良		H G
38 国 31	国版 20	SD100	土師器 井	(6.9) - 4.3 - *	粗 ~ 3mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/3	
39 国 31	国版 20	SD100	土師器 井	50%	~ 3mm 石英・長石・カサリ織・チャート	良	5YR7/8	
40 国 31		SD100	土師器 井	(7.6) - (4.9) - *	粗 ~ 4mm 石英・長石・チャート	良	2.5YR7/3	B
41 国 31	国版 20	SD100	土師器 井	* - (5.9) - *	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・チャート・薄青	良	2.5YR8/4	A
42 国 31	国版 19	SD100	土師器 井	(25.0) - (12.5) - *	やや粗 ~ 3mm 石英・長石・カサリ織	良	5YR7/6	A
43 国 31		SD100	須恵器 蓋	15%	~ 3mm 石英・長石・カサリ織	良		
44 国 31		SD100	須恵器 蓋	(11.4) - (2.0) - *	やや粗 ~ 4mm 石英・長石	良	灰白 N7/0	B 盖
45 国 31		SD100	須恵器 蓋	39%	~ 4mm 石英・長石	良		
46 国 31		SD100	須恵器 井	* - (1.6) - *	粗 ~ 2mm 石英・長石・黑色粒	良	灰白 N8/0	B 盖
47 国 31	国版 29	SD100	須恵器 井	(14.6) - 4.0 - (8.6)	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・黑色粒	良		
48 国 31		SD100	須恵器 井	25%	~ 4mm 石英・長石・黑色粒	良	灰白 N7/0	B
49 国 31		SD100	須恵器 井	(15.8) - 4.2 - (11.8)	やや粗 ~ 3mm 石英・長石・黑色粒	良	2.5YR7/0	
50 国 31		SD100	須恵器 井	25%	~ 3mm 石英・長石・黑色粒	良	N7/0	B
51 国 31	国版 21	SD100	須恵器 井	(15.5) - 4.4 - (9.8)	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・黑色粒	良	2.5YR7/0	
52 国 31		SD100	須恵器 井	25%	~ 2mm 石英・長石・黑色粒	良	2.5YR7/0	
53 国 31		SD100	須恵器 井	(15.0) - 3.9 - (10.2)	やや粗 ~ 3mm 石英・長石・黑色粒	良	2.5YR7/0	
54 国 31		SD100	須恵器 井	25%	~ 3mm 長石・黑色粒	良	灰白 N7/0	B
55 国 31		SD100	須恵器 井	(2.9) - (8.7)	やや粗 ~ 5mm 長石・チャート	良	灰白 N7/0	C
56 国 31	国版 20	SD100	須恵器 井	(16.6) - 6.0 - *	粗 ~ 3mm 石英・長石・チャート・黑色粒	不良		
57 国 31		SD100	須恵器 井	50%	~ 3mm 石英・長石・チャート・黑色粒	良	灰白 N8/0	A
58 国 31	国版 21	SD100	須恵器 井	* - (2.1) - *	やや粗 ~ 4mm 長石・黑色粒	良		
59 国 31		SD100	須恵器 井	(1.5) - 5.5 - *	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・黑色粒	良	灰白 N7/0	
60 国 31		SD100	須恵器 井	(5.5) - *	粗 ~ 2mm 石英・長石・黑色粒	良		A
61 国 31		SD100	須恵器 井	(2.0) - 4.4 - *	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・黑色粒	良	2.5YR7/6	
62 国 31		SD100	須恵器 井	(8.0) - 4.4 - *	やや粗 ~ 4mm 長石・黑色粒	良	N6/0	
63 国 32		SD105	土師器 井	* - (2.0) - *	粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良		
64 国 32		SD105	土師器 井	* - (2.0) - *	粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良	2.5YR7/6	
65 国 32	国版 23	SD105	土師器 井	(20.7) - 3.5 - (15.6)	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/8	
66 国 32		SD105	土師器 井	20%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR6/8	B
67 国 32	国版 23	SD105	土師器 井	(15.2) - 4.3 - *	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/4	
68 国 32		SD105	土師器 井	30%	~ 4mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/4	
69 国 32	国版 21	SD105	土師器 井	8.2 - 5.2 - 5.4	やや粗 ~ 1mm 長石・カサリ織	良		
70 国 32		SD105	土師器 井	100%	~ 1mm 長石・カサリ織	良	2.5YR7/8	
71 国 32	国版 21	SD105	土師器 井	9.9 - - 6.8	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/6	
72 国 32		SD105	土師器 井	9.9 - 7.8 - *	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/6	
73 国 32	国版 21	SD105	土師器 井	100%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/6	
74 国 32		SD105	土師器 井	(16.2) - (5.2) - *	粗 ~ 5mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR8/4	A
75 国 32		SD105	土師器 井	(19.0) - (4.4) - *	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/6	A
76 国 32		SD105	土師器 井	(3.5) - *	やや粗 ~ 3mm 石英・長石・カサリ織	良	2.5YR7/6	
77 国 32		SD105	土師器 井	(17.0) - (1.5) - *	やや粗 ~ 1mm 石英・長石・黑色粒	良	灰白 N7/0	
78 国 32		SD105	土師器 井	(16.0) - (2.0) - *	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・チャート・黑色粒	良	青灰 5B6/1	B
79 国 32		SD105	土師器 井	(1.8) - *	やや粗 ~ 2mm 長石・黑色粒	良	灰白 N8/0	B

表4 報告遺物一覧(3)

報告 番号	発掘 場所	写真 版	出土遺構 部位	種別 器種	口径・高さ・底径(cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
69	国32		SD105 直	須恵器 片	*-(2.0)-*	中や粗 ~1mm長石・黒色粒	良 灰白N7/0	井B蓋
70	国32	国版21	SD105 直	須恵器 片	*-(4.2)-*	中や粗 ~2mm長石・黒色粒	良 灰白N8/0	井B
71	国32	国版21	SD105 直	須恵器 片	9.6-5.1-6.4 80%	粗 ~2mm長石	良 灰白N8/0	井B
72	国32		SD105 直	須恵器 片	(15.0)-(4.8)-*	中や粗 ~5mm石英・長石・黒色粒	良 灰白N7/0	
73	国32		SD105 井	須恵器 片	(19.0)-(9.3)-*	中や粗 ~3mm長石・チャート・黒色粒	不良 灰白2.5YR8/1	
74	国32	国版21	SD105 直	須恵器 片	*-(8.5)-(8.5) 50%	中や粗 ~4mm長石・黒色粒	良 灰白N7/0	直K
75	国32		SD105 直	須恵器 片	*-(20.3)-(7.3) 25%	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	直K
76	国33		SD105 直	土師器 壺	(6.3)-(7.9)-(1.3)	中や粗 ~3mm石英・長石・クサリ輝	良 橙5YR7/8	
77	国33	国版21	SD105 直	土師器 壺	(11.1)-(8.2)-(3.9)	中や粗 ~1mm石英・長石・雲母	良 橙5YR7/6	
78	国33	国版22	SD105 内板	土製品	4.9-5.8-1.0-32.6g 100%	中や粗 ~1mm長石・黒色粒	良 灰白N8/0	須恵器軸用品
79	国33	国版22	SD105 内板	土製品	(3.4)-(4.0)-1.8 100%	粗 ~4mm石英・長石・雲母	不良 に上い橙7.5YR6/4	
80	国33	国版22	SD105 丸	土師器 平瓦	(15.2)-(11.8)-4.3	粗 ~4mm石英・長石	良 灰N7/0	
81	国33		SD105 丸	浮生土器 丸杯	*-(8.9)-*	粗 ~1mm長石・クサリ輝	良 橙5YR7/6	
82	国34	国版22	SE165 井	土師器 壺	*-(2.2)-*	中や粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 浅黄橙7.5YR8/3	井A
83	国34	国版22	SE165 井	土師器 壺	*-(4.5)-*	中や粗 ~8mm石英・長石・クサリ輝・チャート	良 橙5YR7/8	井A
84	国34	国版22	SE165 井	土師器 壺	(37.8)-(5.0)-*	粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝	良 橙5YR7/8	井A
85	国34	国版22	SE165 井	土師器 壺	*-(5.7)-*	中や粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝・雲母	良 橙5YR7/8	
86	国34	国版22	SE165 丸井	土師器 壺	(6.8)-(11.1)	粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝	良 浅黄橙7.5YR8/6	
87	国34		SE165 丸井	土師器 壺	*-(7.4)-*	中や粗 ~2mm石英・長石・クサリ輝・チャート・雲母	良 に上い黄橙10YR7/4	
88	国34	国版22	SE165 直	須恵器 片	13.1-3.0-*	粗 ~5mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	井H蓋
89	国34	国版23	SE165 井	須恵器 片	6.8)-2.2-*	粗 ~1mm長石	良 灰N6/0	
90	国34	国版23	SE165 井	須恵器 片	15.2-3.7-10.6 70%	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰N7/0	井B
91	国34	国版23	SE165 井	須恵器 片	(15.4)-(4.3)-(10.8) 25%	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰N6/0	井B
92	国34	国版23	SE165 井	須恵器 片	(15.8)-4.4-(10.8) 40%	中や粗 ~3mm石英・長石・黒色粒	良 灰N6/0	井B
93	国34		SE165 丸井	須恵器 片	*-(2.9)-*	粗 ~1mm石英・長石・黒色粒	良 灰白N7/0	
94	国34	国版23	SE165 丸井	須恵器 片	(20.2)-(10.5)-*	粗 ~3mm長石	良 灰N6/0	
95	国35		SK060 直	土師器 壺	*-(1.7)-*	中や粗 ~1mm石英・長石・クサリ輝	良 橙5YR7/6	井B蓋
96	国35		SK060 直	土師器 壺	*-(2.0)-*	中や粗 ~2mm石英・長石・黒色粒	良 橙5YR7/6	井A
97	国35	国版23	SK060 井	土師器 壺	(14.2)-3.0-*	中や粗 ~2mm石英・長石・雲母	不良 2.5YR6/6	
98	国35		SK060 井	土師器 壺	*-(3.1)-*	中や粗 ~1mm長石・石英・雲母	良 橙7.5YR7/6	
99	国35		SK060 井	土師器 壺	*-(6.1)-*	中や粗 ~4mm石英・長石・チャート	良 浅黄橙7.5YR8/6	
100	国35	国版23	SK060 井	須恵器 片	(12.2)-3.4-*	中や粗 ~3mm石英・長石	良 灰白N7/0	井A
101	国35	国版23	SK060 井	須恵器 片	40%	中や粗 ~4mm石英・長石・黒色粒	良 灰白N7/0	井B
102	国35	国版23	SK060 井	須恵器 片	20%	中や粗 ~1mm長石・黒色粒	良 灰白N8/0	

表5 報告遺物一覧 (4)

報告 番号	博物 館	写真 図版	出土遺構 部位	種別 器種	口径・器高・底径 (cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
103 国 35	国版 24	SK060	須恵器 壺	口縁部片	(19.0) - (6.2) - *	やや粗 ~ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	
104 国 35		SK060	須恵器 壺	口縁部片	* - (5.2) - *	粗	良	
105 国 35	国版 24	SK060	土師器 壺	(16.8) - (11.2) - (5.9)	やや粗 ~ 4mm 石英・長石・カサリ織	良 灰白 N5/0		
106 国 36	国版 24	SK180	土師器 壺	口縁部片	* - (3.8) - *	やや粗 ~ 2mm 石英・長石・カサリ織・雲母	焼 5YR7/6	
107 国 36	国版 24	SK190	土師器 壺	(12.5) - 2.5 - *	やや粗 25%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良 灰 5YR6/8	付 A
108 国 36	国版 24	SK195	土師器 壺	(10.5) - (11.3) - (5.7)	やや粗 25%	~ 4mm 石英・長石・カサリ織・チャート・雲母	良 焼 5YR7/6	
109 国 36	国版 25	SK070	木製品 木品	(25.5) - 4.9 - (2.9)				板目(4)
110 国 36		SK120	土師器 壺	(21.0) - (2.0) - *	やや粗 20%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良 焼 5YR7/6	付 B 盖
111 国 36		SK120	土師器 壺	* - (2.3) - *	やや粗 天井部片	~ 4mm 石英・長石・カサリ織	不良 焼 5YR7/8	付 B 盖
112 国 36	国版 25	SK120	土師器 壺	(14.0) - 2.6 - *	やや粗 25%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	不良 焼 5YR7/6	付 G
113 国 36	国版 25	SK120	土師器 壺	* - (3.0) - *	粗 口縁部片	~ 3mm 石英・長石・カサリ織	良 焼 5YR6/6	
114 国 36	国版 25	SK120	須恵器 壺	(17.6) - 2.6 - つまみ紐 2.9	粗 35%	~ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	付 B 盖
115 国 36	国版 25	SK120	須恵器 壺	(20.6) - 2.3 - つまみ紐 3.1	粗 70%	~ 1mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	付 B 盖
116 国 36	国版 25	SK120	須恵器 壺	(16.4) - 4.1 - (11.6)	やや粗 25%	~ 5mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	付 B
117 国 36	国版 25	SK120	須恵器 壺	(15.2) - (5.0) - *	やや粗 口縁部片	~ 1mm 長石・カサリ織・黒色粒	良 灰白 N7/0	
118 国 36	国版 25	SK120	須恵器 壺	(18.0) - (6.8) - *	やや粗 口縁部片	~ 5mm 長石・カサリ織・黒色粒	良 灰 N6/0	
119 国 36		SK120	外生土器 壺	* - (3.7) - 4.6	やや粗 底部片	~ 4mm 石英・長石・カサリ織・チャート・雲母 にいし 横 7.5YR7/4	良	
120 国 37	国版 26	SX205	土師器 壺	(13.0) - 2.4 - *	やや粗 20%	~ 3mm 石英・長石・カサリ織・チャート	不良 焼 5YR6/8	付 C
121 国 37	国版 26	SX205	土師器 壺	(23.4) - 2.9 - *	粗 15%	~ 1mm 石英・長石・カサリ織	良 焼 5YR7/8	付 A
122 国 37		SX205	土師器 壺	* - (4.7) - *	やや粗 口縁部片	~ 2mm 石英・長石・カサリ織・チャート	良 焼 5YR7/6	
123 国 37	国版 26	SX205	須恵器 壺	(14.8) - 3.5 - *	やや粗 35%	~ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	付 B 盖
124 国 37		SX205	須恵器 壺	(17.0) - (4.8) - *	やや粗 25%	~ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	
125 国 37	国版 26	SX205	須恵器 壺	(37.6) - (8.3) - *	やや粗 口縁部片	~ 2mm 石英・長石・カサリ織・チャート	良 焼 5YR7/6	
126 国 39	国版 26	SD293	土師器 壺	(21.0) - (3.2) - *	粗 20%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良 焼 5YR6/8	付 A
127 国 39		SD293	土師器 壺	(12.8) - (3.2) - *	やや粗 20%	~ 2mm 石英・長石・カサリ織	良 焼 5YR6/6	付 G
128 国 39		SD293	須恵器 壺	(16.6) - 4.4 - (12.6)	やや粗 50%	~ 3mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	付 B
129 国 39		SD293	須恵器 壺	* - (3.3) - *	やや粗 口縁部片	~ 1mm 石英・長石	良 灰白 N8/0	
130 国 39		SD263	須恵器 壺	(16.4) - 3.6 - つまみ紐 3.0	やや粗 50%	~ 1mm 石英・長石・黒色粒	良 灰 N6/0	付 B 盖
131 国 39		SD496	須恵器 壺	(13.7) - (2.2) - *	やや粗 50%	~ 2mm 石英・カサリ織・チャート・黒色粒	良 灰白 N7/0	
132 国 39	国版 27	SD496	須恵器 壺	(16.2) - 4.5 - 12.2	やや粗 80%	~ 3mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	
133 国 39		SD271	須恵器 壺	(12.0) - (4.7) - *	粗 口縁部片	~ 2mm 長石・黒色粒	良 灰白 N8/0	
134 国 39		SD386	須恵器 壺	(18.8) - (6.4) - *	やや粗 口縁部片	~ 3mm 石英・長石・チャート・黒色粒	良 灰 N4/0	
135 国 39	国版 27	SD326	須恵器 壺	(12.0) - (5.3) - *	やや粗 口縁部片	~ 3mm 長石・黒色粒	良 灰 N7/0	
136 国 39		SD258	須恵器 壺	(21.6) - (6.2) - *	やや粗 口縁部片	~ 2mm 石英・長石・黒色粒	良 灰白 N7/0	

表6 報告遺物一覧(5)

報告 番号	掲図 図版	写真 図版	出土遺構 層位	種別 器種	口径・器高・底径(cm) 残存率	胎土・素材	焼成・色調	特記事項
137	図39		SD209 通	須志部 体部片	*-(5.0)-*	中や粗 ~3mm長石・黒色粒	良 灰白N7/0	
138	図39	図版27	SD069 通	須志部 体部片	*-(7.0)-*	中や粗 ~2mm長石・黒色粒	良 灰白N7/0	須志土器
139	図40	図版28	SD102	土製品 鉢型	(3.4)-(2.5)-(2.0)	やや粗 ~4mm石英・長石・クサリ礫	良 浅黄褐7.5YR8/4	
140	図40	図版28	SD118	土製品 不明品	(4.0)-(2.3)-1.9	やや粗 ~2mm長石・クサリ礫	良 浅黄7YR8/4	
141	図40		SD294 丸瓦		(9.3)-(4.7)-(5.5)	中や粗 ~3mm石英・長石・チャート	不良 灰白10YR8/2	
142	図40	図版28	SD244 平瓦		(10.8)-(8.6)-3.0	粗 ~5mm石英・長石・チャート	不良 稍7.5YR7/8	
143	図40	図版27	SD244 円筒埴輪		*-(4.5)-*	粗 ~4mm石英・長石・クサリ礫	良 稍2.5YR7/8	
144	図40	図版27	SD294 形象埴輪		(10.0)-(10.7)-(2.0)	粗 ~3mm石英・長石・クサリ礫・チャート	良 稍7.5YR6/6	
145	図41		SD100	動物遺体 ウマ				白面
146	図41		SE165 馬骨頭部黑色土	動物遺体 ウマ	共(21.8)			右手中手骨

表7 検出遺構および出土遺物一覧(1)

5番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
1			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 杯・甕・壺、輪入青磁細片、圓窓陶器細片	J・K0 ~ 6
2			素掘溝		土師器(古代) 細片、土師器(中世) 瓢、須恵器(古代) 杯	J・K0 ~ 3
3			素掘溝		円筒形陶器細片	J・K4 ~ 5
4			素掘溝		丸細片	J8
5		暗褐色粘土質	溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 杯・甕・壺、輪入青磁細片、圓窓陶器細片、圓窓陶器細片、粗片、平底、丸瓦、燒石	K・L0 ~ 10
6		青灰色粘土	素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 杯・甕・壺、圓窓陶器細片、圓窓陶器細片、圓窓陶器細片、平瓦、瓦當子	J0 ~ 10
7			素掘溝		土師器(古代) 甕・細片、須恵器(古代) 甕	J0 ~ 1
8			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕	J0 ~ 1
9			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片	J1
10	SB260b	掘方	ピット		土師器(古代) 細片	C12
		柱板			土師器(古代) 甕、須恵器(古代) 細片	
11			素掘溝		土師器(古代) 細片	J0 ~ 1
12			素掘溝		土師器(古代) 甕・細片、須恵器(古代) 甕・細片、瓦形陶器・細片	J0 ~ 3
13			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	J0 ~ 1
14			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片	J1 ~ 3
15	SB260a	掘方	ピット		土師器(古代) 皿・瓶	D12
		柱板			杭	
16			掘孔		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕	E ~ J0 ~ 6
17			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・平瓦	J0 ~ 1
18			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	H1
19			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	G2 ~ 3
20	SB260c	柱板 掘方	ピット		須恵器(古代) 細片	C11
					土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕	
21			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・圓窓陶器細片、圓窓陶器細片、面戸瓦	G2 ~ 3
22			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・甕・壺・蓋・圓窓・瓦細片、木造	G2 ~ 3
23			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	G・H2 ~ 3
24			素掘溝		土師器(古代) 甕・細片、土師器(中世) 釜、須恵器(古代) 細片、平瓦	H2 ~ 3
25	SB260f	掘方 柱板	ピット		土師器(古代) 甕・圓窓・須恵器(古代) 甕・健	D11
					土師器(古代) 細片	
26			素掘溝		土師器(古代) 細片	H2 ~ 3
27			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕、灰釉阿波壺	H2 ~ 3
28			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・細片	H2 ~ 3
29			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・細片、圓窓染付瓶	H2 ~ 3
30	SB260d	掘方	ピット		土師器(古代) 皿・細片	C11
					土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕・甕	
31			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕・圓窓・圓窓染付瓶片、平瓦	H2 ~ 3
32			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕・蓋・圓片、瓦形陶器	I2 ~ 3
33			素掘溝		土師器(古代) 甕、須恵器(古代) 細片、瓦質土器細片、圓窓陶器細片、圓窓陶器細片	I2 ~ 3
34			素掘溝		須恵器(古代) 甕・圓片	I2 ~ 3
35	SB260e	柱板 掘方	ピット		土師器(古代) 甕・圓片、須恵器(古代) 甕・圓片	D11
					土師器(古代) 甕・圓片、須恵器(古代) 甕・蓋	
36			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕・甕	I・J2 ~ 3
37			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕	F1 ~ 3
38			素掘溝		土師器(古代) 皿・細片、須恵器(古代) 甕、圓窓陶器日付模	E1 ~ 2
39			素掘溝	S-93上同一	土師器(古代) 甕・圓片、須恵器(古代) 細片	E1 ~ 3
40		明褐色中粒砂	ピット		須恵器(古代) 甕・圓片	C10
41			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片、圓窓染付瓶片	E1 ~ 3
42			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕・甕・圓片、灰釉阿波壺	E1 ~ 3
43			素掘溝		土師器(古代) 細片	G2 ~ 5
44			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	G2
45	SP045		ピット		土師器(古代) 皿・高杯・甕、須恵器(古代) 甕・蓋、桃核	D10
46			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	G2 ~ 5
47			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	F2 ~ 3
48			素掘溝		土師器(古代) 甕・圓片、須恵器(古代) 細片、土製凹版	H3 ~ 5
49			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 甕	H2 ~ 5
50			ピット		土師器(古代) 皿、須恵器(古代) 甕	D9
51			素掘溝		土師器(古代) 皿・圓片、須恵器(古代) 甕、瓦質土器細片	H2 ~ 4
52			素掘溝		土師器(古代) 甕	H4
53			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片、瓦胎核	G2 ~ 4
54			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片、瓦質土器細片	G1
55			ピット		土師器(古代) 細片	D9
56			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	G1
57			素掘溝		土師器(古代) 細片、須恵器(古代) 細片	H1
58			素掘溝		土師器(古代) 皿・圓片、須恵器(古代) 甕・甕・蓋・圓片	I2 ~ 5

表8 検出遺構および出土遺物一覧 (2)

番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
59			素面溝		土師器(古代) 杯・縁片、須恵器(古墳時代) 杯・蓋、須恵器(古代) 蓋・蓋・縁片 縁片	J4
60	SK069	井戸?			土師器(古代) 盆、杯・縁・高环・縁・縁、須恵器(古代) 杯・縁・縁片、不明石製品、木片	D9・10
61			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 杯・縁	J4
62			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 杯・蓋・縁片	F2 ~ 6
63			素面溝		土師器(古代) 杯、須恵器(古墳時代) 杯、須恵器(古代) 縁片	F2 ~ 6
64			素面溝		土師器(古代) 杯・縁片、須恵器(古代) 蓋	E1 ~ 6
65			ピット			D4
66			素面溝		土師器(古代) 盆、縁・縁片、須恵器(古代) 蓋・縁片、瓦飾片	E1 ~ 6
67			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 縁片	F2 ~ 6
68			素面溝		須恵器(古代) 蓋・縁	F4 ~ 6
69	SD069		素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 杯・縁・蓋・縁片、因幡陶器柄、鉢貝土 遺物(新緑)	D・E1 ~ 6
70	SK070	土坑	木製品出土		木製品断面	F1・2
71			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋、灰陶陶器壺	E1 ~ 6
72			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋	E1 ~ 6
73			素面溝		須恵器(古代) 縁片、灰陶陶器壺	E3 ~ 6
74			素面溝		須恵器(古代) 縁片	F3 ~ 6
75	SP975	掘方	ピット		土師器(古代) 杯・縁片、須恵器(古代) 蓋 土師器(古代) 蓋・蓋・埋植(土師器軸孔か?)	C・D11
76			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁、輪入青磁不明	G2 ~ 6
77			素面溝		須恵器(古代) 縁片	G6 ~ 7
78			素面溝		鉢	G6 ~ 7
79			素面溝		土師器(古代) 縁片	H6
80	SK080	土坑			土師器(古代) 杯・縁片、須恵器(古代) 蓋 因幡陶器壺	K・L1
81			覆瓦		土師器(古代) 縁片	H ~ 16
82			素面溝		土師器(古代) 縁片	I2 ~ 8
83			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古墳時代) 杯・蓋、須恵器(古代) 蓋、平瓦	I3 ~ 9
84			覆瓦		土師器(古代) 盆、土師器(中世) 蓋、須恵器(古代) 杯・縁、平瓦	I6 ~ 9
85	SP085		ピット		土師器(古代) 杯・縁・縁片	D9・10
86			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋	B6 ~ 9
87			素面溝		土師器(古代) 高环・蓋・縁片、須恵器(古墳時代) 杯、須恵器(古代) 蓋	I5 ~ 7
88			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 縁片	I7 ~ 9
89			素面溝		土師器(古代) 杯・縁・縁片	I7 ~ 10
90		土坑				H ~ 14
91			素面溝		土師器(古代) 盆	F6
92			素面溝		須恵器(古代) 蓋	E5
93			素面溝	S-39と同じ	土師器(古代) 縁片	E2 ~ 9
94			素面溝		土師器(古代) 杯・縁片	E6 ~ 8
95			ピット			O43
96			素面溝		土師器(古代) 高杯・縁片、須恵器(古代) 杯・縁	F6 ~ 8
97			素面溝		土師器(古代) 蓋・縁片、須恵器(古代) 杯・丸足壺	E7 ~ 9
98			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋	E8 ~ 10
99			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁・縁片	E6 ~ 8
100	SD100	溝	SF500西側溝		土師器(古代) 杯・高杯・縁・蓋・縁・縁片、須恵器(古代) 杯・蓋・縁・高杯・ 蓋・縁・縁片、瓦飾片、不明石製品、軽平瓦・平瓦、木片、馬銜、鐵錐 須恵器(古代) 蓋	G ~ H0 ~ 33
101			素面溝			E7
102	SD102		素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋	E1 ~ 8
103			素面溝		須恵器(古代) 縁片	D6・7
104			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 縁片	H7
105	SD105	溝	SF500中央溝		土師器(古代) 杯・杯・縁・蓋・高杯・縁・縁片、土師器(中世) 蓋、須 恵器(古墳時代) 杯、須恵器(古代) 杯・蓋・縁・蓋・平瓦・丸瓦・時型・枕、 円錐埴輪 須恵器(古代) 杯	J0 ~ 33
106			素面溝			H7
107					矢差	
108			素面溝		土師器(古代) 盆	H7 ~ 9
109			素面溝		須恵器(古墳時代) 蓋	H7 ~ 9
110			ピット			P43
111			素面溝		須恵器(古代) 縁片	H7 ~ 8
112			素面溝		土師器(古代) 縁片	G7 ~ 8
113			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁・縁片、因幡染付陶・平瓦	G7 ~ 9
114			素面溝		土師器(古代) 縁片	G6 ~ 7
115			溝			P43
116			素面溝		土師器(古代) 杯、須恵器(古代) 杯	F・G8・9
117			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁・縁片	F4 ~ 9
118	SD118		素面溝		土師器(古代) 縁片、不明石製品	F6・7
119			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 杯・縁・蓋・高杯・因幡陶器壺・平瓦	F6 ~ 9
120	SK120	土坑			土師器(古代) 杯・蓋・縁・縁片、須恵器(古代) 杯・縁・縁・蓋・長石片	V・Z43
121			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁・縁片	F7 ~ 8
122			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 蓋・縁・縁片、平瓦	F7 ~ 8
123			素面溝		土師器(古代) 縁片、須恵器(古代) 杯・平瓦・封	G8 ~ 10

表9 検出遺構および出土遺物一覧(3)

5番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
124			素振溝		土師器(古代)杯・甕・細片、須恵器(古代)壺・甕。黒色土器B類板、因庄 陶器断片	F6 ~ 10
125			土坑		土師器(古代)皿・縁・細片	Q43
126			素振溝		土師器(古代)杯・粗片、須恵器(古代)甕	E9 ~ 10
127			素振溝		土師器(古代)縁片、瓦質土器断片	E8 ~ 10
128			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	E9 ~ 10
129			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	E6 ~ 9
130			井戸?		不明な製品	P43
131			素振溝		土師器(古代)甕・瓶・縁・細片、須恵器(古代)甕・甕・蓋・縁片。黒色土器B 類板	D7 ~ 14
132			素振溝		土師器(古代)甕・瓶・縁・細片、須恵器(古代)甕。平瓦	D7 ~ 10
133			素振溝		土師器(古代)杯・粗片、須恵器(古代)杯・甕・縁	D8 ~ 10
134			素振溝		土師器(古代)甕・土師器(中世?)瓶	D7 ~ 8
135			土坑			O43
136			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕・甕	F6 ~ 10
137			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯	F8 ~ 10
138			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕	G ~ 146 ~ 9
139			素振溝		土師器(古代)縁片、因庄陶器板	G8 ~ 9
140	SB265c	柱根 瓶方	ピット		土師器(古代)杯	X43
141			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)蓋	H6 ~ 9
142			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)蓋	F8 ~ 10
143			素振溝		土師器(古代)甕・瓶・粗片、須恵器(古代)甕・甕・縁・瓦質土器縁片	F6 ~ 10
144			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)縁片	E9 ~ 10
145	SB265b	柱根 瓶方	ピット		土師器(古代)縁片	X43
146			素振溝		土師器(古代)甕・縁	
147			素振溝		土師器(古代)甕・縁・粗片、土師器(中世?)皿、須恵器(古代)甕・縁	D8 ~ 14
148			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	D9 ~ 11
149			素振溝		土師器(古代)甕・土師器(古代)杯・甕	C ~ D11 ~ 12
150	SB265a	柱根			土師器(古代)杯・瓶・粗片、須恵器(古代)杯・甕	C ~ D11 ~ 12
151			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)蓋	W43
152			素振溝		土師器(古代)皿・縁・粗片、土師器(中世?)皿、須恵器(古代)杯・甕・蓋	F11 ~ 12
153			素振溝		土師器(古代)高杯・甕・縁、須恵器(古代)甕・縁	F11 ~ 14
154			周丘		土師器(古代)甕・縁・粗片、須恵器(古代)杯・甕・蓋・ハツク・縁片、丸型板	F11 ~ 14
155			ピット		土師器(古代)縁片	V43
156			素振溝		土師器(古代)皿・縁・粗片、須恵器(古代)杯	E12
157			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	E10 ~ 14
158			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕・縁・細片、瓦脚柄	G11 ~ 14
159			素振溝		土師器(古代)縁片	C ~ G13
160			ピット		土師器(古代)縁片、本片	V43
161			素振溝		土師器(古代)縁片	D12 ~ 14
162			素振溝		須恵器(古代)縁片	D12 ~ 14
163			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	D ~ E11 ~ 14
164			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕・蓋・瓦脚柄	E11 ~ 14
165	SE165	最下層 砂泥質粘土	土坑	S-60, S-45下	土師器(古代)皿・杯・高杯・甕・縁、須恵器(古代)杯・甕・蓋・甕	D10 ~ 11
166			素振溝		動物骨	
167			素振溝		土師器(古代)杯・甕、須恵器(古代)杯・甕・蓋	F1 ~ 3
168			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕・蓋、平瓦	E0 ~ 1
169			素振溝		土師器(古代)甕・縁片、須恵器(古代)甕	E1 ~ 3
170				矢器		E0 ~ 3
171			素振溝		土師器(古代)縁片、土師器(中世?)皿、須恵器(古代)甕	E1 ~ 3
172			素振溝		土師器(古代)皿・甕、須恵器(古代)杯・甕・蓋	F1 ~ 6
173			素振溝		須恵器(古代)杯・甕、瓦脚柄	E1 ~ 3
174			素振溝		須恵器(古代)甕・蓋、黒色土器B類板片	G ~ H10
175			ピット			V43
176			素振溝		土師器(古代)甕・縁片、須恵器(古代)縁片	D10 ~ 11
177			素振溝		土師器(古代)甕・縁・粗片、須恵器(古代)縁片	D9 ~ 10
178			素振溝		土師器(古代)縁片	E11 ~ 13
179			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕	D ~ E9 ~ 3
180	SK180		土坑		土師器(古代)甕・縁・粗片、平瓦小片	K ~ L8 ~ 1
181			素振溝		須恵器(古代)縁片	E3
182			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕	D2 ~ 3
183			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)甕	F3 ~ 5
184			素振溝		土師器(古代)甕・縁・粗片、土師器(中世?)皿、須恵器(古代)甕・甕・蓋・縁片	F0 ~ 4
185			土坑		須恵器(古代)杯・甕	J ~ K2
186			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕・縁片	F0 ~ 4
187			素振溝		土師器(古代)甕・縁片	C14
188			素振溝		土師器(古代)甕・縁・粗片	D13 ~ 14
189			素振溝		土師器(古代)縁片、須恵器(古代)杯・甕・縁片	C ~ G13 ~ 14

表 10 検出遺構および出土物一覧 (4)

番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
190	SK190		土気		土師器（古代）杯 須恵器（古代）杯	K1
191			素胎焼			F・G1
192			素胎焼	土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）杯・縦	F13・14	
193			素胎焼	須恵器（古代）便	E12～14	
194	SD194		素胎焼	瓦踏柵出土	土師器（古代）杯・便・縦片、須恵器（古代）便・瓦踏柵、不明石製品	C9～14
195	SK195		土気		土師器（古代）便 須恵器（古代）縦・蓋	J7・8
196			素胎焼		土師器（古代）杯・縦片、須恵器（古代）便	C・D12
197			素胎焼		土師器（古代）縦片、輪入青磁柄	F0～2
198			素胎焼		須恵器（古代）杯・縦片	E3～6
199			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）杯・便・縦	D・E5～6
200	SD200		溝		土師器（古代）杯・便・縦片、須恵器（古代）便・縦片	G・K0～8
201			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	E3～7
202			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	E・F2～6
203			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便・縦片	D4～6
204	SD204		素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋、円筒埴輪	F6～7
205	SX205		落ち込み		土師器（古代）杯・便・縦台・縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋、平瓦、不明石製品	C・F11
206			素胎焼		木製品	F6～7
207			素胎焼		土師器（古代）縦片	F0～7
208			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	C・D10
209	SD209		素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦・細片、須恵器（古代）杯・便・蓋・縦・細片	C～H10
210			溝路			F・L0・1
211			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）縦片	F5～7
212			素胎焼		土師器（古代）杯・蓋・縦片、須恵器（古代）便・蓋	D・E4～7
213			素胎焼		須恵器（古代）縦片	D～F5
214			素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦・細片、須恵器（古代）蓋	D5～6
215	SD215		基幹水路			K7
216			素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦片、須恵器（古代）便	C・D12
217			素胎焼		土師器（古代）蓋・縦片、須恵器（古代）杯・便	C・D10
218			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便・蓋	E6～7
219			素胎焼		須恵器（古代）便	E7～8
220			ピット			Z25
221			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）便	E12～14
222			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	D11～14
223			素胎焼		土師器（古代）杯・縦片	E・F11
224			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）便・縦片	D6～7
225	SB280c		ピット		土師器（古代）杯・縦片	Z25
226			素胎焼		土師器（古代）杯・縦片、須恵器（古代）便	E8～9
227			素胎焼		土師器（古代）縦片、瓦踏柵	E7～8
228			素胎焼		土師器（古代）杯・縫・便・縦片、須恵器（古代）便・縫・蓋	D・E4～14
229			素胎焼		土師器（古代）高杯・縦片、須恵器（古代）便	D7～9
230	SB280b		ピット		土師器（古代）便・縦片	Y・Z・26
231			素胎焼		須恵器（古代）杯・便	D9～11
232			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）蓋・縦片	C～P9
233			廻丸		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）杯・便	E10
234			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	C～P9・10
235	SB280a		ピット		土師器（古代）杯・縦片、須恵器（古代）便・縦片	Z26
236			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）便	C12～14
237			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）便	C～F13
238			素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦・縦片、須恵器（古代）便・縫・蓋	C～E13
239			素胎焼		土師器（古代）杯・縦片	E・F11・12
240			ピット			Z27
241			素胎焼		土師器（古代）高杯・縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋	D11
242			素胎焼		土師器（古代）杯・縦片、須恵器（古代）便・縫・縦片	G2～7
243			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）縦片	G3・4
244	SD244		素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）縦片、平瓦、円筒埴輪	G2～5
245			ピット			X43
246			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋、瓦踏柵	H1～5
247			陶質土器底（新羅）S-69の遺物と後合S-69に帰属		土師器（古代）杯・縦片、土師器（中世）便・縦片、須恵器（古代）便・縫・縦片	H1～5
248			素胎焼		土師器（古代）縦片	H1～5
249			素胎焼		土師器（古代）縦片	H0・1
250	SB275b		ピット		土師器（古代）杯・縦片、須恵器（古代）便	W43
251			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）便・蓋・縦片	H0～10
252			素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦片、土師器（中世）便・縦片、須恵器（古代）便	J0～10
253			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、土師器（中世）便・縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋・縦片	J0～7
254			素胎焼		土師器（古代）杯・便・縦片、須恵器（古代）便・蓋	J0～3
255	SB275a		ピット			W43
256			素胎焼		土師器（古代）便・縦片、須恵器（古代）便・縫・瓦踏柵	J0～3
257			素胎焼		土師器（古代）縦片、須恵器（古代）杯・便・蓋・縦片	H・I0～4
258	SD258		素胎焼	S-292 ヒダブリ	土師器（古代）高杯・縦片、須恵器（古代）便・縫・蓋、瓦質土器縫	G・H1～11
259	SD259		素胎焼		土師器（古代）杯・便、須恵器（古代）杯・便・縫・蓋、瓦質土器縫	G6～9

表 11 検出遺構および出土遺物一覧 (5)

5番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
260	SB260		掘立柱建物	S-10・15・20・25・30・35	須恵器(古代) 磁片 土師器(古代) 壺・瓶片。須恵器(古代) 壺・甕。平瓦	C・D11・12
261			素振溝		須恵器(古代) 磁片	G4 ~ 6
262			素振溝		土師器(古代) 壺・瓶片。須恵器(古代) 壺・甕。	E ~ H6・7
263	SD263		素振溝		土師器(古代) 杯・瓶片。須恵器(古代) 壺・甕	H0・1
264			素振溝		土師器(古代) 甕	I ~ J0 ~ 7
265	SB265		掘立柱建物	S-140・145・150		W・X43
266			素振溝		土師器(古代) 杯・瓶片。須恵器(古代) 壺・甕	H0 ~ 5
267			素振溝		須恵器(古代) 壺	G ~ I3
268			素振溝		土師器(古代) 壺・瓶片	H2 ~ 6
269			素振溝		須恵器(古代) 甕・瓶片	G0 ~ 2
270			掘立柱建物	S-160・175		V43
271	SD271		素振溝		須恵器(古代) 壺	G・H2
272			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 壺・甕・瓶片	G・H3
273			素振溝		土師器(古代) 壺・瓶片。須恵器(古代) 甕	H5
274			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶片。須恵器(古代) 壺・高杯	H3 ~ 8
275	SB275		掘立柱建物	S-250・255		W43
276			素振溝		土師器(古代) 磁片	H ~ J6
277			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶片。土師器(中窓?) 磁。須恵器(古代) 杯・甕・蓋。 瓦留板	J0 ~ 7
278			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 磁片	D ~ J7
279			素振溝		須恵器(古代) 磁片	I7 ~ 8
280	SB280		掘立柱建物	S-225・230・235		Z25・26
281			素振溝		土師器(古代) 杯・瓶・甕・瓶片。須恵器(古代) 甕・蓋	F5 ~ 9
282	SP282		ピット		土師器(古代) 杯。須恵器(古代) 蓋	E6
283			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶片。須恵器(古代) 磁片	D6 ~ 9
284			素振溝		須恵器(古代) 蓋	E8 ~ 14
285				欠番		
286			素振溝		須恵器(古代) 甕	D ~ F12
287			素振溝		土師器(中窓?) 磁。須恵器(古代) 甕	H7 ~ 8
288			素振溝		須恵器(古代) 磁片	H ~ 18
289			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 蓋	F ~ J8
290				欠番		
291			素振溝		土師器(古代) 磁片	F ~ 19
292			素振溝	S-258 とダブリ	土師器(古代) 高杯・甕・瓶片。須恵器(古代) 杯	G・H1 ~ 11
293	SD293		素振溝		土師器(古代) 杯	D6 ~ 14
294	SD249		素振溝		土師器(古代) 磁片。平瓦	E ~ H4
295				欠番		
296			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶片。須恵器(古代) 甕	D ~ E7
297			素振溝		須恵器(古代) 甕・蓋	P0 ~ 6
298			素振溝		土師器(古代) 磁片	E ~ H4
299			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古墳時代) 蓋。須恵器(古代) 甕・甕	E ~ J4
300				欠番		
301			素振溝		土師器(古代) 磁台・瓶片。須恵器(古代) 杯	E ~ J3
302			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 蓋	D ~ J5
303			素振溝		土師器(古代) 杯。須恵器(古代) 磁片	K0 ~ 10
304			素振溝		土師器(古代) 磁片	K0 ~ 10
305				欠番		
306			素振溝		土師器(古代) 甕・蓋・瓶片。須恵器(古代) 甕	K0 ~ 10
307			素振溝		勞生(人頭像)。土師器(古代) 杯・甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 甕・蓋	J1 ~ 10
308			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 杯・甕・蓋	J5 ~ 10
309			素振溝		土師器(古代) 甕	J9
310				欠番		
311			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 甕	J ~ K9
312			素振溝		土師器(古代) 磁片。土師器(中窓?) 磁	K7 ~ 10
313			素振溝		土師器(古代) 杯・甕・蓋・瓶・瓶片。須恵器(古代) 甕・瓦質土器片	K0 ~ 10
314			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 甕・甕・瓶片。埴土	J4 ~ 10
315				欠番		
316			素振溝		須恵器(古代) 蓋	J1 ~ 10
317			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 甕	J7 ~ 8
318			素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 甕・甕・瓶片。瓦質土器片	J1 ~ 9
319			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 杯・甕・甕・瓶片	J4 ~ 9
320				欠番		
321			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶片。須恵器(古代) 甕	J ~ K6
322			素振溝		須恵器(古代) 甕・甕	K3
323			素振溝		土師器(古代) 杯・瓶片。須恵器(古代) 磁片	I ~ K3
324			ピット		土師器(古代) 磁片	K1 ~ 2
325				欠番		
326	SD326		素振溝		土師器(古代) 磁片。須恵器(古代) 甕・甕・蓋	K0 ~ 5
327			素振溝		須恵器(古代) 杯・瓶片	J ~ K3 ~ 5
328			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片	J ~ K1
329			素振溝		土師器(古代) 甕・瓶・瓶片。須恵器(古代) 磁片	D ~ G8 ~ 9
330				欠番		

表 12 検出遺構および出土物一覧 (6)

5番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
331			ガット	土師器 (古代) 皿	F7	
332			素胎焼	須恵器 (古代) 瓦片	E ~ K1	
333			ガット	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 瓦片	J4	
334			ガット	土師器 (古代) 瓦片。土師器 (中世~) 皿 欠番	I3 ~ 4	
335						
336			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕・蓋・瓦片	G14	
337			素胎焼	土師器 (古代) 甕・蓋・瓦片	G14 ~ 15	
338			素胎焼	平丸	G14 ~ 17	
339			素胎焼	須恵器 (古代) 杯	G14 ~ 17	
340						
341			素胎焼		G20	
342			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕・蓋・瓦片。丸丸	G22 ~ 33	
343			素胎焼	須恵器 (古代) 甕	G24 ~ 25	
344			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	G24	
345						
346			素胎焼	須恵器 (古代) 甕	G24	
347			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。瓦留柵	G26	
348			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	G26	
349			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	G30	
350						
351			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	G30	
352			素胎焼	須恵器 (古代) 甕	G26	
353			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	G28 ~ 33	
354			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	G33	
355						
356			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。平丸。燃えさし	G ~ H33	
357			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。土師器 (中世~) 皿。須恵器 (古代) 甕・瓦片。輪人白 瓦柵	G ~ H32	
358			素胎焼	須恵器 (古代) 甕・瓦片	H32 ~ 33	
359			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z31	
360						
361			素胎焼	須恵器 (古代) 瓦片	Y ~ Z28 ~ 29	
362			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y28 ~ 32	
363			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z29	
364			素胎焼	土師器 (古代) 杯・瓦片。須恵器 (古代) 瓦片	Y ~ Z28 ~ 29	
365						
366			素胎焼	土師器 (古代) 杯・瓦片	Y ~ Z28	
367			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z28	
368			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z28	
369			素胎焼	須恵器 (古代) 杯	Y ~ Z27	
370						
371			素胎焼	土師器 (古代) 甕・瓦片。須恵器 (古代) 杯・甕	Y ~ Z27	
372			素胎焼	土師器 (古代) 甕・瓦片。須恵器 (古代) 杯・蓋・瓦片	Y ~ Z27	
373			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z26	
374			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z26	
375						
376			素胎焼	土師器 (古代) 杯・甕・瓦片。須恵器 (古代) 甕・蓋	Y ~ Z26	
377			素胎焼	土師器 (古代) 杯・瓦片。須恵器 (古代) 甕・瓦・ハフ・瓦片	Y ~ Z25 ~ 26	
378			素胎焼	土師器 (古代) 甕。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z25	
379			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z25	
380						
381			素胎焼	土師器 (古代) 杯・甕・瓦片。須恵器 (古代) 甕・蓋	Y ~ Z24	
382			素胎焼	土師器 (古代) 甕。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z24	
383			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z23	
384			素胎焼	須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z23	
385						
386	SD386		素胎焼	瓦質土器壁	Y ~ Z23	
387			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z22 ~ 23	
388			素胎焼	土師器 (古代) 皿	Y ~ Z22	
389			素胎焼	土師器 (古代) 皿・杯・蓋・瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z22	
390						
391			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕・瓦片	Y ~ Z22	
392			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片	Y ~ Z21	
393			素胎焼	土師器 (古代) 皿・杯・蓋・瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z21	
394			素胎焼	土師器 (古代) 高杯・瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z21	
395						
396			素胎焼	土師器 (古代) 杯・瓦片。土師器 (中世~) 皿。須恵器 (古代) 杯・甕・瓦片。 瓦留柵	Y ~ Z21	
397			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 瓦片	Y ~ Z20 ~ 21	
398			素胎焼	土師器 (古代) 瓦片。須恵器 (古代) 甕	Y ~ Z20	
399			素胎焼	土師器 (古代) 杯。須恵器 (古代) 瓦片。瓦留柵	Y ~ Z20	
400						
401			素胎焼	土師器 (古代) 甕・瓦片。須恵器 (古代) 甕・蓋・蓋	Y ~ Z20	
402			素胎焼	須恵器 (古代) 杯	Y ~ Z19	

表 13 検出遺構および出土遺物一覧 (7)

5番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
403			素振溝		土師器（古代）細片	Y・Z19
404			素振溝		土師器（古代）細片	Y・Z19
405				欠番		
406			素振溝		土師器（古代）細片	Y・Z18・19
407			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・鏡・細片	Z14～19
408			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）鏡・細片	Z14～19
409			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・鏡・細片	Y・Z18
410				欠番		
411			素振溝		須恵器（古代）杯・鏡	Y・Z18
412			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・細片	Y・Z15～18
413			素振溝		土師器（古代）鏡・細片、須恵器（古代）杯・鏡・蓋	Y・Z14～20
414			素振溝		土師器（古代）杯・鏡・細片	Y・Z17
415				欠番		
416			素振溝		土師器（古代）高杯・鏡・細片、須恵器（古代）杯・鏡・細片	Y・Z17
417			素振溝		土師器（古代）蓋・細片、須恵器（古代）蓋・鏡・蓋	Y14～20
418			素振溝		須恵器（古代）鏡	Y・Z21・22
419			素振溝		土師器（古代）蓋・細片	J～P32・33
420				欠番		
421			素振溝		土師器（古代）鏡・細片	M33
422			素振溝		土師器（古代）高杯・鏡片、平瓦	U～Z32
423			素振溝		須恵器（古代）鏡	V～Z32
424			素振溝		土師器（古代）鏡・細片	W～Z33
425				欠番		
426			素振溝		土師器（古代）鏡・細片、須恵器（古代）鏡	X～Z32
427			素振溝		土師器（古代）杯・鏡・細片、須恵器（古代）鏡	Q～Z33
428			素振溝		土師器（古代）杯・鏡片	Q～Z33
429			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）鏡・蓋・瓦	V～Z33
430				欠番		
431			素振溝		土師器（古代）盤・高杯・鏡、須恵器（古代）鏡・細片	W～Z32
432			素振溝		土師器（古代）鏡・細片	Y32・33
433			素振溝		須恵器（古代）鏡	Y・Z14
434			素振溝		須恵器（古代）鏡・蓋・鏡・細片	Z14～19
435				欠番		
436			素振溝		丸瓦	L32・33
437			素振溝		土師器（古代）細片	M32・33
438			素振溝		須恵器（古代）杯	N32・33
439			素振溝		須恵器（古代）鏡	K32・33
440				欠番		
441			素振溝		土師器（古代）鏡・蓋・細片、須恵器（古代）鏡	P43
442			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）鏡・蓋・細片	Q43
443			素振溝		土師器（古代）鏡片、須恵器（古代）蓋・蓋	R43
444			素振溝		土師器（古代）鏡片、須恵器（古代）鏡・蓋	R43
445				欠番		
446			素振溝		土師器（古代）杯・鏡・細片、須恵器（古代）鏡・細片	S43
447			素振溝		土師器（古代）杯・蓋・鏡・細片、須恵器（古代）杯・蓋・鏡・鏡・細片、縁瓦	Y43
448			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・蓋・鏡・細片、不明石製品	Z43
449			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）杯・鏡・細片	Z43
450				欠番		
451			素振溝		須恵器（古代）杯	O43
452			素振溝		須恵器（古代）蓋	O43
453			素振溝		土師器（古代）盤・杯・鏡・細片、須恵器（古代）杯・鏡・蓋	Y43
454			素振溝		土師器（古代）鏡片、須恵器（古代）杯・蓋・蓋・細片	Z43
455				欠番		
456			素振溝		土師器（古代）鏡、須恵器（古代）蓋・蓋	Q・R43
457			素振溝		須恵器（古代）鏡	R43
458			素振溝		土師器（古代）皿・杯・鏡片	R・S43
459			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）蓋・蓋・細片	S43
460				欠番		
461			素振溝		土師器（古代）高杯・鏡・細片、須恵器（古代）杯・鏡・蓋・鏡	S43
462			素振溝		土師器（古代）細片、須恵器（古代）鏡片	S・U43
463			素振溝		土師器（古代）高杯・鏡片、須恵器（古代）鏡・細片	U43
464			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）杯・蓋・蓋・不明石製品	Z43
465				欠番		
466			素振溝		土師器（古代）鏡・細片、須恵器（古代）杯・蓋・鏡・平瓦	U43
467			素振溝		土師器（古代）鏡片	R43
468			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）杯・鏡片	Q43
469			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・蓋・細片、須恵器（古代）蓋・鏡・蓋	Q43
470				欠番		
471			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）鏡	P43
472			素振溝		土師器（古代）蓋・鏡片、須恵器（古代）杯	Z・AA43
473			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・蓋・細片、須恵器（古代）盤・蓋・鏡・細片	Q43
474			素振溝		土師器（古代）盤・鏡・細片、須恵器（古代）鏡片	S43
475				欠番		
476			素振溝		土師器（古代）杯・鏡・細片、須恵器（古代）蓋・鏡・蓋・不明石製品	U43

表 14 検出遺構および出土遺物一覧 (8)

S番号	遺構名	層位	種別	所見	出土遺物	地区
477			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）杯・細片	AA43	
478			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）杯・甕・蓋	U43	
479			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）杯・甕・蓋	R43	
480				欠番		
481			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）甕・甕	V - W43	
482			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）甕・細片	W43	
483			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）杯	X43	
484			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕、小形石製品	X43	
485				欠番		
486			素版溝	土師器（古代）杯・細片。須恵器（古代）甕・甕	AA43	
487			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕・蓋・細片	S43	
488			素版溝	須恵器（古代）杯	W43	
489			素版溝	土師器（古代）甕・蓋・細片。瓦面陶	V43	
490				欠番		
491			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕・細片	U - V43	
492			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕	X43	
493			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）杯・蓋	W43	
494			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）杯・甕	W43	
495				欠番		
496	SD4%		素版溝	土師器（古代）皿・細片。須恵器（古代）甕・蓋・細片	W43	
497			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）蓋	W - X43	
498			素版溝	土師器（古代）杯・細片。須恵器（古代）甕	W43	
499			素版溝	土師器（古代）杯・甕・細片。須恵器（古代）甕・細片	X - Y43	
500		S-100 - 105			H - J0 - 33	
501			素版溝	土師器（古代）細片。須恵器（古代）杯・蓋・細片	Y43	
502			素版溝	土師器（古代）杯・蓋・細片。須恵器（古代）甕	Z43	
503			ピット	土師器（古代）杯・細片	D7	
504			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕・細片	E7 - 8	
505				欠番		
506			素版溝	須恵器（古代）甕・蓋・蓋	F0 ~ 10	
507			素版溝	土師器（古代）細片	E - 12	
508			素版溝	須恵器（古代）甕	D - K6	
509			素版溝	土師器（古代）細片	X43	
510				欠番		
511			素版溝	土師器（古代）杯・細片。須恵器（古代）甕	W43	
512			ピット	S-85 下 土師器（古代）杯・細片	S43	
513			溝		C - D10	
514		柱軸	ピット	土師器（古代）細片	J - K1	
515				欠番		
516			素版溝	土師器（古代）甕・細片。須恵器（古代）甕	K1 ~ 4	
517			ピット	土師器（古代）甕	K2	
518			ピット	土師器（古代）甕・蓋・細片。須恵器（古代）甕	K2	
519			ピット		K4	
520				欠番		
521			ピット	土師器（古代）細片	K2	
522			ピット	土師器（古代）細片。須恵器（古代）細片	J2	
523	SP523	柱軸	ピット	土師器（古代）細片。平丸	K1	
524			ピット	土師器（古代）高杯	J6	
525				欠番		
526			ピット	土師器（古代）細片。須恵器（古墳時代）杯	J6	
527			溝	土師器（古代）細片	K6 + 7	
528			セット	土師器（古代）甕・須恵器（古代）細片	K7	
529			溝	土師器（古代）杯・高杯・細片。須恵器（古代）細片	S43	
530				欠番		
531			溝		S43	

写真図版



1区調査前風景（北西から）



1-A区全景（南から）

図版 2



1-B 区西全景（南から）



1-B 区南全景（西から）



1-B 区東全景（南から）



2 区全景（東から）

図版 4



SB260 全景（東から）



SB260a 土層断面（東から）



SB260b 土層断面（東から）



SB260c 土層断面（東から）

図版 6



SB260d 土層断面（東から）



SB260e 土層断面（東から）



SB260f 土層断面（東から）



SB265 全景（北から）

図版 8



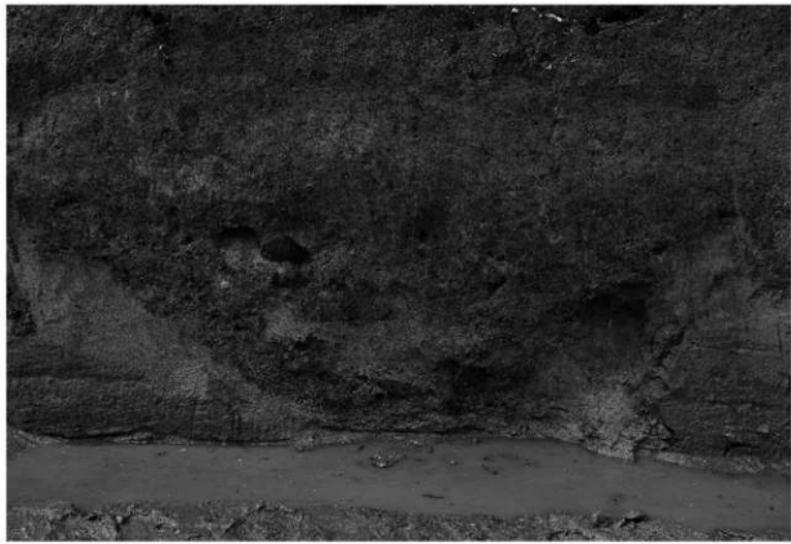
SF500 全景（南から）



SD100 馬骨出土状況（南から）



SD100 土層断面（南から）



SD105 土層断面 a-a'（南から）

図版 10



SD105 土層断面 b-b' (南から)



SE165 全景 (北から)



SE165 土層断面（北から）



SK060 土層断面（南から）

図版 12



SK070 土層断面（南から）



SK120 土層断面（西から）



SK180 土層断面（北東から）



SD200 土層断面 b-b'（南から）

図版 14



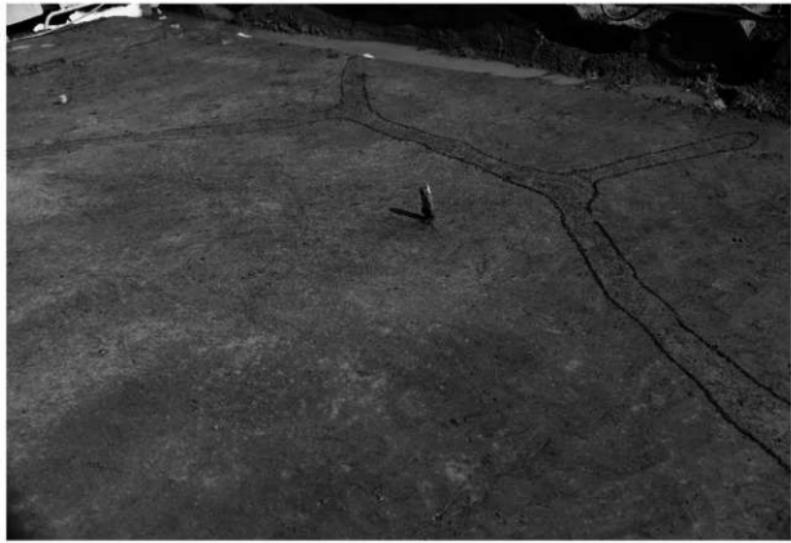
SD200 土層断面 c-c' (西から)



SD215 土層断面 (西から)



1-A 区第 2 面全景（南西から）



第 2 遺構面水田畦畔検出状況（北から）

図版 16



第 2 遺構面足跡検出状況（西から）

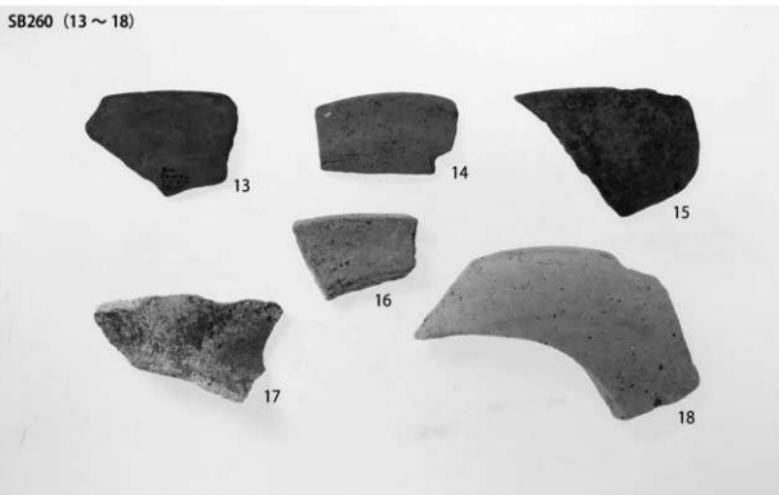


1-B 区調査後風景（東から）

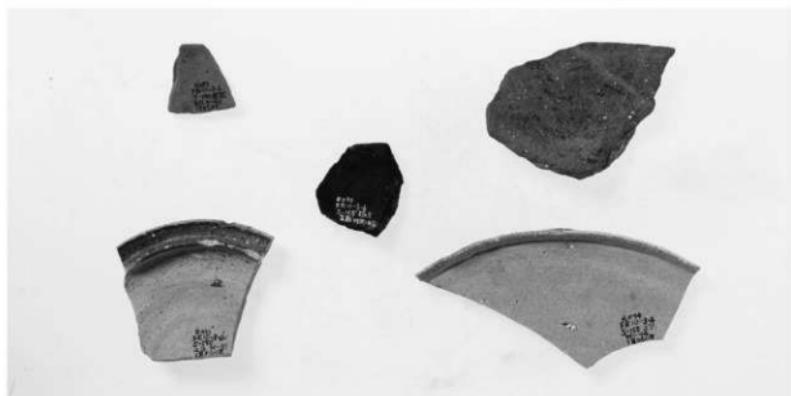
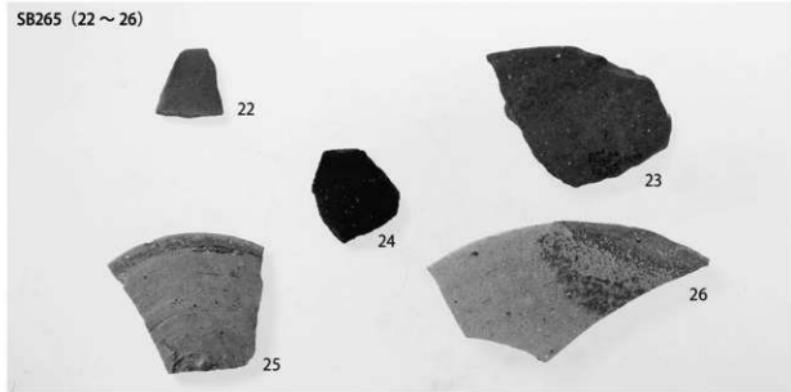
SD194 (8)



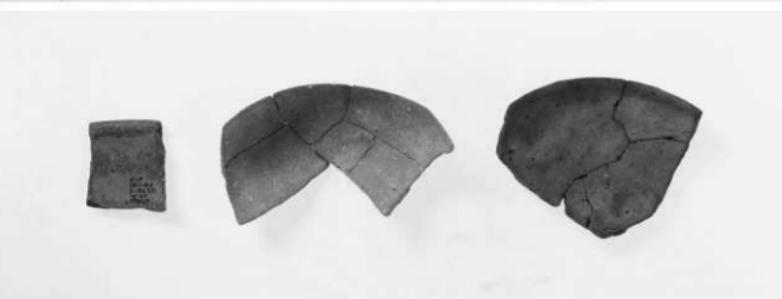
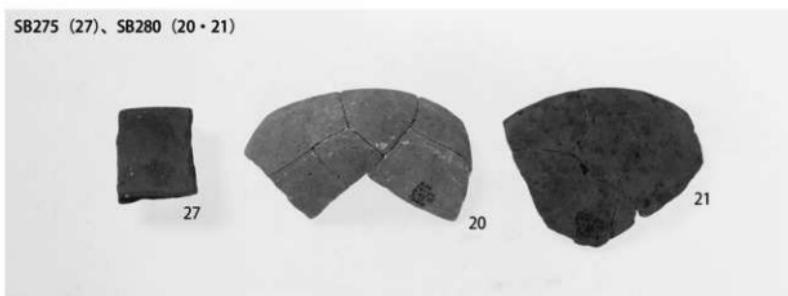
SB260 (13 ~ 18)



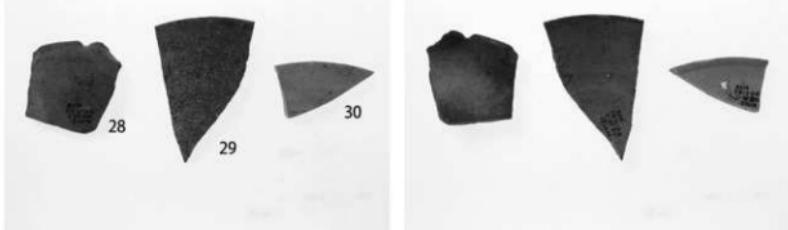
図版 18



SB275 (27)、SB280 (20・21)



SP045 (28～30)

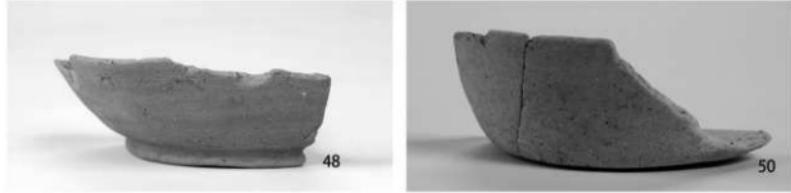
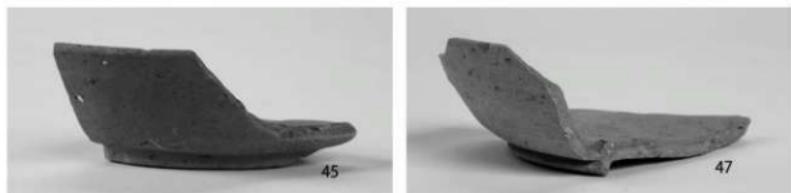
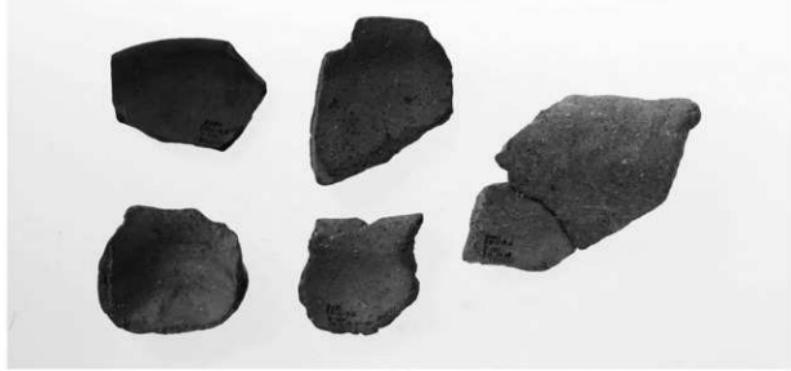
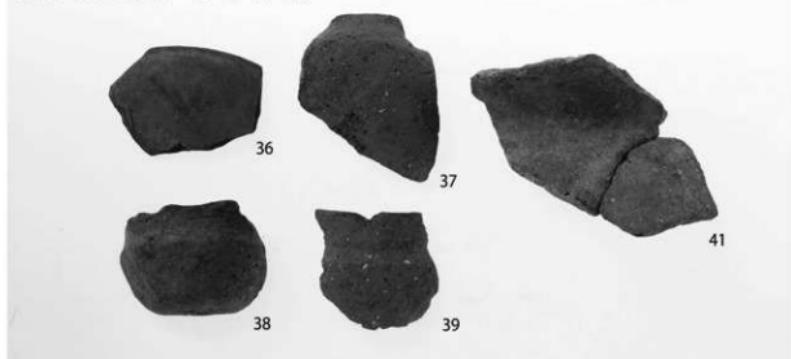


SD100 (42)



図版 20

SD100 (36 ~ 39 • 41 • 45 • 47 • 48 • 50)



SD100 (51)



51

SD105 (59 ~ 62 + 70 + 71 + 74 + 77)



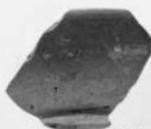
59



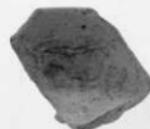
60



61



70



71



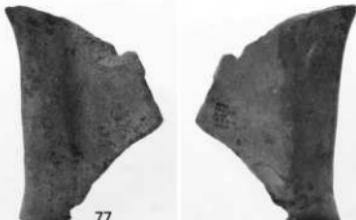
62



74



77



77

図版 22

SD105 (78 ~ 80)



SE165 (82 ~ 86 + 88)



86



88

SE165 (89 ~ 92 + 94)



89



90



91



92



94



SK060 (97 ~ 100 ~ 102)



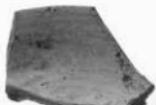
97



100

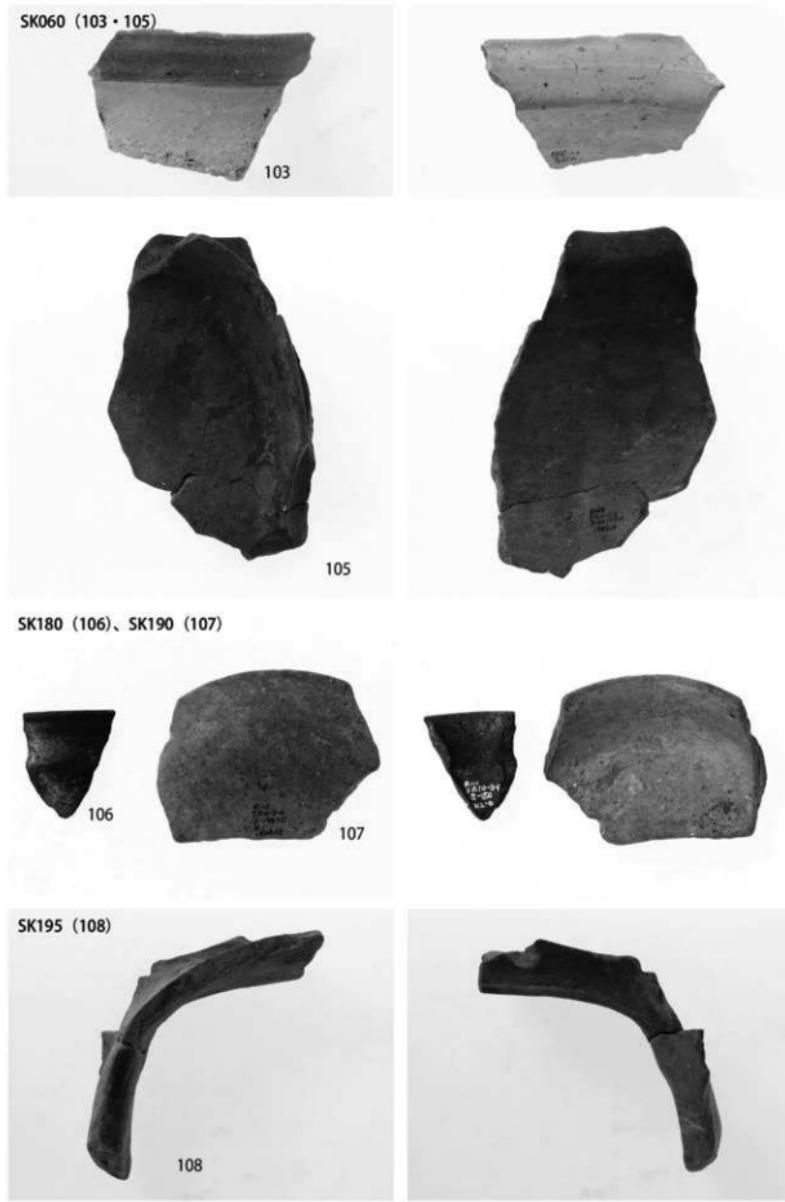


101



102

図版 24



SK070 (109)



109

SK120 (112 ~ 118)



112



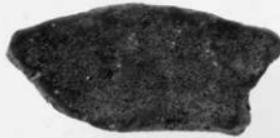
114



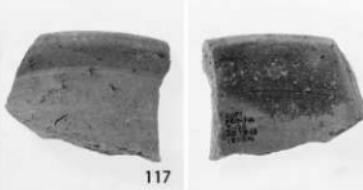
115



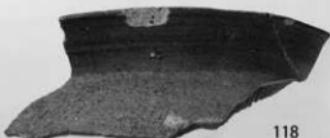
113



116

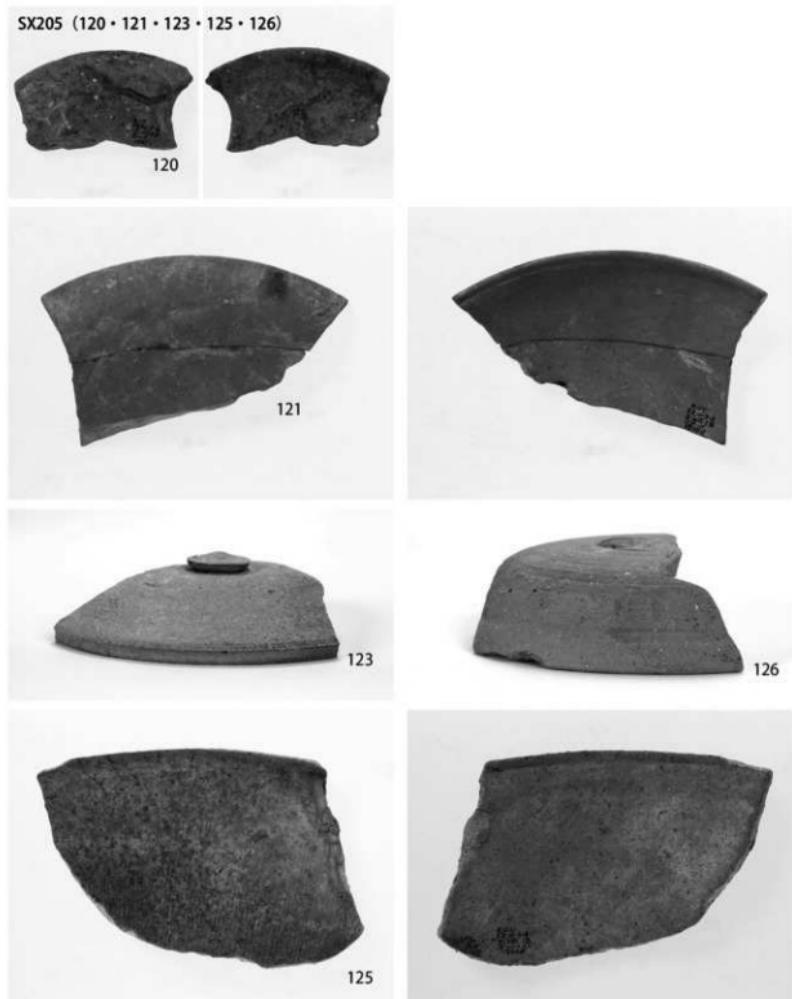


117



118

図版 26



素掘溝 (132・135・138・143・144)



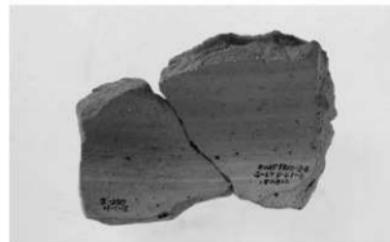
132



135



138



143

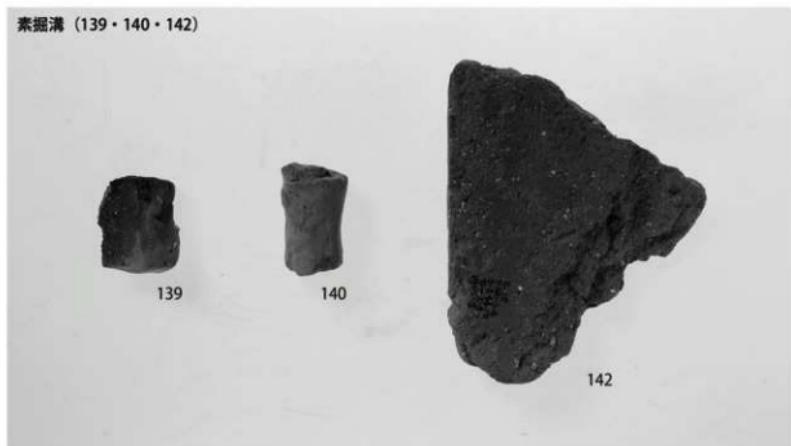


144



图版 28

素面溝 (139・140・142)



報告書抄録

藤原京右京十条三・四坊

—平成 30 年度発掘調査報告書—

2020.3.31

(発行・編集) 公益財團法人 元興寺文化財研究所

(印刷) 株式会社 明新社